

取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

AURIS



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全に お使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	24
シートベルト	26
SRS エアバッグ	30
お子さまの安全のために	39
子供専用シート	40
チャイルドシートの 取り付け	48
排気ガスに対する注意	54
1-2. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー システム	55

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	58
計器類	63
マルチインフォメーション ディスプレイ (3眼メーター)	66
マルチインフォメーション ディスプレイ (2眼メーター)	72

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	84
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
ドア (フロントドア・ リヤドア)	90
バックドア	96
スマートエントリー& スタートシステム	100
3-3. シートの調整	
フロントシート	107
リヤシート	108
ヘッドレスト	110
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	112
インナーミラー	114
ドアミラー	116
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	119

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	124
荷物を積むときの注意	135

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ （スマートエントリー& スタートシステム 非装着車）	136
エンジン（イグニッション） スイッチ （スマートエントリー& スタートシステム 装着車）	139
オートマチック トランスミッション	147
マニュアル トランスミッション	152
方向指示レバー	154
パーキングブレーキ	155

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	156
フォグランプスイッチ	161
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	162
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）	164

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	166
---------------	-----

4-5. Toyota Safety Sense C

Toyota Safety Sense C	169
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	173
LDA（レーンディパーチャー アラート/ 車線逸脱警報）	181
オートマチック ハイビーム	188
先駆車発進告知機能	192

4-6. 運転支援装置について

Toyota Stop & Start System （SMART STOP）	196
クルーズコントロール	208
4WD オートモードスイッチ	212
運転を補助する装置	214

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	221
--------------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコンと デフォッガーの使い方	
マニュアルエアコン	226
オートエアコン	232
シートヒーター	240
5-2. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧	242
・インテリアランプ	243
・パニティミラーランプ	244
・パーソナルランプ	244
5-3. 収納装備	
収納装備一覧	246
・グローブボックス	247
・コンソールボックス	247
・ボトルホルダー	248
・カップホルダー	249
・小物入れ	250
ラゲージルーム内装備	252
5-4. その他の室内装備の 使い方	
その他の室内装備	260
・サンバイザー	260
・パニティミラー	260
・時計	261
・アクセサリーソケット	262
・ステアリングスイッチ	263
・リヤアームレスト	264
・アシストグリップ	264
・パノラマルーフ シェード	265

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた	
外装の手入れ	268
内装の手入れ	272
6-2. 簡単な点検・部品交換	
ボンネット	275
ガレージジャッキ	277
ウォッシュャー液の補充	279
タイヤについて	281
タイヤ空気圧について	285
電子キーの電池交換	287
ヒューズの点検・交換	290
電球（バルブ）の交換	293
エアコンフィルターの 交換	306

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに	
故障したときは	310
非常点滅灯 （ハザードランプ）	311
発炎筒	312
車両を緊急停止するには	314

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	316
フューエルポンプシャット オフシステム	323
警告灯がついたときは	324
警告メッセージが 表示されたときは	331
パンクしたときは (応急用タイヤ装着車)	333
パンクしたときは (タイヤパンク 応急修理キット装着車)	346
エンジンが かからないときは	360
シフトレバーが シフトできないときは	362
電子キーが正常に 動かないときは	363
バッテリーが あがったときは	365
オーバーヒートした ときは	369
スタックしたときは	372

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	376
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	386
--------------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	392
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	397
アルファベット順さくいん	399
五十音順さくいん	400

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動なくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション（オートマチック車）

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDRデータの情報開示

次の場合を除き、トヨタはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- クルーズコントロール
- ABS (アンチロックブレーキシステム)
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense C

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

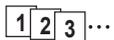
本書の見方



お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



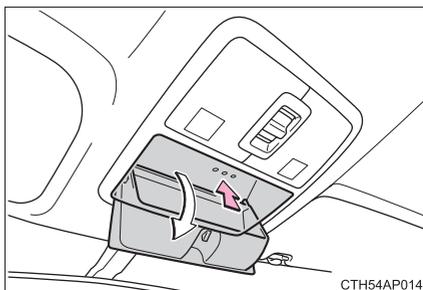
操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。



押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。



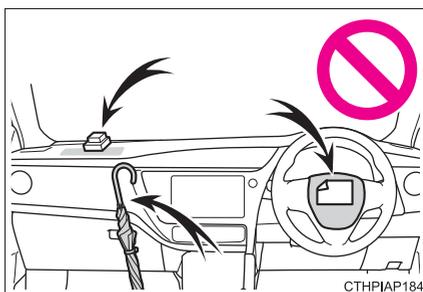
フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。



“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。

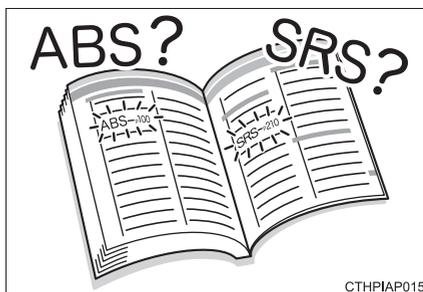


機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

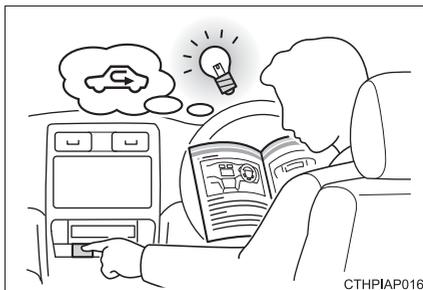
- ・ 五十音順さくいん400
- ・ アルファベット順
さくいん399



CTHPIAP015

■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次 12



CTHPIAP016

■ 症状や音から探す

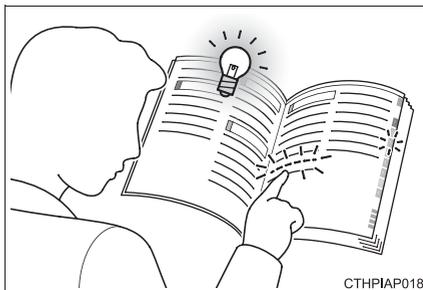
- ・ こんなときは
(症状別さくいん)392
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)397



CTHPIAP017

■ タイトルから探す

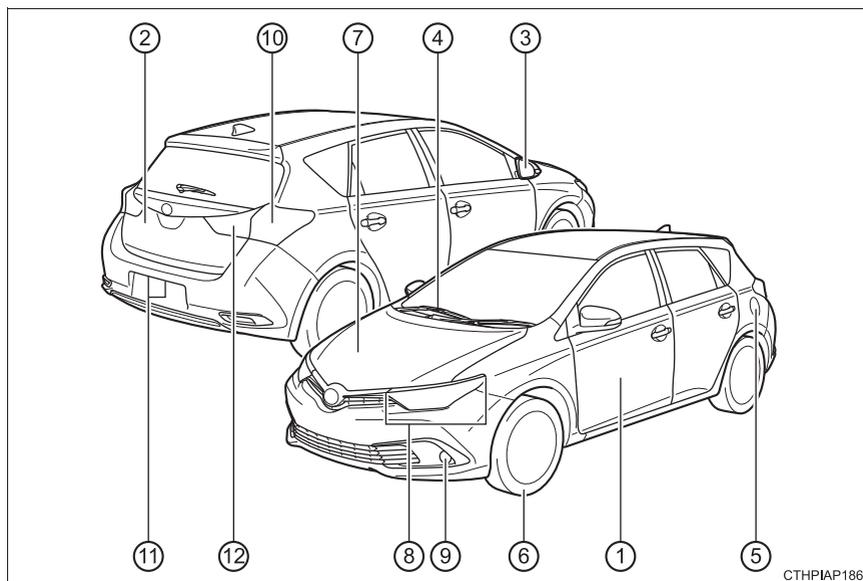
- ・ 目次2



CTHPIAP018

イラスト目次

■ 外観



CTHPIAP186

- | | | |
|-----------------|-------|-------------|
| ① ドア | | P. 90 |
| 施錠／解錠 | | P. 90 |
| ドアガラスの開閉 | | P. 119 |
| メカニカルキーでの施錠／解錠★ | | P. 363 |
| 警告灯／警告メッセージ* | | P. 324, 331 |
| ② バックドア | | P. 96 |
| 施錠／解錠 | | P. 96 |
| 警告灯／警告メッセージ* | | P. 324, 331 |
| ③ ドアミラー | | P. 116 |
| 鏡面の角度調整 | | P. 116 |
| ミラーの格納 | | P. 116 |
| 曇りを取る (ミラーヒーター) | | P. 228, 235 |

- ④ **ワイパー**.....P. 162
 冬季の注意P. 221
 凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★P. 228, 236
- ⑤ **給油口**.....P. 166
 給油方法P. 166
 燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 376
- ⑥ **タイヤ**.....P. 281
 サイズ・空気圧.....P. 384
 冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 221
 点検・ローテーション.....P. 281
 パンク時の対処.....P. 333, 346
- ⑦ **ボンネット**.....P. 275
 開け方.....P. 275
 エンジンオイル.....P. 377
 オーバーヒート時の対処.....P. 369

走行に関わる外装のランプバルブ

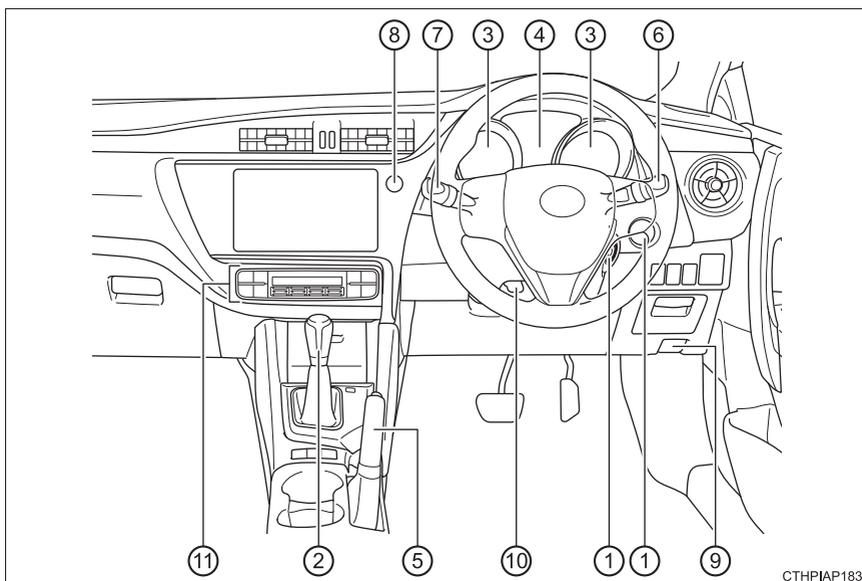
（交換要領：P. 293, ワット数：P. 385）

- ⑧ **ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト★・
 方向指示灯**.....P. 154, 156
- ⑨ **フロントフォグランプ★**.....P. 161
- ⑩ **尾灯／制動灯・方向指示灯**.....P. 154, 156
- ⑪ **番号灯**.....P. 156
- ⑫ **尾灯**.....P. 156
後退灯
 シフトポジションを R にするP. 147, 152

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※：2眼メーター装着車

■ インストルメントパネル



CTHPIAP183

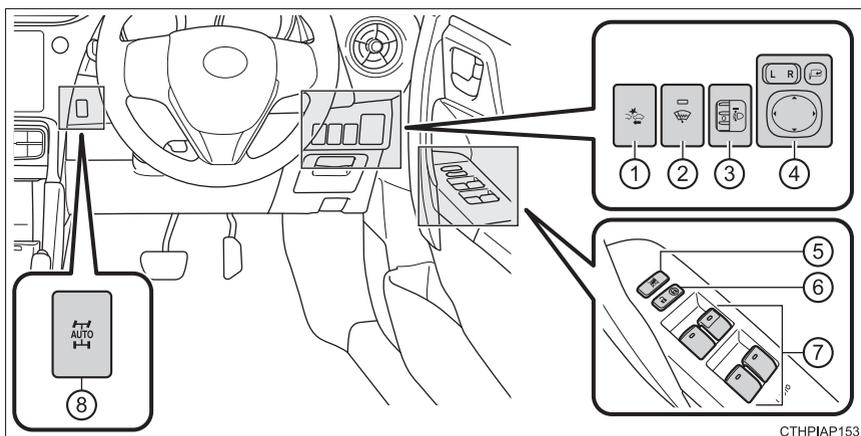
- ① **エンジンスイッチ** P. 136, 139
 エンジンの始動・モード切りかえ P. 136, 139
 エンジンの緊急停止 P. 314
 エンジンが始動できないときの対処 P. 360
 警告メッセージ*¹ P. 331
- ② **シフトレバー** P. 147, 152
 シフトポジションの切りかえ P. 147, 152
 けん引時の注意 P. 316
 シフトレバーが動かないときの対処*² P. 362
- ③ **メーター** P. 63
 見方・明るさの調整 P. 63
 警告灯/表示灯 P. 58
 警告灯点灯時の対処 P. 324

- ④ マルチインフォメーションディスプレイ P. 66, 72
 - 表示内容 P. 66, 72
 - 警告メッセージ表示時の対処※¹ P. 331
- ⑤ パーキングブレーキ P. 155
 - かける・解除する P. 155
 - 冬季の注意 P. 222
 - 警告ブザー／警告メッセージ※¹ P. 324, 331
- ⑥ 方向指示レバー P. 154
 - ランプスイッチ P. 156
 - ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト★・尾灯 P. 156
 - フロントフォグランプ★ P. 161
- ⑦ ワイパー&ウォッシャースイッチ P. 162
 - 使い方 P. 162
 - ウォッシャー液の補充 P. 279
- ⑧ 非常点滅灯スイッチ P. 311
- ⑨ ボンネット解除レバー P. 275
- ⑩ ハンドル位置調整レバー P. 112
 - 調整方法 P. 112
- ⑪ エアコン P. 226, 232
 - 操作方法 P. 226, 232
 - リヤウィンドウの曇り取り
(リヤウインドウデフォグガー) P. 228, 235

※¹：2眼メーター装着車※²：オートマチック車

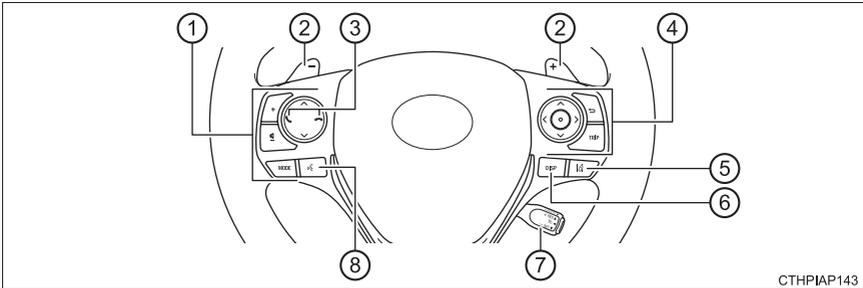
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■スイッチ類



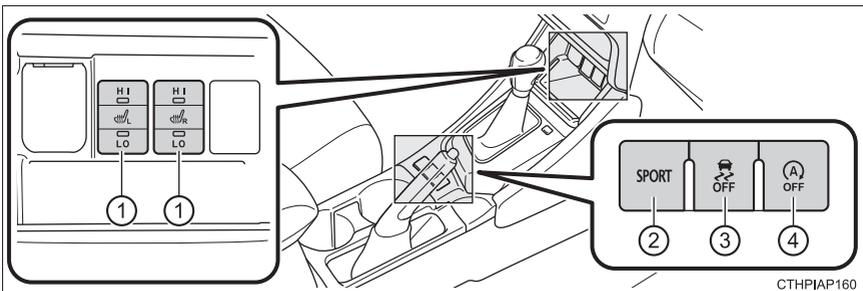
CTHPIAP153

- ① PCS (プリクラッシュセーフティシステム) スイッチ★P. 173
- ② フロントワイパーデアイサースイッチ★.....P. 228, 236
- ③ 手動光軸調整ダイヤル★P. 158
- ④ ドアミラースイッチP. 116
- ⑤ ウィンドウロックスイッチP. 119
- ⑥ ドアロックスイッチP. 93
- ⑦ パワーウィンドウスイッチP. 119
- ⑧ 4WD オートモードスイッチ★.....P. 212



CTHIAP143

- ① オーディオスイッチP. 263
- ② パドルシフトスイッチ★P. 148
- ③ 電話スイッチP. 263
- ④ メーター操作スイッチ※¹ P. 74, 75
- ⑤ LDA (レーンディパーチャーアラート) スイッチ★P. 181
- ⑥ DISP スイッチ※² P. 67
- ⑦ クルーズコントロールスイッチ★P. 208
- ⑧ トルクスイッチP. 263



CTHIAP160

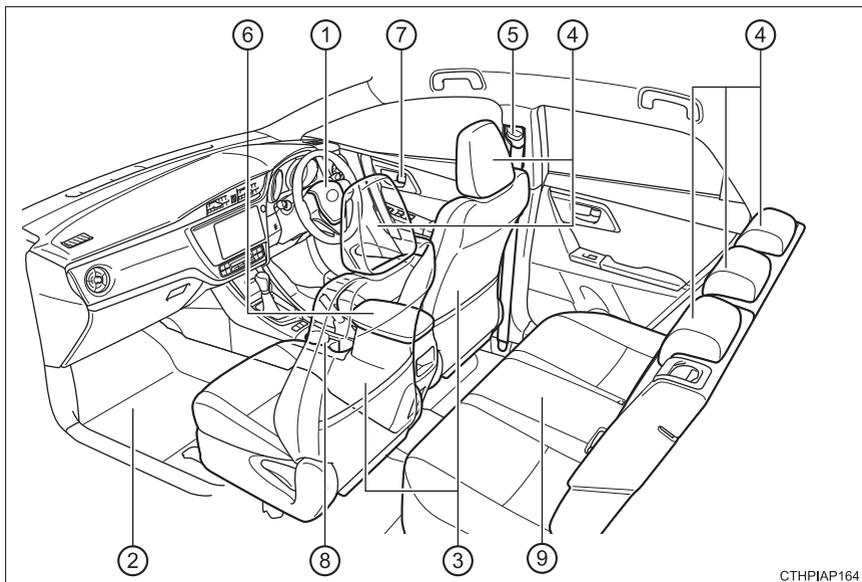
- ① シートヒータースイッチ★P. 240
- ② スポーツモードスイッチ★P. 148
- ③ VSC OFF スイッチP. 215, 216
- ④ Stop & Start キャンセルスイッチ★P. 198

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹：2眼メーター装着車

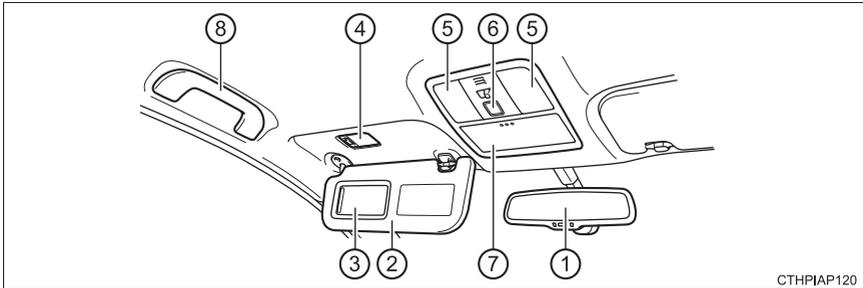
※²：3眼メーター装着車

■ 室内



CTHPIAP164

- ① SRSエアバッグ P. 30
- ② フロアマット P. 22
- ③ フロントシート P. 107
- ④ ヘッドレスト P. 110
- ⑤ シートベルト P. 26
- ⑥ コンソールボックス P. 247
- ⑦ ロックレバー P. 93
- ⑧ カップホルダー P. 249
- ⑨ リヤシート P. 108



CTHPIAP120

①	インナーミラー	P. 114
②	サンバイザー※	P. 260
③	バニティミラー	P. 260
④	バニティミラーランプ★	P. 244
⑤	インテリアランプ／パーソナルランプ	P. 243
⑥	パノラマルーフシェードスイッチ★	P. 265
⑦	小物入れ	P. 250
⑧	アシストグリップ★	P. 264

※：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 53)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全に

お使いいただくために

運転する前に.....	22
安全なドライブのために	24
シートベルト.....	26
SRS エアバッグ.....	30
お子さまの安全のために	39
子供専用シート.....	40
チャイルドシートの 取り付け.....	48
排気ガスに対する注意	54

1-2. 盗難防止装置

エンジンイモビライザー システム.....	55
--------------------------	----

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

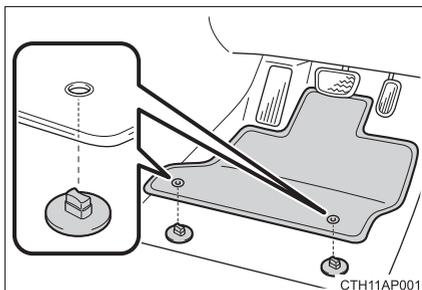
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

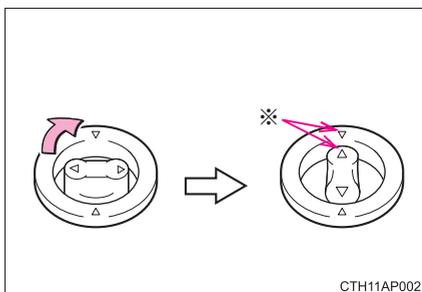
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

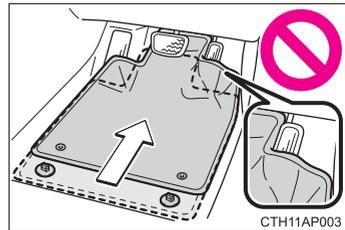
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P（オートマチック車）または N（マニュアル車）の状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

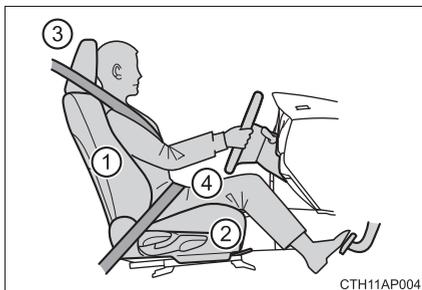


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
(→ P. 107)
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
(→ P. 107)
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする
(→ P. 110)
- ④ シートベルトを正しく着用する
(→ P. 26)



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
(→ P. 26)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 40)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→ P. 114, 116)

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

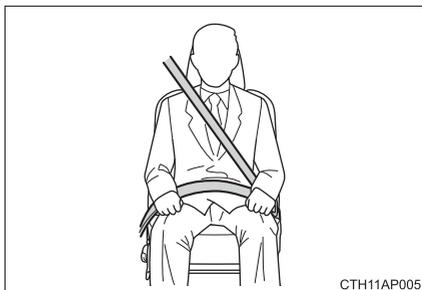
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

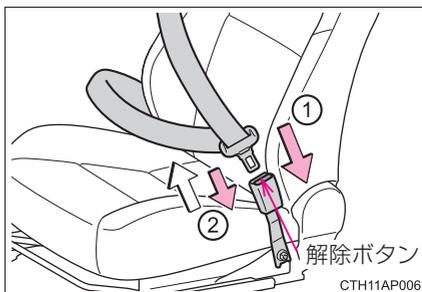
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



CTH11AP005

着け方・はずし方

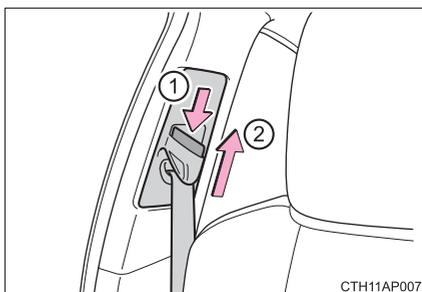
- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



CTH11AP006

シートベルトの高さ調節（フロント席）

- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



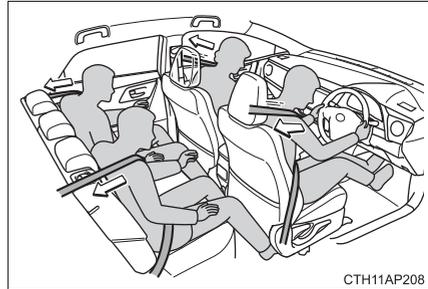
CTH11AP007

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：フロント席のシートベルトプリテンショナーは、側方から強い衝撃を受けたときも作動します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

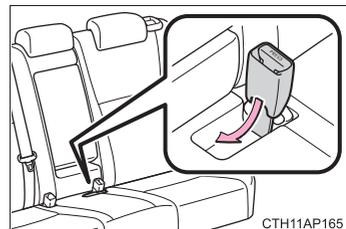
- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→ P. 40）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ リヤ中央席シートベルトを使用したあとは

バックルを格納してください。



警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

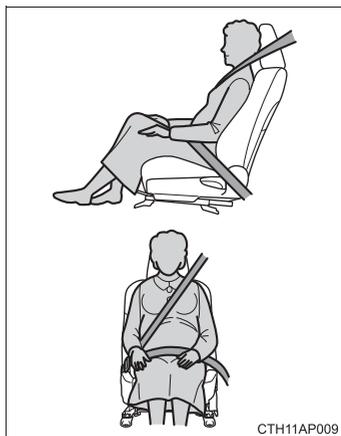
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 26)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

 **警告****■ お子さまを乗せるとき**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

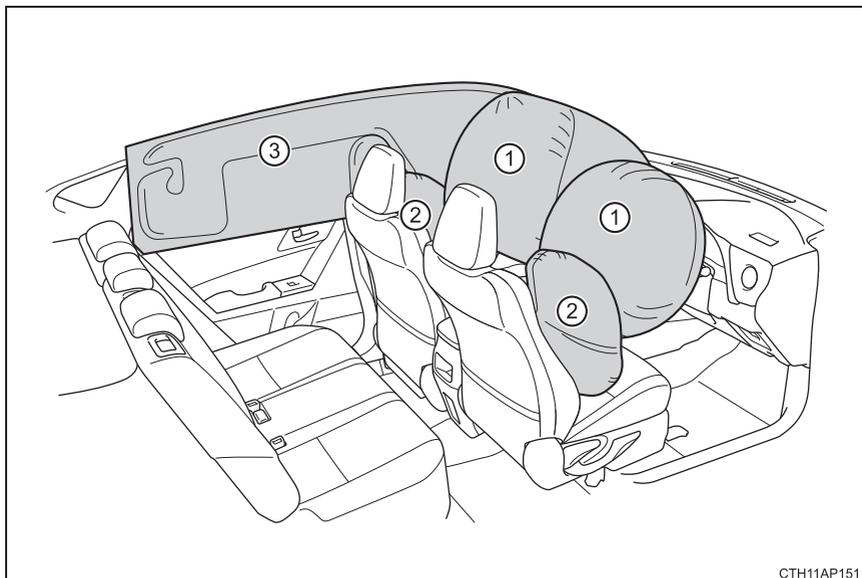
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★

- ② SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ③ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

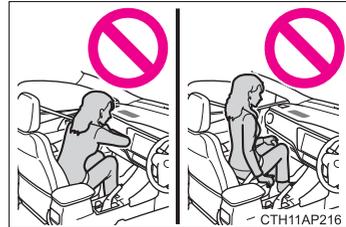
警告

■ SRS エアバッグについて

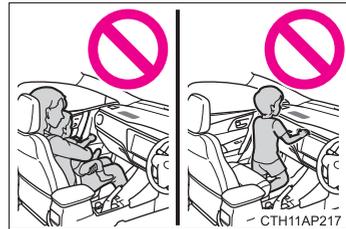
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 40)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



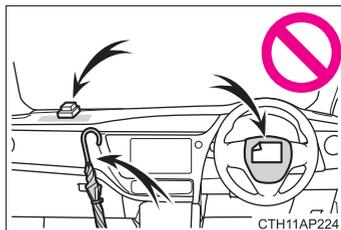
警告

■ SRSエアバッグについて

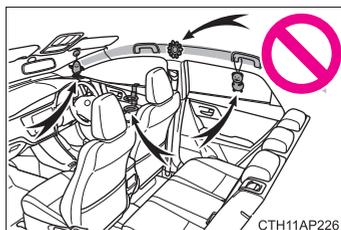
- SRSサイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- SRSサイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く：→ P. 352)



- SRSサイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRSサイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

 **警告****■ SRS エアバッグについて**

- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたきなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ非装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。
SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動するとき**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- SRS カーテンシールドエアバッグ非装着車：フロント席などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：フロント席・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20～30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★）

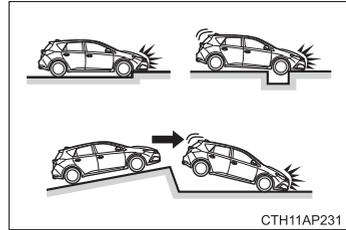
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20～30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグ★が作動する場合があります。

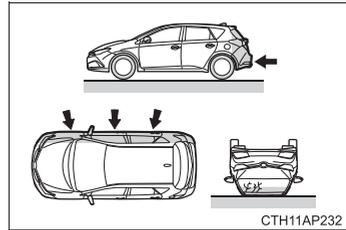
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

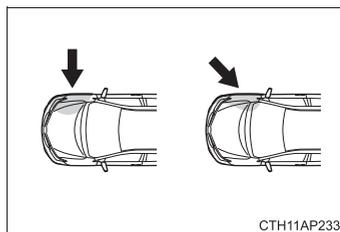


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

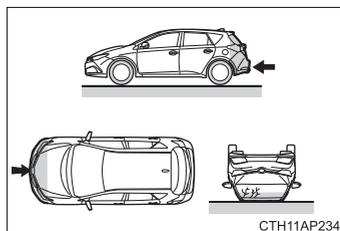
- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



CTH11AP233

SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

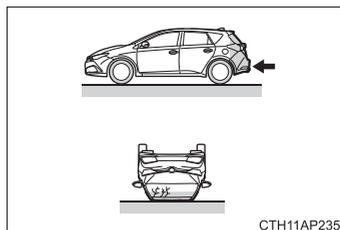
- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



CTH11AP234

SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 後方からの衝突
- 横転



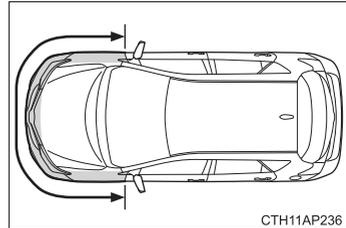
CTH11AP235

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

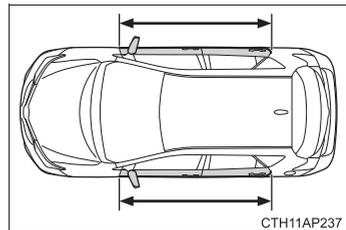
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

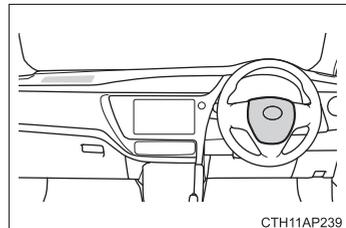
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★はふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

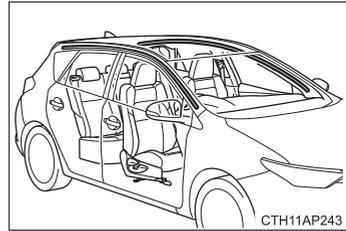


- SRS サイドエアバッグ★が内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- SRS カーテンシールドエアバッグ★が内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 40)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 94)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 119)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 48)

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0: 10kg まで

グループ0+: 13kg まで

グループI: 9 ~ 18kg

グループII: 15 ~ 25kg

グループIII: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0⁺に相当



▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0⁺、I に相当



▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ II、III に相当



シート位置別子供専用シート適合性一覧表 (シートベルトでの取り付け)

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kgまで）	×	U	U
0 ⁺ （13kgまで）	×	U	U
I（9～18kg）	前向き UF [*]	U	U
	うしろ向き×		
II（15～25kg）	UF [*]	U	U
III（22～36kg）	UF [*]	U	U

● 上表に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向きの子供専用シートに適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

^{*} フロントシートの背もたれを直立状態にする。
フロントシートをいちばんうしろに下げる。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表 (ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
O (10kg まで)	E	ISO/R1	IL
O ⁺ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF, IL
	B1	ISO/F2X	IUF, IL
	A	ISO/F3	IUF, IL
II (15 ~ 25kg)		(1)	×
III (22 ~ 36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示 (A から G) のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用 (ユニバーサル) カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL : この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

× : ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

 知識**■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて**

この車に標準装備されているISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→ P. 42) を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 43) を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「O⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順**1**で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1) : 質量グループが「O⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。

- ③ 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。

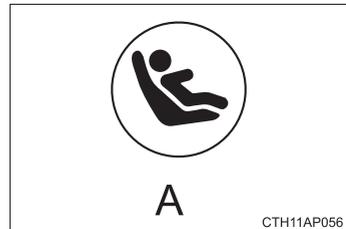
※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



- ① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

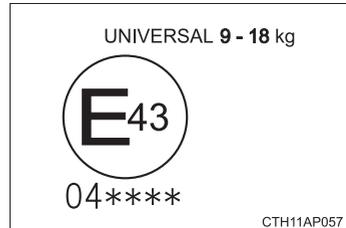
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順②で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

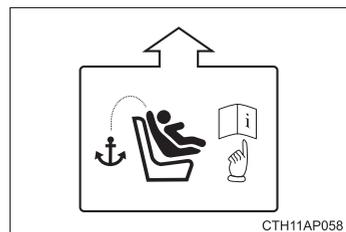


- ② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表し、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



- ③ トップテザー（→ P. 48）を示すマーク
商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

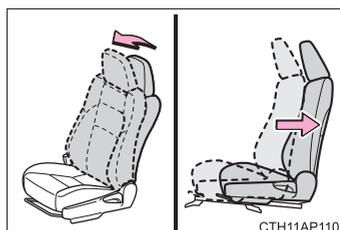
A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■ 助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる

子供専用シートが、内装やヘッドレストにあたるなどしてうまく取り付けできない場合は、シートの前後位置や背もたれの角度を調節、またはヘッドレストを取りはずしてください。



■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

 **警告****■ 子供専用シートを使用しない場合**

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。
また、子供専用シートを取り付けたときにヘッドレストをはずした場合は、運転する前にヘッドレストを取り付けてください。急激なハンドル操作・ブレーキ操作を行ったときや衝突時などに重大な傷害につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

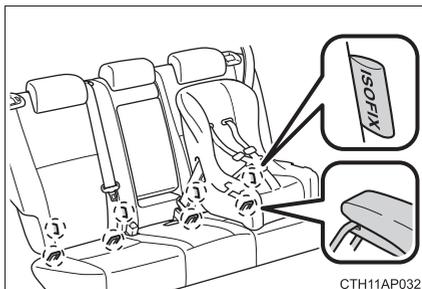
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
(→ P. 49)



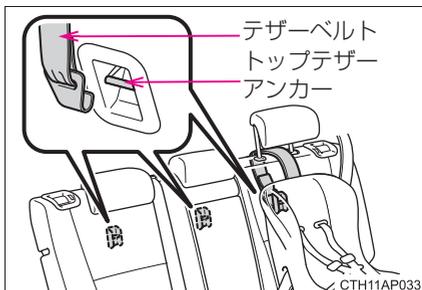
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→ P. 50)

リヤ外側シートに装備されています。
(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



トップテザーアンカー (→ P. 51)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。



シートベルトで固定する

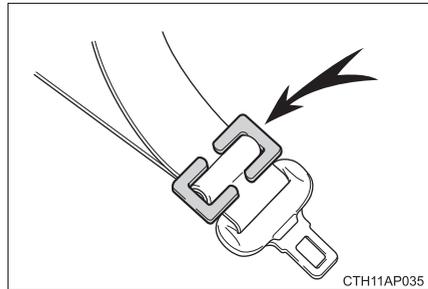
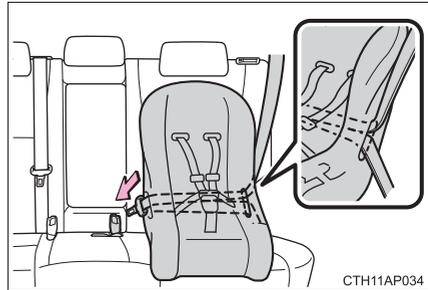
- 1 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートが、ヘッドレストにあたりうまく取り付けできない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。

- 2 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

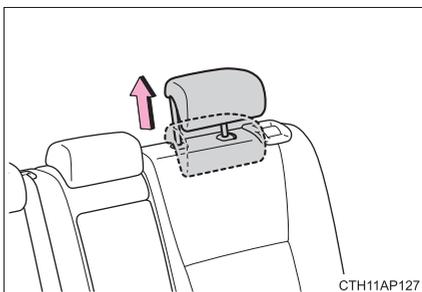
ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロックングクリップ品番：73119-22010）



取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

- 1 ヘッドレストをいちばん上まで上げる



CTH11AP127

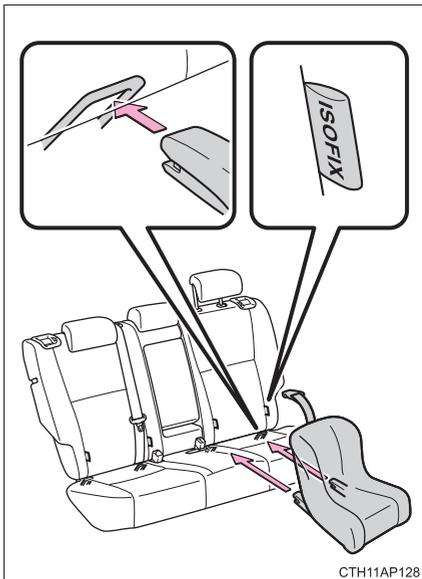
- 2 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

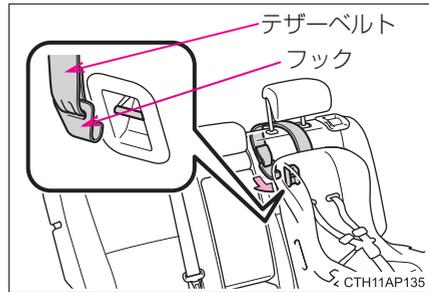
チャイルドシートが、ヘッドレストにあたりうまく取り付けできない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。



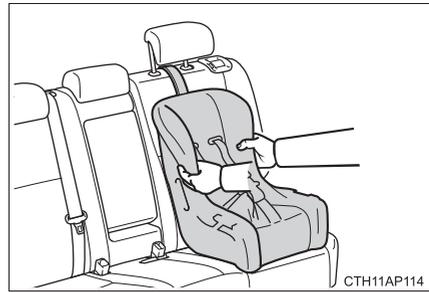
CTH11AP128

- 3 パッケージトレイを取りはずす (→ P. 258)

- 4 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める
テザーベルトはヘッドレストの下を通してください。
テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



- 5 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する



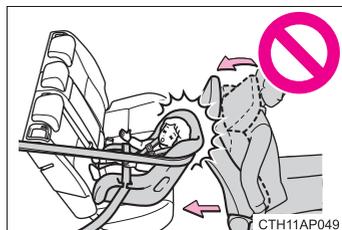
警告

■チャイルドシートについて

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ装着車：チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



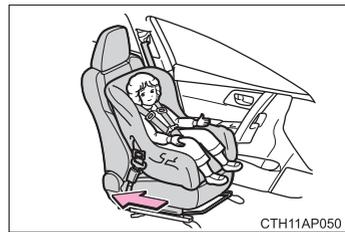
警告

■チャイルドシートを取り付けるとき



- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジンモビライザーシステム

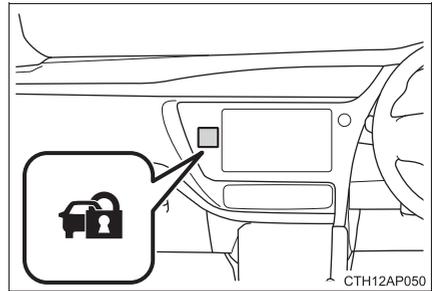
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

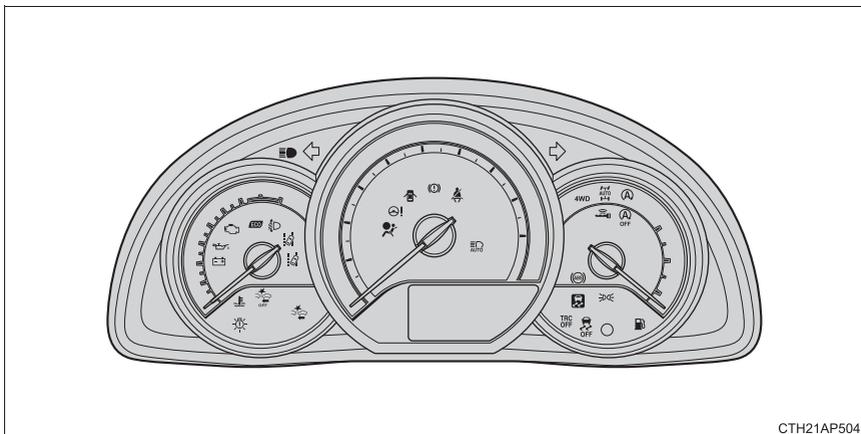
2. 計器の見方	
警告灯／表示灯.....	58
計器類.....	63
マルチインフォメーション ディスプレイ (3眼メーター).....	66
マルチインフォメーション ディスプレイ (2眼メーター).....	72

警告灯／表示灯

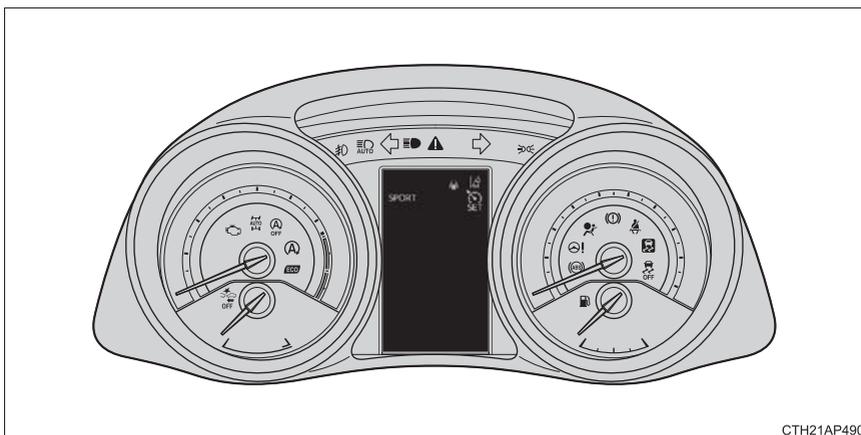
メーター・センターパネルの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ 3眼メーター



▶ 2眼メーター



警告灯

システム異常などを警告します。



※ ブレーキ警告灯
(→ P. 324)



※ ABS & ブレーキアシスト警告灯 (→ P. 325)



※ 充電警告灯★
(→ P. 324)



※ パワーステアリング警告灯 (→ P. 325)



※ 油圧警告灯★
(→ P. 324)



※ オートマチックハイビーム表示灯★ (→ P. 325)



※ 高水温警告灯★
(→ P. 324)



※ LED ヘッドランプ警告灯★ (→ P. 325)



※ エンジン警告灯
(→ P. 324)



※ ヘッドランプオートレベリング警告灯★
(→ P. 325)



※ SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯
(→ P. 325)



※ LDA (レーンディパーチャーアラート) 表示灯★ (→ P. 325)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

	※ スリップ表示灯 (→ P. 325)	 (緑色) (速い点滅)	スマートエントリー&スタートシステム表示灯★ (→ P. 329)
 (点滅)	※ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) 警告灯★ (→ P. 326)	 (黄色)	スマートエントリー&スタートシステム表示灯★ (→ P. 326)
 (点滅)	※ Stop & Start キャンセル表示灯★ (→ P. 326)		燃料残量警告灯 (→ P. 327)
	※ 4WD 警告灯★ (→ P. 326)		シートベルト非着用警告灯 (→ P. 327)
	※ 半ドア警告灯★ (→ P. 326)		※ マスターウォーニング★ (→ P. 327)

※ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON” (スマートエントリー&スタートシステム非装着車) またはイグニッション ON モード (スマートエントリー&スタートシステム装着車) にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 154)



クルーズコントロールセッ
ト表示灯★ (→ P. 208)



尾灯表示灯 (→ P. 156)



LDA (レーンディパー
チャーアラート) 表示灯★
(→ P. 181)



ハイビーム表示灯
(→ P. 156)



※ 1
TRC OFF 表示灯★
(→ P. 215)



※ 1
オートマチックハイビーム
表示灯★ (→ P. 188)
(緑色)



※ 1
スリップ表示灯
(→ P. 215)



フロントフォグランプ
表示灯★ (→ P. 161)



※ 1
VSC OFF 表示灯
(→ P. 215)



クルーズコントロール表示
灯★ (→ P. 208)
(緑色)



PCS (プリクラッシュセー
フティシステム) 作動表示
灯★ (→ P. 173)
(点滅)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

<p>※¹  PCS (プリクラッシュセーフティシステム) 警告灯★ (→ P. 173)</p>	<p>※¹  4WDオートモード表示灯★ (→ P. 212)</p>
<p>※¹  Stop & Start 表示灯★ (→ P. 196)</p>	<p> スポーツモード表示灯★ (→ P. 148)</p>
<p>※¹  Stop & Start キャンセル表示灯★ (→ P. 198)</p>	<p> スマートエントリー&スタートシステム表示灯★ (緑色) (→ P. 139)</p>
<p>※¹  エコドライブインジケータランプ★ (→ P. 70, 79)</p>	<p>※³  低温表示灯★ (→ P. 63)</p>
<p>※²  エンジンイモビライザーシステム表示灯 (→ P. 55)</p>	

※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON” (スマートエントリー&スタートシステム非装着車) またはイグニッション ON モード (スマートエントリー&スタートシステム装着車) にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² センターパネルに表示されます。

※³ 外気温が約 3℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に、点灯します。

警告

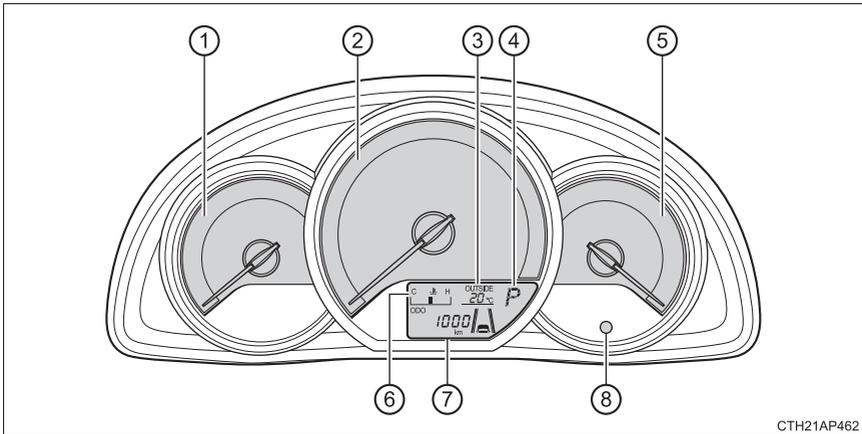
■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチを“ON” (スマートエントリー&スタートシステム非装着車) またはイグニッション ON モード (スマートエントリー&スタートシステム装着車) にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

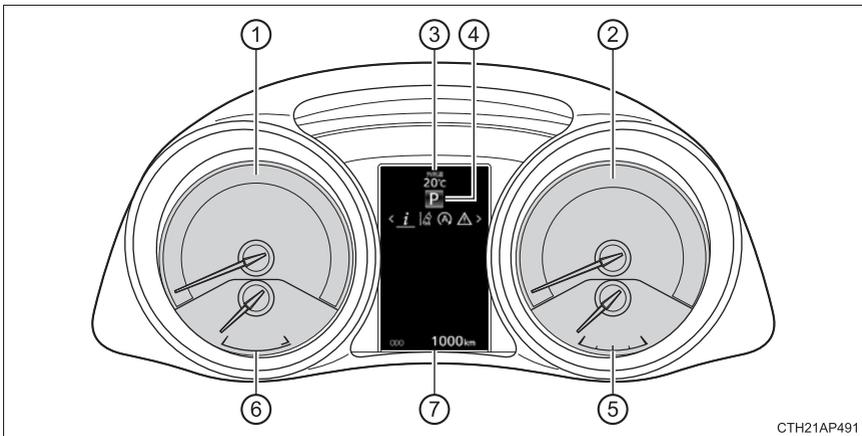
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類

▶ 3眼メーター



▶ 2眼メーター



- ① タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。
- ② スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ③ 外気温
外気温を -40°C ~ 50°C の間で表示します。
2 眼メーター：外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点灯します。
- ④ シフトポジション・変速段表示★
→ P. 147
- ⑤ 燃料計
燃料残量を示します。
- ⑥ 水温計
エンジン冷却水の温度を示します。
3 眼メーター：平均燃費表示中は、水温計がエコドライブインジケーターゾーン表示に切りかわります。(→ P. 70)
- ⑦ マルチインフォメーションディスプレイ
→ P. 66, 72
- ⑧ 表示切りかえスイッチ
マルチインフォメーションディスプレイの表示項目を切りかえます。
ハンドルにある DISP スイッチでも、表示切りかえスイッチと同じように表示を切りかえることができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識■ **メーター・ディスプレイの作動条件**

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ON” のとき
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **外気温表示について**

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 15km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” が表示され続ける場合は、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

 **注意**■ **エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 次の場合は、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 369）
 - ・ 3 眼メーター：高水温警告灯が点灯したとき
 - ・ 2 眼メーター：水温計の針がレッドゾーンに入ったとき

マルチインフォメーションディスプレイ (3眼メーター)

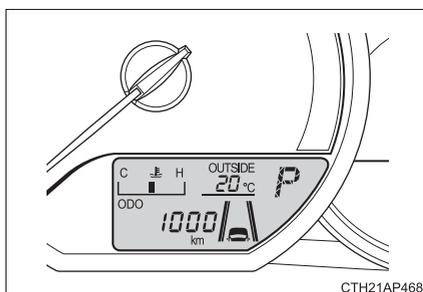
表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示したり、設定を切りかえることができます。

- 水温計 (→ P. 63)
- 外気温 (→ P. 63)
- シフトポジション・変速段表示 (→ P. 147)
- トリップインフォメーション／ドライブインフォメーション／メーター照度調整 (→ P. 67)

表示される項目は次のとおりです。

- ・ オドメーター
- ・ トリップメーター
- ・ アイドリングストップ時間★
- ・ 総アイドルストップ時間★
- ・ 平均燃費
- ・ 航続可能距離
- ・ メーター照度調整
- LDA (レーンディパーチャーアラート) / 先行車発進告知表示 (→ P. 181, 192)
- 設定 (→ P. 68)



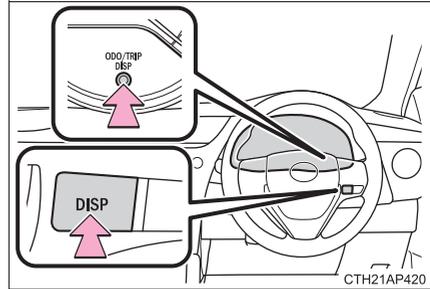
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トリップインフォメーション／ドライブインフォメーション／メーター照度調整

◆ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえスイッチかDISPスイッチを押します。

スイッチを押すごとに表示される項目が切りかわります。



◆ 表示項目

■ オドメーター

画面内に ODO と表示されます。
走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A / トリップメーター B

画面内に TRIP **A** / TRIP **B** と表示されます。

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえスイッチか DISP スイッチを長押しします。

■ アイドリングストップ時間★

画面内に **A** と表示されます。

エンジンを始動してから OFF にするまでのアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジン停止時間) を表示します。

■ 総アイドリングストップ時間★

画面内に TRIP **A** と表示されます。

リセットしてからのアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジンの停止時間) を通算で表示します。

リセットするには、総アイドリングストップ時間を表示中に表示切りかえスイッチか DISP スイッチを長押しします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 平均燃費

画面内に **AVG.** と表示されます。

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費表示中に表示切りかえスイッチか DISP スイッチを長押しします。
- ・ 平均燃費表示中は、水温計がエコドライブインジケータゾーン表示 (→ P. 70) に切りかわります。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離

画面内に **RANGE** と表示されます。

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- ・ 給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ メーター照度調整

メーターの明るさを表示します。

- ・ メーター照度調整表示は、夜照度[※]の時のみ表示することができます。
- ・ 夜照度[※]の明るさのみ調整することができます。
- ・ 明るさを調整するには、メーター照度調整表示中に表示切りかえスイッチか DISP スイッチを長押しします。

※ 夜照度：→ P. 70

設定

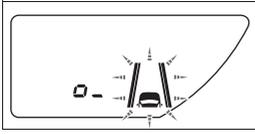
◆ 設定変更のしかた

- 1 オドメーター表示中にメーターの表示切りかえスイッチかハンドルの DISP スイッチを長押しし、画面を設定モードに切りかえる
- 2 表示切りかえスイッチか DISP スイッチを押し、設定を変更したい項目を表示させる
スイッチを押すごとに項目が切りかわります。
- 3 表示切りかえスイッチか DISP スイッチを長押しし、設定を変更する
スイッチを長押しするごとに設定が切りかわります。

設定モードを終了するには、画面に **End** が表示されるまで表示切りかえスイッチか DISP スイッチを押しした後、スイッチを長押ししてください。

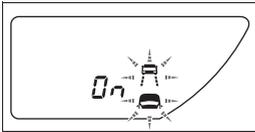
◆ 設定変更できる項目

■ LDA (レーンディパーチャーアラート) 警報感度★



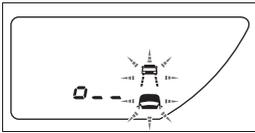
LDA 表示部が点滅します。
LDA の警報感度を 2 段階から選択することができます。

■ 先行車発進告知★



先行車発進告知の表示部が点滅します。
先行車発進告知の作動・非作動を選択することができます。

■ 先行車発進告知の告知タイミング★



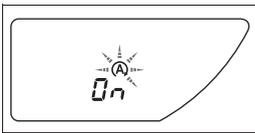
先行車発進告知の表示部が点滅します。
先行車発進告知の告知タイミングを 3 段階から選択することができます。

■ エコドライブインジケータランプ



エコドライブインジケータランプが点滅し
ます。
エコドライブインジケータランプの作動・非作
動を選択することができます。

■ アイドリングストップ時間割り込み表示★



画面内の (A) が点滅します。
アイドリングストップ中の割り込み表示の表示・
非表示を選択することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■エコドライブインジケータ

- ① エコドライブインジケータランプ
環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。
必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

- ② エコドライブインジケータゾーン表示
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

- ③ 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケータゾーン表示の右側が点滅します。
このとき、エコドライブインジケータランプは消灯します。

- ④ エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケータは作動しません。

- シフトレバーがD以外にあるとき
- 車速が約100 km/h以上のとき

■メーターの照度について（昼照度と夜照度）

- メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次の時に照度が切りかわります。

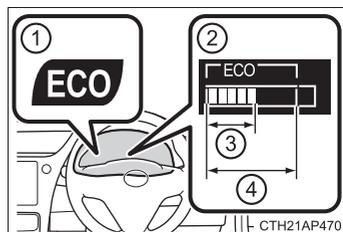
▶ランプ自動点灯・消灯システム非装着車

- ・昼照度：車幅灯を消灯しているとき
- ・夜照度：車幅灯を点灯しているとき

▶ランプ自動点灯・消灯システム装着車

- ・昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき
- ・夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

- 夜照度になるとメーター照明が減光されます。ただし、夜照度の設定をいちばん明るくした状態では減光されません。



■ 設定画面の操作について

- 車両走行中は画面を設定モードに切り替えることができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 次の場合は設定モードが中断され、もとの画面に戻ります。
 - ・ しばらく操作しなかったとき
 - ・ 車両が走行し始めたとき

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うとき、次のデータはリセットされます。

- 平均燃費
- 航続可能距離

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

⚠ 警告

■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作するときは、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がシフトダウンしなかったと誤解し、再度シフトダウンすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

マルチインフォメーションディスプレイ（2眼メーター）

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示したり、設定を切りかえることができます。

- 外気温（→ P. 63）
- シフトポジション・変速段表示★（→ P. 147）
- 割り込み表示

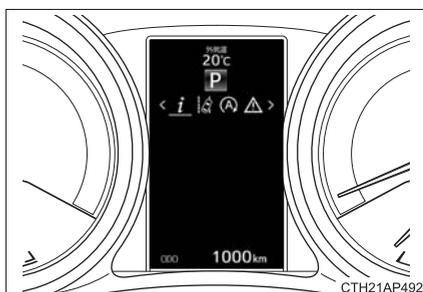
各システムの作動状況や警告メッセージを、状況に応じて自動で表示します。

一部の割り込み表示は、表示／非表示を切りかえることができます。（→ P. 78）

- トリップインフォメーション／メーター照度調整（→ P. 74）

表示される項目はつぎのとおりです。

- ・ オドメーター
- ・ トリップメーター
- ・ メーター照度調整



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● メニューアイコン (→ P. 75)

メニューアイコンを選択して、次の項目を表示することができます。



ドライブインフォメーション (→ P. 75)

走行に関するさまざまな情報を表示します。



LDA(レーンディパーチャーアラート)作動表示★(→ P. 181)

LDAの作動状況を表示します。



Stop & Start システム情報★ (→ P. 77, 204)

Stop & Start システムの作動状況を表示します。



警告メッセージ (→ P. 331)

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。



設定 (→ P. 78)

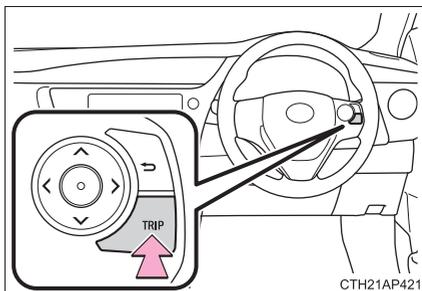
メーターの表示設定などを切りかえることができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トリップインフォメーション／メーター照度調整**◆ 表示の切りかえ**

表示を切りえるには、TRIP スイッチを押します。

スイッチを押すごとに表示される項目が切りかわります。

**◆ 表示項目****■ オドメーター**

走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に TRIP スイッチを長押しします。

■ メーター照度調整

メーターの明るさを表示します。

- ・ 昼照度と夜照度^{*}、それぞれの明るさのレベルを調整することができます。
- ・ 明るさを調整するには、メーター照度調整表示中に TRIP スイッチを長押しします。

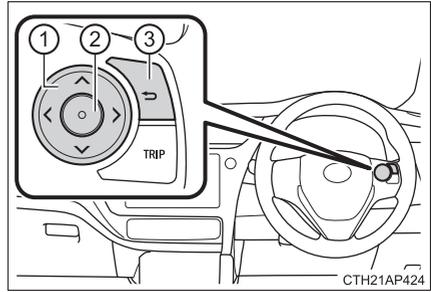
^{*} 昼照度と夜照度：→ P. 80

メニューアイコン

◆ 操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ① < > : メニューの切りかえ
 ^ v : ページ送り、表示項目の切りかえ、カーソル移動
- ② 短押し : 決定
 長押し : リセット
- ③ ひとつ前の画面にもどる



◆ ドライブインフォメーション

■ ドライブインフォメーション 1 / ドライブインフォメーション 2

次の走行に関する情報を表示します。

- ドライブインフォメーション 1
 - ・ 瞬間燃費
 - ・ リセット間平均燃費
- ドライブインフォメーション 2
 - ・ 航続可能距離
 - ・ リセット間平均車速

表示する項目は設定メニューから変更することができます。
 (→ P. 75)

表示できる項目は次のとおりです。

項目	表示内容
瞬間燃費	現在の瞬間燃費を表示
リセット間平均燃費	リセット後の平均燃費を表示※ 1、2
始動後平均燃費	エンジン始動後の平均燃費を表示※ 2
給油後平均燃費	給油後の平均燃費を表示※ 2、3
リセット間平均車速	リセット後の平均車速を表示※ 1
始動後平均車速	エンジン始動後の平均車速を表示

項目	表示内容
リセット間走行時間	リセット後の経過時間を表示※ ¹
始動後走行時間	エンジン始動後の経過時間を表示
航続可能距離	燃料残量による走行可能な距離を表示※ ^{3、4}
始動後走行距離	エンジン始動後の走行距離を表示
ブランク	非表示

- ※¹ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にハンドルの  スイッチを長押しします。
画面に表示されている項目が 2 つともリセット可能な場合は、選択画面が表示されます。
- ※² 表示される燃費は参考として利用してください。
- ※³ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。
- ※⁴ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。

■ エコドライブインジケータ

→ P. 79

■ ブランク（非表示）

ブランク画面を表示します。

◆ Stop & Start システム情報★

■ 現在のアイドリングストップ時間／アイドリングストップ状態通知

現在のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。

また、アイドリングストップの状態を状況に応じて割り込み表示でお知らせします。（→ P. 204）

■ 通算のアイドリングストップ時間／アイドリングストップ節約燃料

ハンドルの  または  スイッチを押して、次の項目を表示することができます。

● アイドリングストップ時間（始動後・リセット後）

次のアイドリングストップ時間を通算で表示します。

- ・ エンジン始動してからのアイドリングストップ時間
- ・ リセットしてからのアイドリングストップ時間

● アイドリングストップ節約燃料（始動後・リセット後）

次のアイドリングストップ時間中の節約燃料を通算で表示します。

- ・ エンジン始動してからの節約燃料
- ・ リセットしてからの節約燃料

表示される節約燃料は参考として利用してください。

■ SMART STOP 設定

ハンドルの  スイッチを押すと、Stop & Start システムの設定画面が表示されます。

設定画面では、次の操作を行うことができます。

● 時間設定

エアコンの「A/C」を ON にしているときのアイドリングストップ時間を 2 段階から選択することができます。時間設定は設定ニューからも変更することができます。

● リセット

アイドリングストップ時間・アイドリングストップ節約燃料をリセットします。

リセットするには、カーソルを「リセット」に合わせた状態でハンドルの  スイッチを長押しします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 設定**■ LDA (レーンディパーチャーアラート) 警報感度★**

LDA の警報感度を 2 段階から選択することができます。

■ 先行車発進★

次の先行車発進告知機能の設定を変更することができます。

● 告知設定

先行車発進告知機能の作動・非作動を選択することができます。

● 告知タイミング

告知するタイミングを 3 段階から選択することができます。

■ Stop & Start システム★

エアコンの「A/C」を ON にしているときのアイドリングストップ時間を 2 段階から選択することができます。

■ エコドライブインジケータランプ★

エコドライブインジケータランプの作動・非作動を選択することができます。

■ 単位

ディスプレイに表示される単位を選択することができます。

■ ドライブインフォ 1 / ドライブインフォ 2

ドライブインフォメーションに表示させる項目 (→ P. 75) をドライブインフォ 1 / ドライブインフォ 2 それぞれに 2 つまで選択することができます。

■ 割込表示★

割り込み表示される項目の表示・非表示を選択することができます。設定の変更が可能な割り込み表示は次のとおりです。

- ・アイドリングストップ作動時間
- ・アイドリングストップ状態通知

■ 表示設定初期化

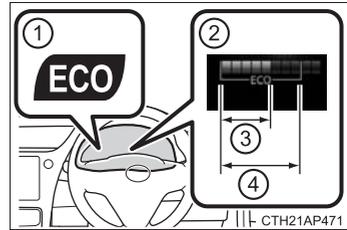
メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。(→ P. 387)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■エコドライブインジケータースター★

- ① エコドライブインジケータースターランプ
環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータースターランプが点灯します。
必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。



- ② エコドライブインジケータースターゾーン表示
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

- ③ 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケータースターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケータースターランプは消灯します。

- ④ エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケータースターは作動しません。

- シフトレバーがD以外にあるとき
- パドルシフトスイッチを操作しているとき
- 走行モードがスポーツモードのとき
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■メーターの照度について（昼照度と夜照度）

- メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切りかわります。
 - ▶ランプ自動点灯・消灯システム非装着車
 - ・昼照度：車幅灯を消灯しているとき
 - ・夜照度：車幅灯を点灯しているとき
 - ▶ランプ自動点灯・消灯システム装着車
 - ・昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき
 - ・夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき
- 夜照度になるとメーター照明が減光されます。ただし、夜照度の設定をいちばん明るくした状態では減光されません。

■アイドリングストップ状態通知★の割り込み表示について

設定メニューでアイドリングストップ状態通知の割り込み表示を OFF に設定しているときでも、 アイコンを選択して Stop & Start システム情報を表示しているときは状態通知が割り込み表示されます。（→ P. 204）

■設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 次の状況では、設定画面の操作が一時中断されます。
 - ・警告メッセージが表示されたとき
 - ・走行し始めたとき

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブインフォメーションのデータはリセットされます。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ 運転中の使用について**

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ ディスプレイの設定を変更するとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

3-1. キー	
キー	84
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
ドア (フロントドア・ リヤドア)	90
バックドア	96
スマートエントリー& スタートシステム	100
3-3. シートの調整	
フロントシート	107
リヤシート	108
ヘッドレスト	110
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	112
インナーミラー	114
ドアミラー	116
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	119

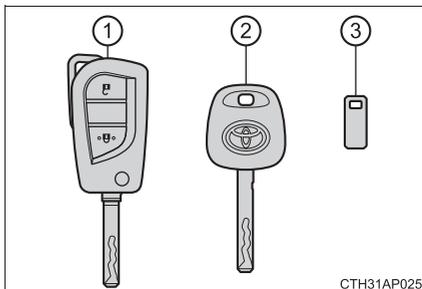
キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

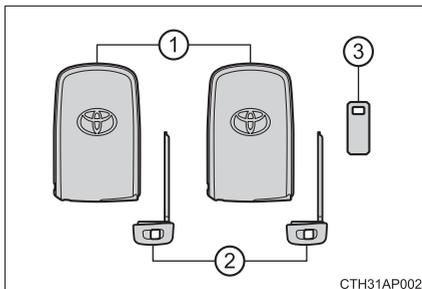
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- ① キー（ワイヤレス機能装着）
・ワイヤレス機能の作動（→ P. 85）
- ② キー（ワイヤレス機能非装着）
- ③ キーナンバープレート



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

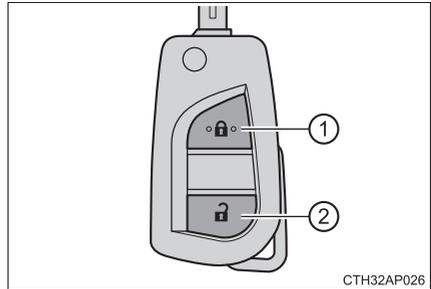
- ① 電子キー
・スマートエントリー&スタートシステムの作動（→ P. 100）
・ワイヤレス機能の作動（→ P. 85）
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

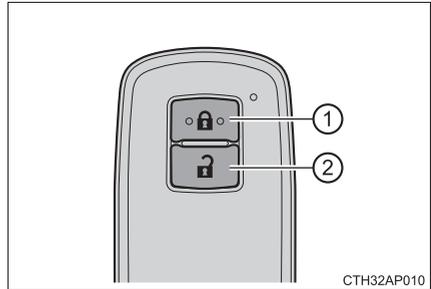
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- ① 全ドアを施錠する (→ P. 90)
- ② 全ドアを解錠する (→ P. 90)



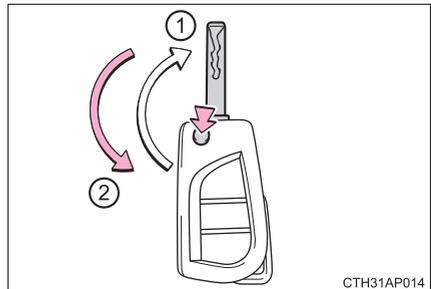
▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

- ① 全ドアを施錠する (→ P. 90)
- ② 全ドアを解錠する (→ P. 90)



キーを使うには (スマートエントリー&スタートシステム非装着車)

- ① 取り出す
キー本体を取り出すには、ボタンを押してください。
- ② 収納する
キー本体を収納するには、ボタンを押してからキーを収納してください。

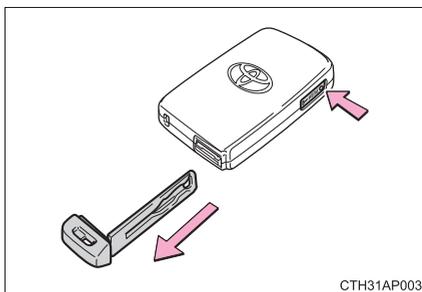


メカニカルキーを使うには（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 363）



知識

■ キーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキー（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）から、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

→ P. 103

■電池の消耗について

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→ P. 287)

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→ P. 328)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・作動範囲が狭くなった
 - ・電子キーのLED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを置かないでください。
 - ・TV
 - ・パソコン
 - ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・電気スタンド
 - ・電磁調理器

■ 電池が切れたとき

→ P. 287

■ キー登録本数の確認について（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■ 不正キーの使用について

指定のキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■ カスタマイズ機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 386）

⚠ 注意**■ キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ 電子キー取り扱いの注意

ワイヤレスキー・電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は不用意に分解しないでください。
分解・改造したものをを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

 **注意****■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）**

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外からの解錠・施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム★

電子キーを携帯して操作します。

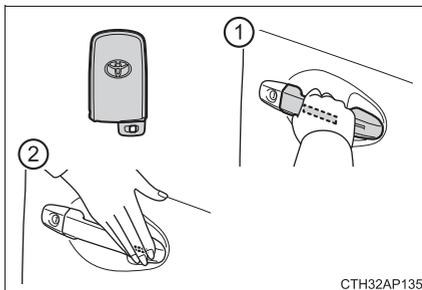
- ① フロント席のドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

- ② フロント席ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



CTH32AP135

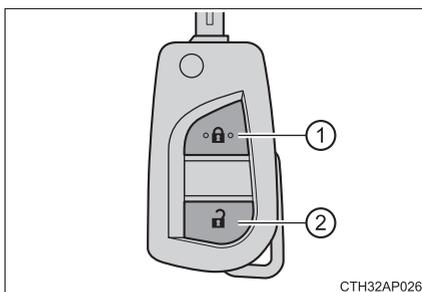
◆ ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- ① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

- ② 全ドアを解錠する

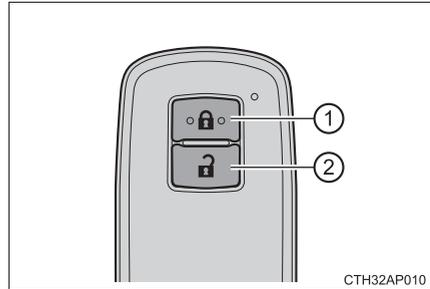


CTH32AP026

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する

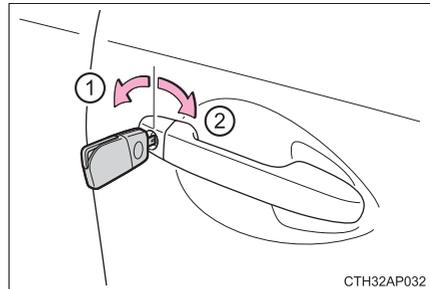


◆ キー

キーを操作すると、ドアが下記のように作動します。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- ① 全ドアを解錠する
- ② 全ドアを施錠する



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。(→ P. 363)

■ 作動の合図

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

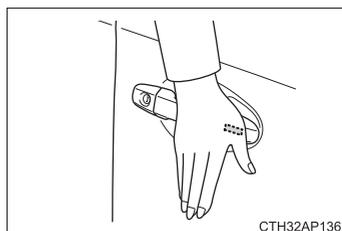
ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。



■ 半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態で、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを施錠しようとする時、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

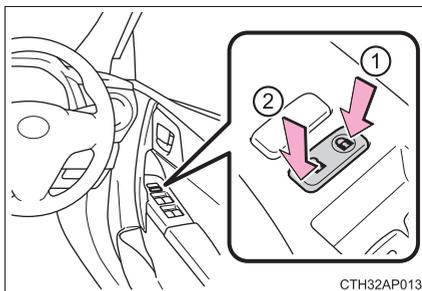
スマートエントリー&スタートシステム装着車：メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 363）

キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 287）

車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する

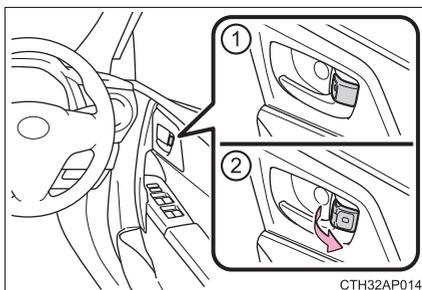


CTH32AP013

◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



CTH32AP014

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：

キーがエンジンスイッチに差し込まれているときは施錠されません。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



CTH32AP102

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。

2 眼メーター装着車のみ：開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

→ P. 87

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

→ P. 103

 **警告****■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠解錠および開けることができます。

バックドアの解錠・施錠

■ ドアロックスイッチ

→ P. 93

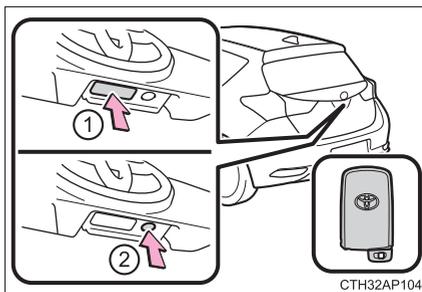
■ スマートエントリー&スタートシステム★

- ① バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

- ② ロックスイッチを押して施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



■ ワイヤレスリモコン

→ P. 85

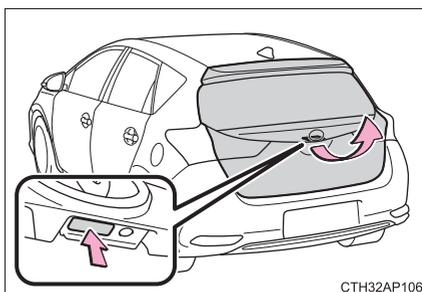
■ キー

→ P. 91

バックドアを開ける

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押した直後はバックドアを閉めることができません。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動の合図

→ P. 91

■ 半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。

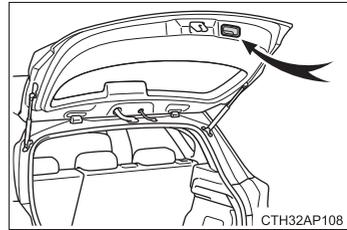
2 眼メーター装着車のみ：開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ラゲージルームランプ

バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

■ バックドアを閉めるときは

バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

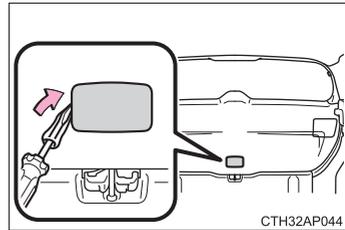


■ バックドアが開かないときは

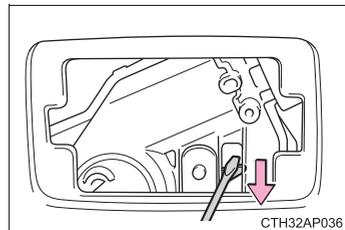
バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷がつくのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 レバーを押す



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

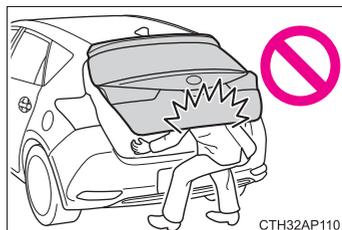
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

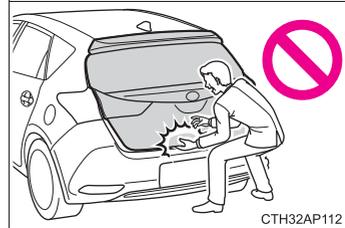
- バックドアを開ける前に、バックドア上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



CTH32AP110

警告

- バックドアを閉めるときは、バックドアで指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外からバックドア上面を軽く押しして閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

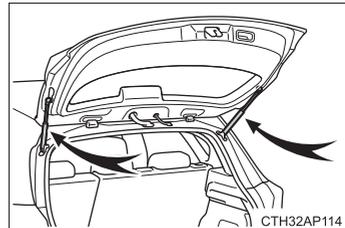


注意

■ ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをご守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



スマートエントリー&スタートシステム★

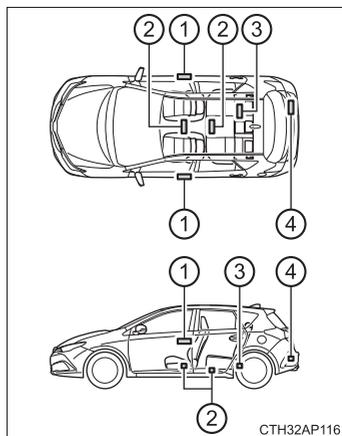
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。
必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する (→ P. 90)
- バックドアを施錠・解錠する (→ P. 96)
- エンジンを始動する (→ P. 139)

知識

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車内アンテナ
- ③ ラゲージルーム内アンテナ
- ④ ラゲージルーム外アンテナ

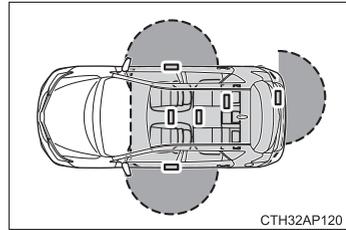


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

● : ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドル/バックドアオープン・ロックスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)



● : エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音と警告表示について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。2 眼メーター装着車の場合は、メッセージが表示されることがあります。警告灯が点灯したり、メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→ P. 328, 331)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
3 眼メーター装着車： 車内から“ピー”と 1 回 鳴る 車外から“ピー”と 5 秒 間鳴る※1	車内に電子キーを置いた まま、フロントドアを開 き、ドアロックレバーを 施錠側にしてドアハンド ルを引いたままドアを閉 めて施錠しようとした	車内から電子キーを取り 出したあと、再度施錠す る
車外から“ピー”と 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いて いるときにスマートエン トリー&スタートシステ ムもしくは、ワイヤレス 機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再 度施錠する
	3 眼メーター装着車：車 内に電子キーを置いたま ま、スマートエントリー &スタートシステムでド アを施錠しようとした	車内から電子キーを取り 出したあと、再度施錠す る

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリモードにした（エンジンスイッチがアクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
3眼メーター装着車： 車内から“ピー”と鳴り続ける*	シフトレバーがP以外の状態で、エンジンスイッチをOFFにせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーをPにする

* オートマチック車

- スマートエントリー&スタートシステム表示灯が黄色に点滅^{*1}、またはマルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障取扱書を確認」が表示^{*2}されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

*¹ 3眼メーター装着車

*² 2眼メーター装着車

■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

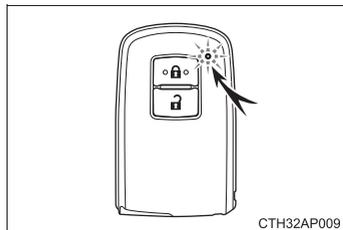
- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・ 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■ 電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→ P. 363)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ バックドアを開けるときに電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
 - ・ エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に電子キーがインストールメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で2回まで有効で、3回目以降はロック動作しません。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
 - ・ 電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
 - ・ 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→ P. 103）
- 3 眼メーター装着車：車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠してください。
- 2 眼メーター装着車：車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P. 386)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→P. 101)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠：→P. 363
- エンジンの始動：→P. 363

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→P. 386)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 90, 363)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P. 363
- エンジンの停止：→P. 140

 **警告****■電波がおよぼす影響について**

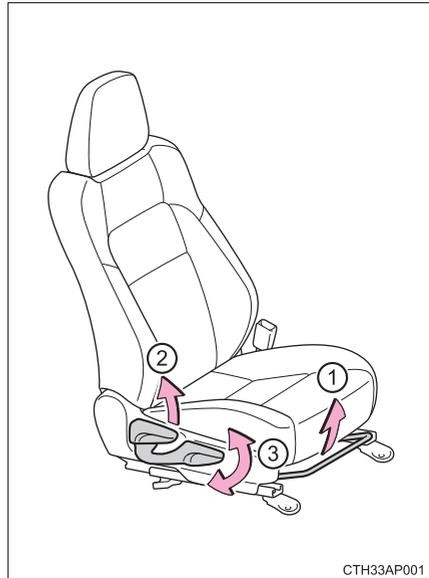
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 100）から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ クッション全体の上下調整（運転席のみ）



CTH33AP001

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ リクライニング調整について

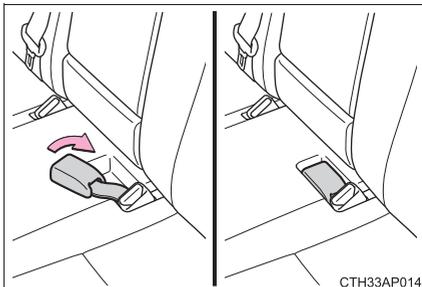
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

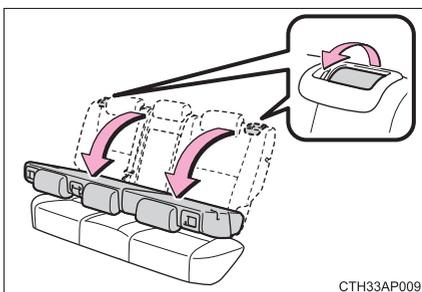
リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを前に倒す

- 1 フロントシートを前方に移動する (→ P. 107)
- 2 リヤアームレストを格納する (→ P. 264)
- 3 リヤ中央席シートベルトのバックルを格納する



- 4 ヘッドレストをいちばん下まで下げる (→ P. 110)
- 5 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す
ロックが確実に解除されるまで、レバーを引いてください。



⚠ 警告

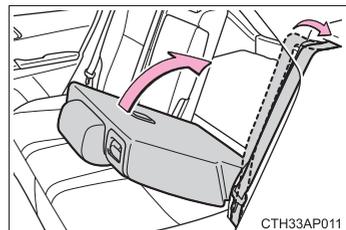
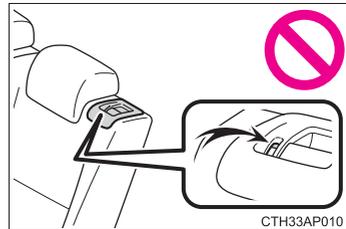
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ リヤシートを操作するときは

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをオートマチック車では P、マニュアル車では N にする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ 背もたれをもとにもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
シートが確実に固定されていないときは、レバーの横に赤ラベルが見えます。赤ラベルが見えていないことを確認してください。
- シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。
シートベルトが背もたれ固定フックに挟まり、シートベルトを損傷させるおそれがあります。

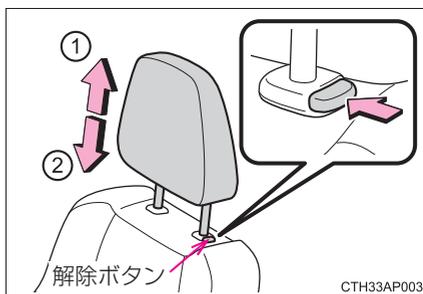


ヘッドレスト

上下調整

- ① 上げる
- ② 下げる

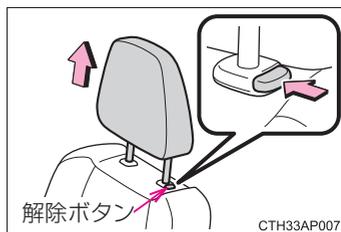
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

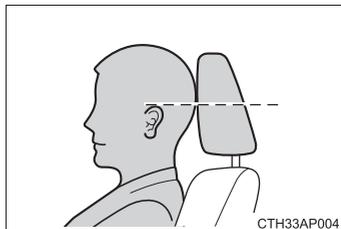
■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席のヘッドレストについて

使用するときには、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

 **警告****■ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

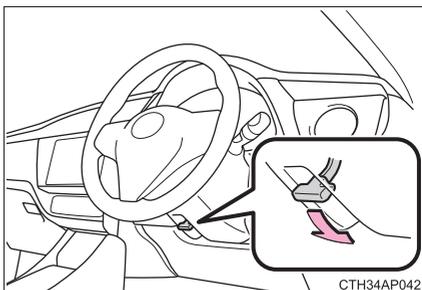
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

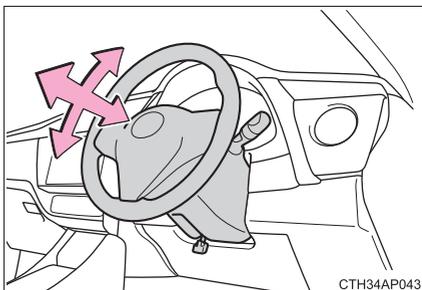
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



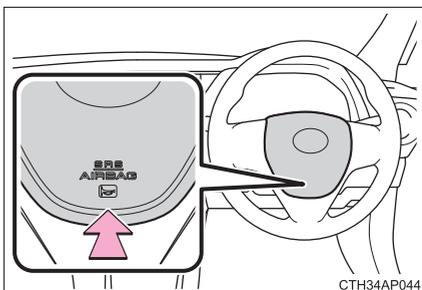
- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



 **警告****■ 走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

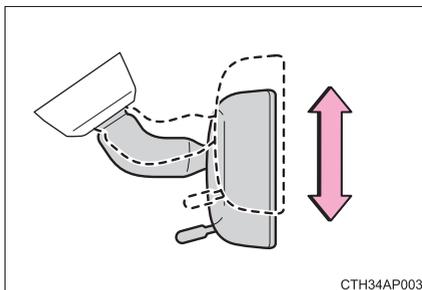
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

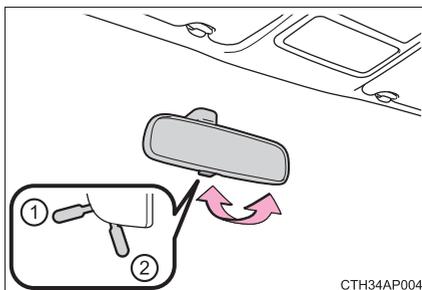


防眩機能

▶ 手動防眩タイプ装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



▶ 自動防眩タイプ装着車

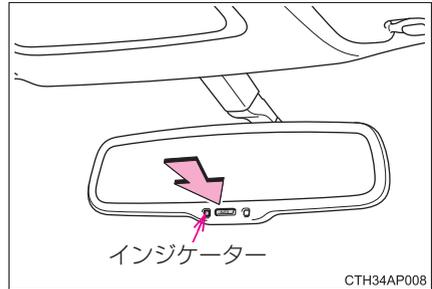
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ

ON / OFF

ON のときはインジケータが点灯します。

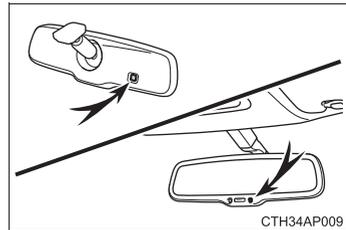
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能がONになっています。ボタンを押すとOFFになりインジケータが消灯します。



知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩タイプ装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

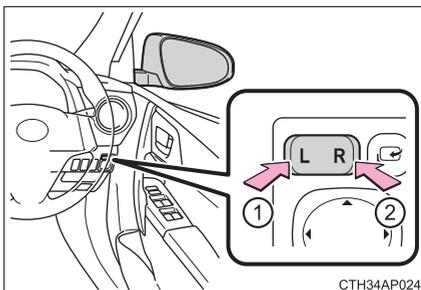
走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

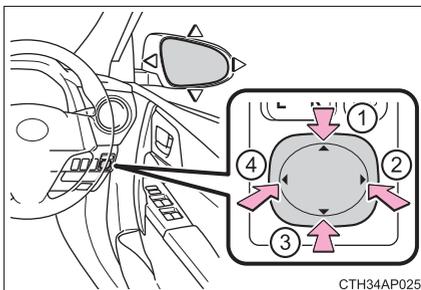
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

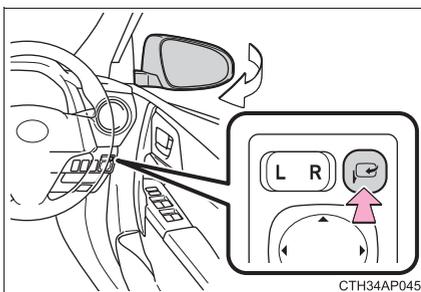
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納する

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

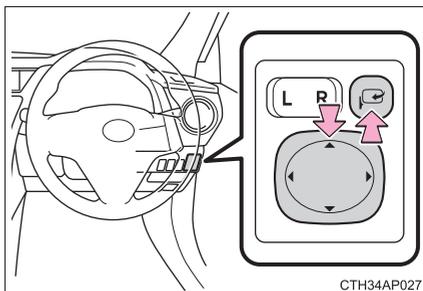


オート作動

スマートエントリー&スタートシステム★やワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーが自動的に格納・復帰します。

以下の手順でオート作動を停止できます。

- 1 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“LOCK”にする
 スマートエントリー&スタートシステム装着車：エンジンスイッチをOFFにする
- 2 電動格納スイッチと鏡面調整スイッチの▲を、同時に2秒以上押す
 もう一度同じ操作をすると、オート作動が復帰します



知識

■ 鏡面調整の作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッションONモードのとき

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、ONの状態にもどります。機能をOFFにするときは、再度、オート電動格納機能のON・OFF切りかえを行ってください。

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取り除くことができます。

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ 走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウィンドウ

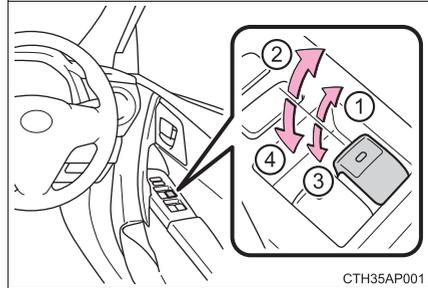
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開※

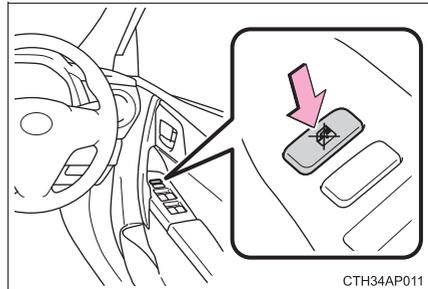
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識

■ 作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチが“ON” のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジン停止後の作動

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチを“ACC” または“LOCK” にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドア内に巻き込まれると作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉できないときは、開閉できないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

● 正常に閉じない場合

車を停止し、エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはエンジンスイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の状態、挟み込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉じることができます。

● 正常に開かない場合

車を停止し、エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはエンジンスイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の状態、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開くことができます。

上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはエンジンスイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

次のことを必ずお守りください。

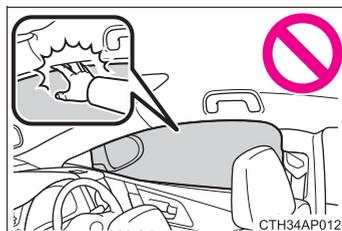
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P. 119)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を挟むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

4-1. 運転にあたって	
運転にあたって	124
荷物を積むときの注意	135
4-2. 運転のしかた	
エンジン	
(イグニッション) スイッチ	
(スマートエントリー&	
スタートシステム	
非装着車)	136
エンジン	
(イグニッション) スイッチ	
(スマートエントリー&	
スタートシステム	
装着車)	139
オートマチック	
トランスミッション	147
マニュアル	
トランスミッション	152
方向指示レバー	154
パーキングブレーキ	155
4-3. ランプのつけ方・	
ワイパーの使い方	
ランプスイッチ	156
フォグランプスイッチ	161
ワイパー & ウォッシャー	
(フロント)	162
ワイパー & ウォッシャー	
(リヤ)	164
4-4. 給油のしかた	
給油口の開け方	166
4-5. Toyota Safety Sense C	
Toyota Safety	
Sense C	169
PCS (プリクラッシュ	
セーフティシステム)	173
LDA	
(レーンディパーチャー	
アラート/ 車線逸脱警報)	181
オートマチック	
ハイビーム	188
先行車発進告知機能	192
4-6. 運転支援装置について	
Toyota Stop &	
Start System	
(SMART STOP)	196
クルーズコントロール	208
4WD オートモード	
スイッチ	212
運転を補助する装置	214
4-7. 運転のアドバイス	
寒冷時の運転	221

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 136, 139

発進する

▶ オートマチック車

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする(→P. 147)
- 2 パーキングブレーキを解除する(→P. 155)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを1速にする(→P. 152)
- 2 パーキングブレーキを解除する(→P. 155)
- 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

▶ オートマチック車

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
Stop & Start システム装着車 : Stop & Start システムが作動可能状態のときは、ブレーキを踏み車両が停止すると、エンジンが自動的に停止します。
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーをPまたはNにします。(→P. 147)

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーをNにします。

駐車する

▶ オートマチック車

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかける
- 3 シフトレバーをPにする (→ P. 147)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。

[※] 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- 4 スマートエントリー & スタートシステム非装着車
エンジンスイッチを“LOCK”にしてエンジンを停止する
スマートエントリー & スタートシステム装着車
エンジンスイッチをOFFにしてエンジンを停止する
- 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかける (→ P. 155)
- 3 シフトレバーをNにする (→ P. 152)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてシフトレバーを1速またはRにし、輪止め[※]を使用してください。

[※] 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- 4 エンジンスイッチを“LOCK”にしてエンジンを停止する
- 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

▶ オートマチック車

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをDにする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

▶ マニュアル車

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを1速にする
- 2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する



知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→ P. 214)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなった
りするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドル
やブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてくだ
さい。

■ 走行中のエンジン回転数について（オートマチック車）

以下の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状
況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うた
めで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離れたとき
- スポーツモード★選択時に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に
取り付けることはできません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■エンジン停止前のアイドル運転について (8NR-FTS エンジン)

ターボ装置の損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行	不要
高速走行 (約 100 km/h 定速)	約 1 分
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行および レース場などの 100 km/h 以上の連続走行	約 2 分

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき（オートマチック車）

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

● 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

● 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 314を参照してください。

● 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 147）

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 4WD 車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- オートマチック車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- オートマチック車では、車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- オートマチック車では、アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがP（オートマチック車）またはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- オートマチック車では、車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたりしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをP(オートマチック車)に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまうます。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ 運転しているとき（オートマチック車）**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 運転しているとき（マニュアル車）

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。
- クラッチの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない
 - ・ 1 速以外での発進は避ける
 - ・ 坂道発進時など、必要以上に半クラッチのままで走行しない
- 車がまだ動いているときに R に入れないでください。クラッチ・トランスミッション・ギアに損傷を受けるおそれがあります。

■ 駐車するとき（オートマチック車）

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けしないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

 **注意****■ターボ装置の故障を防ぐために (8NR-FTS エンジン)**

- 高速走行・登坂走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。(→ P. 127)
- 排気管・エアクリーナ・スパークプラグなどには指定以外の部品を使わないでください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 333, 346 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー (4WD 車)・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト (4WD 車)・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、クラッチペダル（マニュアル車）・ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インstrumentパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

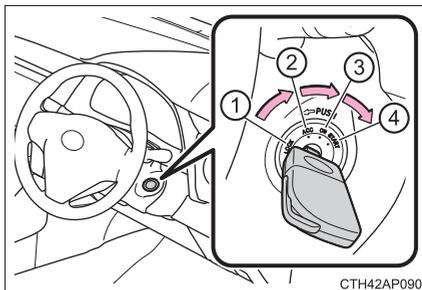
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

エンジンのかけ方

- 1 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 5 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

エンジンスイッチの位置

- ① “LOCK” (OFF)
 - ・ ステアリングロックがかかります。
 - ・ シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しできます。
- ② “ACC”
オーディオなどの電装品が使用できません。
- ③ “ON”
すべての電装品が使用できます。
- ④ “START”
エンジンが始動できます。

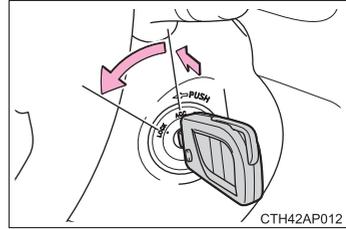


CTH42AP090

知識

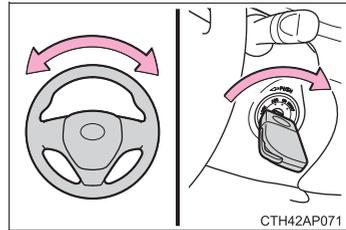
■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす



■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。



■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが差してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座っておこなってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。緊急時は走行中にエンジンを切り、“ACC”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

- 1 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーが P（オートマチック車）もしくは N（マニュアル車）の位置にあることを確認する

▶ 3 眼メーター装着車

- 4 オートマチック車：ブレーキペダルをしっかりと踏む
マニュアル車：クラッチペダルとブレーキペダルをしっかりと踏む
スマートエントリー & スタートシステム表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

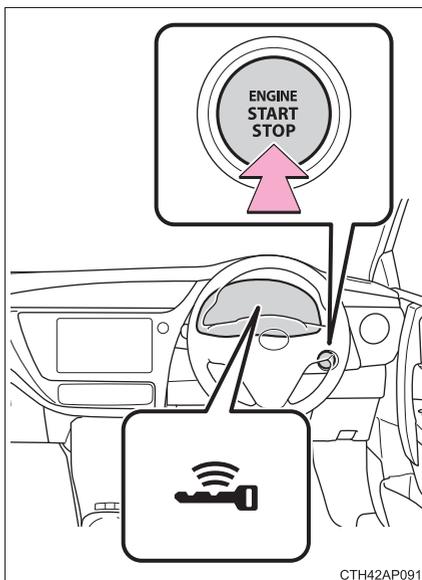
- 5 エンジンスイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

オートマチック車：完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

マニュアル車：完全にエンジンが始動するまでクラッチペダルとブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



CTH42AP091

▶ 2 眼メーター装着車

- 4 オートマチック車：ブレーキペダルをしっかりと踏む
 マニュアル車：クラッチペダルとブレーキペダルをしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されます。

表示されないと、エンジンはかかりません。

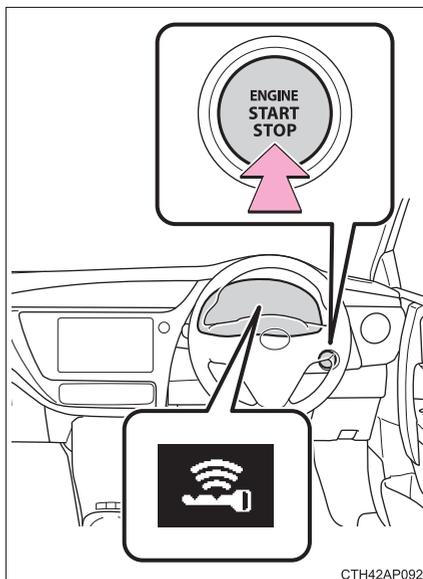
5 エンジンスイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間
 スターターが回転します。

オートマチック車：完全にエンジンが
 始動するまでブレーキペダルを踏み続
 けてください。

マニュアル車：完全にエンジンが始動
 するまでクラッチペダルとブレーキペ
 ダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからで
 もエンジンを始動できます。



CTH42AP092

エンジンの停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 シフトレバーを P (オートマチック車) もしくは N (マニュアル車) の位置にする
- 3 パーキングブレーキをかける (→ P. 155)
- 4 エンジンスイッチを押す
- 5 3 眼メーター装着車：各ペダルから足を離れた状態にして、スマートエントリー&スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する
 2 眼メーター装着車：各ペダルから足を離れた状態にして、マルチインフォメーションディスプレイの「電源 On」の表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチ切りかえ

ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

▶ 3眼メーター装着車

OFF ※

非常点滅灯が使用できません。

スマートエントリー&スタートシステム表示灯が消灯します。

アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

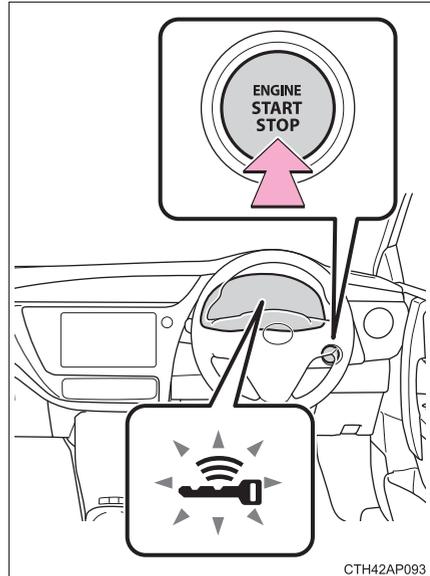
スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



▶ 2 眼メーター装着車

OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

アクセサリモード

オーディオなどの電装品が使用できません。

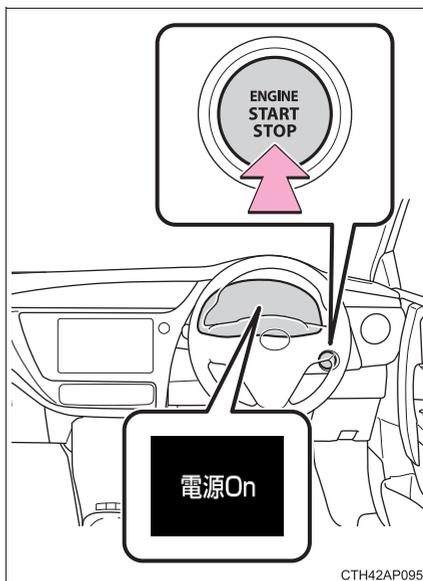
マルチインフォメーションディスプレイに「電源 On」が表示されます。

イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「電源 On」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリモードになり、OFF になりません。(オートマチック車)



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき（オートマチック車）

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
 - ▶ 3 眼メーター装着車
- 3 スマートエントリー& スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す
- 4 スマートエントリー& スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する
 - ▶ 2 眼メーター装着車
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源 On」と「電源を Off してください」が交互に表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源 On」と「電源を Off してください」の表示が消灯していることを確認する

 知識**■ 自動電源 OFF 機能**

オートマチック車：シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

マニュアル車：20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 87

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 103

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 104

■ エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 55）
トヨタ販売店へご連絡ください。

- オートマチック車はシフトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しエンジンを始動することができないことがあります。

3 眼メーター装着車：

スマートエントリー & スタートシステム表示灯が緑色に速く点滅します。

2 眼メーター装着車：

マルチインフォメーションディスプレイに「始動時は P レンジに入れてください」が表示されます。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

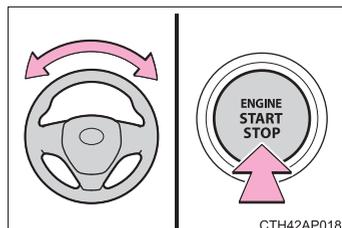
3 眼メーター装着車：

スマートエントリー & スタートシステム表示灯が緑色に速く点滅します。

2 眼メーター装着車：

マルチインフォメーションディスプレイに「ステアリングロック未解除」が表示されません。

シフトレバーが P の位置にあることを確認して（オートマチック車）、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■スマートエントリー&スタートシステム表示灯が黄色に点滅^{※1}、またはマルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障取扱書を確認」が表示^{※2}されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※¹ 3 眼メーター装着車

※² 2 眼メーター装着車

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 287

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エンジンスイッチの操作について

- エンジンスイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 363

警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 314)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 **注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- 3 眼メーター装着車：スマートエントリー& スタートシステム表示灯が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
2 眼メーター装着車：エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「電源 On」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- オートマチック車はシフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ エンジンを始動するとき

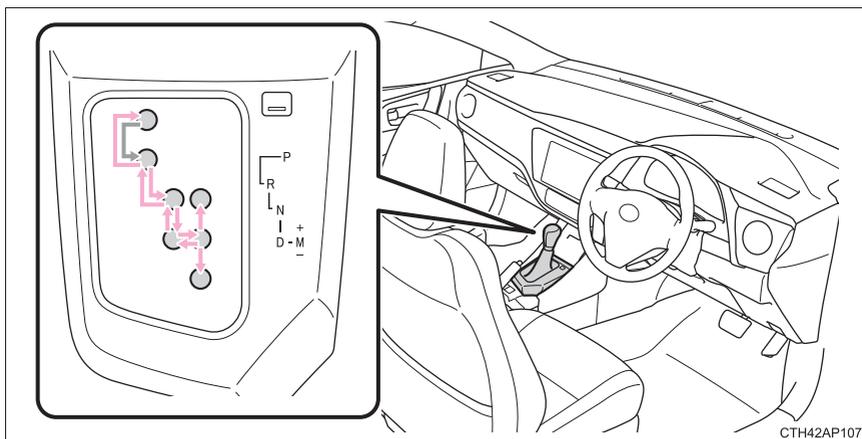
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション★

シフトレバーの動かし方



← エンジンスイッチが“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはエンジンスイッチがイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の状態
で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

PとDのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
M	7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行 (→ P. 149)

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

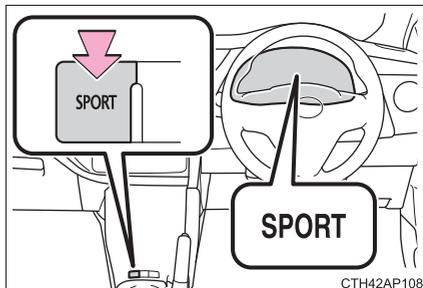
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スポーツモードの選択（パドルシフトスイッチ装着車）

スイッチを押す

カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。スイッチを押すと、メーター内の SPORT モード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行モードへもどります。



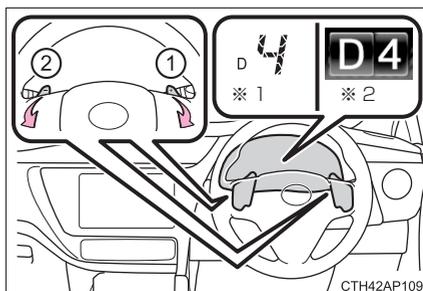
一時的な7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードについて（パドルシフトスイッチ装着車）

シフトレバーを D の位置で走行中、パドルシフトスイッチを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、シフトポジション・シフトレンジ表示灯に D が点灯し、変速段が表示されます。

- ① シフトアップ
- ② シフトダウン

D1 から D7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

- ※ 1 3眼メーター装着車
- ※ 2 2眼メーター装着車



7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ

シフトレバーを M ポジションにすると、7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ（パドルシフトスイッチ装着車）の操作で思い通りの変速段を選択し、運転することができます。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの“-”側または“+”側の操作で変速段を選択することができます。

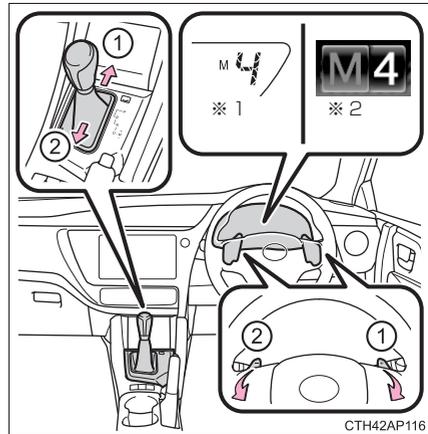
- ① シフトアップ
- ② シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作することにより1速ずつ変速します。

M1 から M7 の中で選択した変速段がメーターに表示されます。

※1 3眼メーター装着車

※2 2眼メーター装着車



M ポジションで走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、自動的に変速段が切りかわる場合があります。

 知識

■ 変速段機能

- エンジンブレーキ力は、7 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

■ D ポジションでの一時的な 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードの解除（パドルシフトスイッチ装着車）

次のとき、自動的に D ポジションでの一時的な 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードが解除されます。

- 停車状態のとき
- 同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき
- パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上押し続けたとき

■ M ポジションで走行中に停車したときは

- 停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。
- 停止後走行するときは M1 からの発進となります。
- 停車後は M1 に固定されます。

■ クルーズコントロール★を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、クルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- D ポジションまたは 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードで走行中に 6、5 または 4 レンジにシフトダウンしたとき（→ P. 148, 149）
- D ポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→ P. 148）

■ シフトダウン制限警告ブザー（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スポーツモードの自動解除（パドルシフトスイッチ装着車）

スポーツモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ シフトレバーをPからシフトできないとき

→ P. 362

■ シフトレバーをMにしても、M表示灯が点灯しないときまたは点滅したときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

この場合、シフトレバーをDにしているときと同じ制御になります。

■ G AI-SHIFT について（パドルシフトスイッチ装着車）

G AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的にスポーツ走行に適切な変速比を選択します。

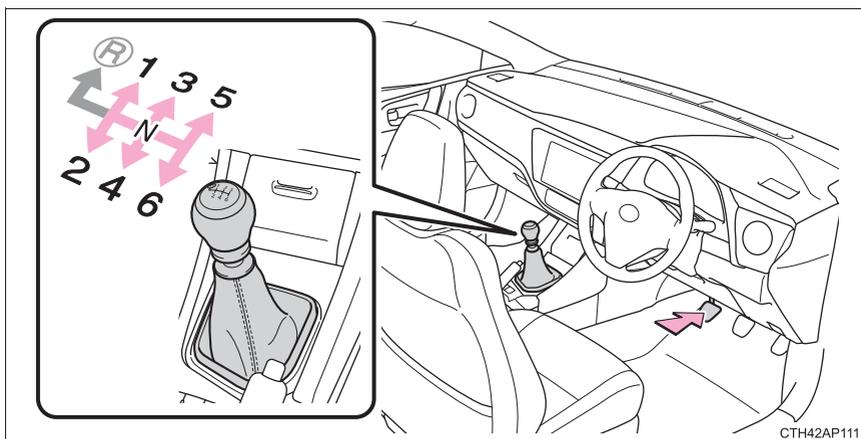
G AI-SHIFT は、シフトレバーをDポジションでスポーツモードにしているとき自動的に作動します（ノーマルモードにするか、シフトレバーをMポジションにすると機能が解除されます）。

▲ 警告**■ すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジブレーキカの急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

マニュアルトランスミッション★

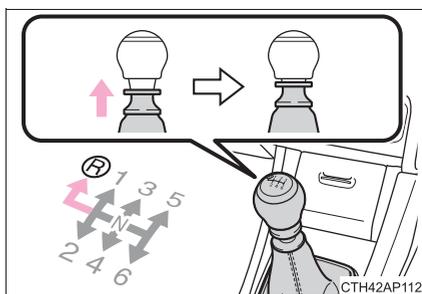
■ シフトレバーの動かし方



クラッチペダルをしっかり踏み、シフトレバーをゆっくり操作します。

■ R へのシフト操作

ブルカラーを引き上げながら、R
に入れます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■各シフトの速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が次に記載してある数値をこえないようにしてください。

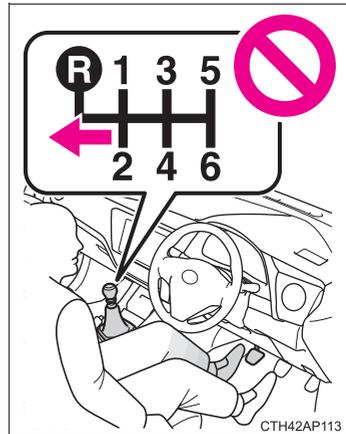
(km/h)

シフト位置	最高速度
1	45
2	84
3	116
4	157

 注意

■トランスミッションの損傷を防ぐために

- クラッチペダルを踏まずにシフトレバーをRに入れないでください。

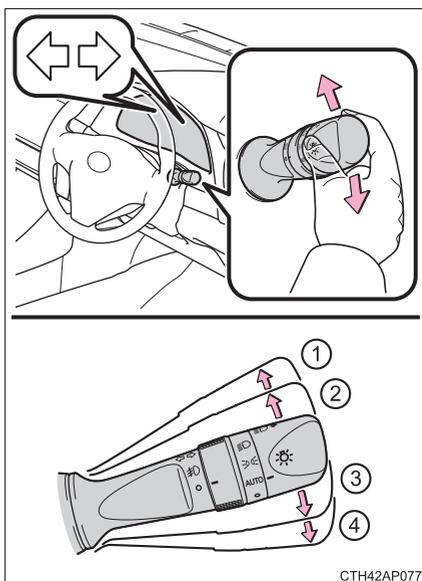


- Rへシフトするとき以外は、プルカラーを上へ引かないでください。
- Rへシフトするときは、車が停止した状態でおこなってください。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



CTH42AP077

知識

■ 作動条件

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ON”の位置のとき
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

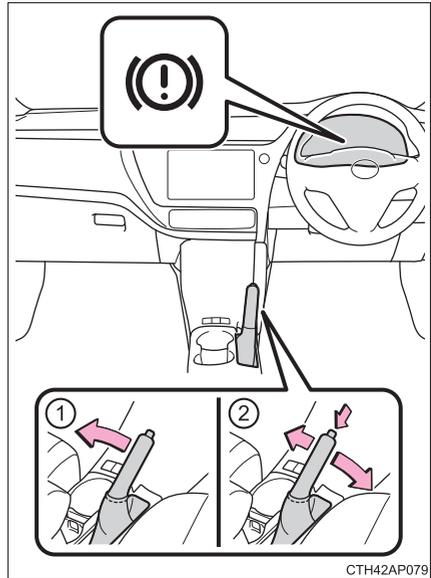
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

- ① パーキングブレーキをかけるにはブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く
- ② パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす



知識

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま車速が 5km/h をこえたとき、警告ブザーが鳴ります。

2 眼メーター装着車のみ：マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」と表示されます。

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 222

⚠ 注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

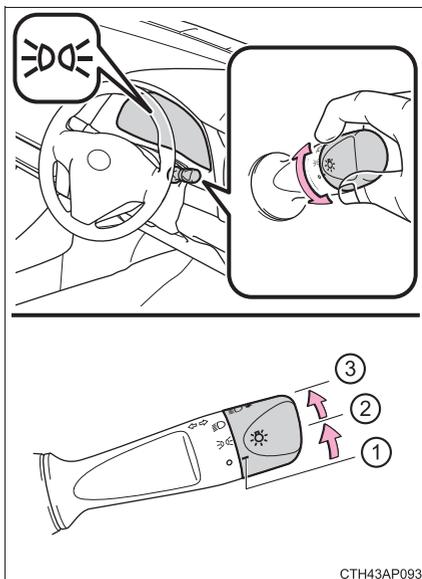
ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

▶ Aタイプ

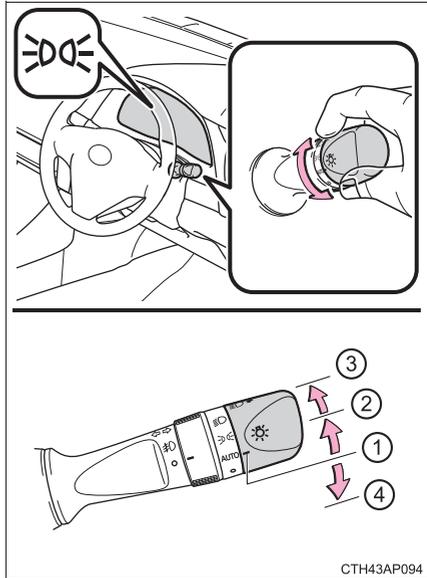
- ① ○ 消灯
- ② ≡☞☞ 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- ③ ≡D 上記ランプとヘッドランプを点灯



CTH43AP093

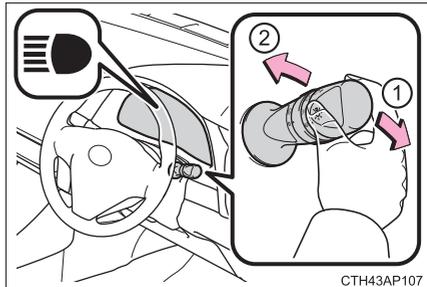
▶ Bタイプ

- ① **AUTO** ヘッドランプ・LED デイライト★ (→ P. 159)・車幅灯などを自動点灯・消灯
(エンジンスイッチが“ON” [スマートシステム & スタートシステム非装着車] またはエンジンスイッチがイグニッション ONモード [スマートシステム & スタートシステム装着車] のとき)
- ②  車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- ③  上記ランプとヘッドランプを点灯
- ④  消灯



ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

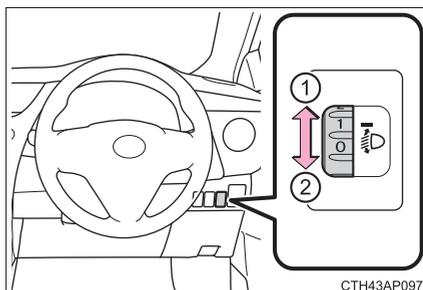


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0.5
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム 満載時	2
運転者	ラゲージルーム 満載時	3

知識

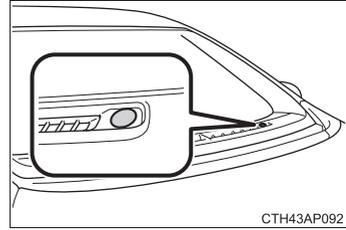
■ LED デイライト★

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ ライトセンサー (ランプ自動点灯・消灯システム装着車)

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：

エンジンスイッチを“LOCK”にして運転席ドアを開けると、すべてのランプが消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度  または  の位置にします。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：

エンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開けると、すべてのランプが消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度  または  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ オートレベリングシステム (LED ヘッドランプ装着車)

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはエンジンスイッチがアクセサリモードまたはOFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の状態でもヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。

次のいずれかをおこなった場合、節電機能は解除されます。

- ・ エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはエンジンスイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしたとき
- ・ ランプスイッチを操作したとき
- ・ ドアを開閉したとき

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。

（カスタマイズ一覧：→ P. 386）

注意

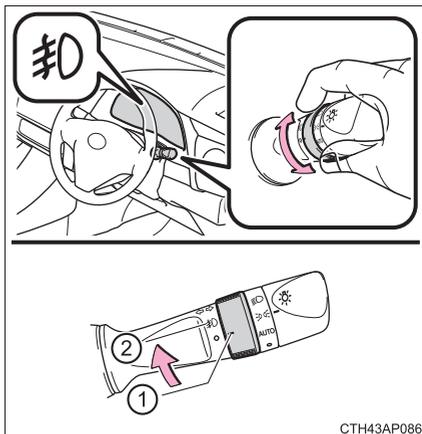
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

- ① ○ 消灯する
- ② ㊦ 点灯する



知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

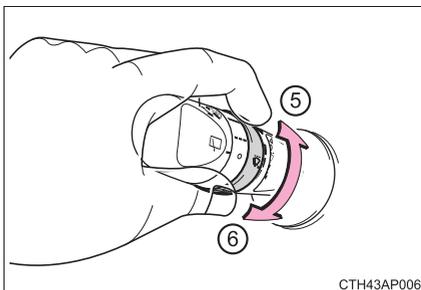
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

- ①  間欠作動（INT）
- ②  低速作動（LO）
- ③  高速作動（HI）
- ④  一時作動（MIST）

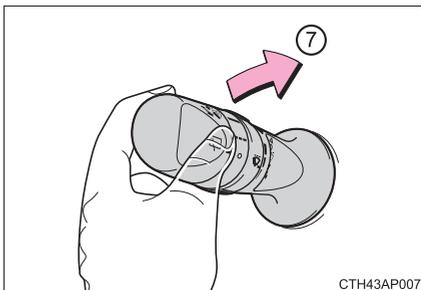


間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。

- ⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（増）
- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



- ⑦ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



 知識

■ 作動条件

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ON”の位置のとき
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

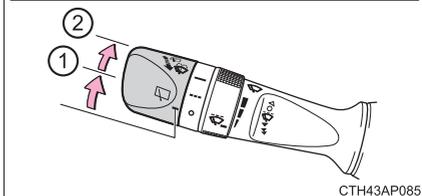
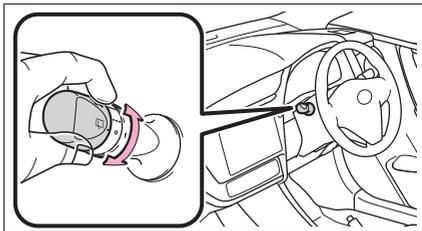
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

操作のしかた

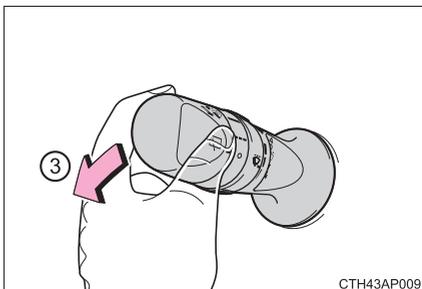
次のようにレバーをまわしてワイパーの作動を選択します。

- ①  間欠作動（LO）
- ②  通常作動（HI）



CTH43AP085

- ③ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



CTH43AP009

知識

■ 作動条件

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ON” のとき
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 **注意****■ 窓ガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

▶ 1NZ-FE エンジン / 2ZR-FAE エンジン (オートマチック車)

無鉛レギュラーガソリン

▶ 2ZR-FAE エンジン (マニュアル車) / 8NR-FTS エンジン

無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク)

■ エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料 (エタノールの混合率 3% 以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3% 以下) も使用することができます。

警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはつまみ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

警告

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- ふきこぼれを防ぐため次の点に注意してください。
 - ・ 給油口にノズルを確実に挿入する
 - ・ 継ぎ足し給油をしない
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意**■ 給油するとき**

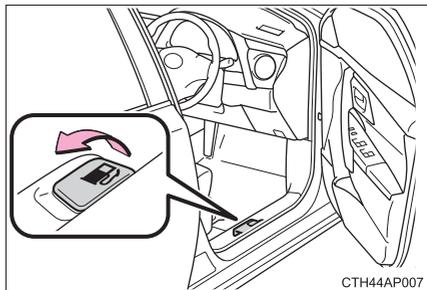
指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

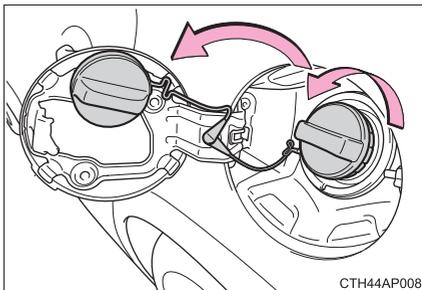
給油口の開け方

- 1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



CTH44AP007

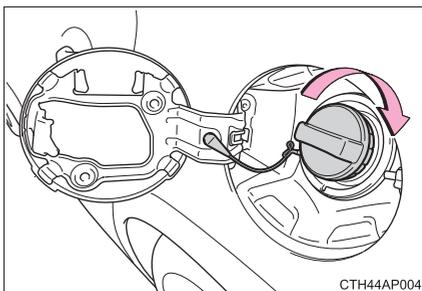
- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense C★

Toyota Safety Sense C は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 173

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→ P. 181

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 188

◆ その他の運転支援機能

先行車発進告知機能

→ P. 192

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
- ・ 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報

上記に加え、プリクラッシュブレーキが作動した場合、前方センサーの画像情報も記録します。なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

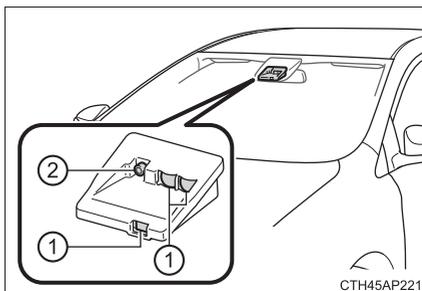
なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
 - ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
 - ・ トヨタが訴訟で使用する場合
 - ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合
- 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある2種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

- ① レーザーレーダー
- ② 単眼カメラ



CTH45AP221

⚠ 注意

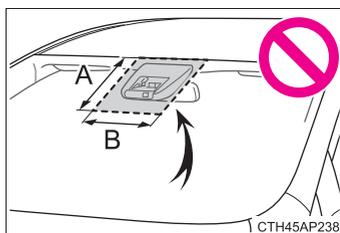
■ 前方センサーについて

前方センサーの故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

- フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A: フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで

B: 約 20cm (前方センサー中心から左右約 10cm)



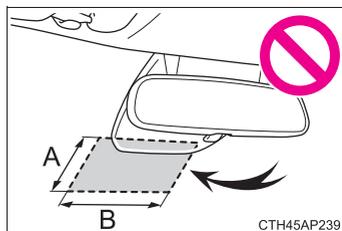
CTH45AP238

⚠ 注意

- フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部 (図に示す範囲内) に何も取り付けたり、貼り付けたりしない

A: 前方センサー下端から下約 10cm まで

B: 約 20cm (前方センサー中心から左右約 10cm)



- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- 冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS 警告灯が点滅します。その場合は、フロントデフロスターで曇りなどを取り除いてください。(→ P. 227, 235)
- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしてください。また、前方センサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。汚れていたり、油膜・水滴・雪などが付着したり、ふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。前方センサー取り付け部のフロントウインドウガラス内側が汚れた場合は、取り外さずトヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ワイパーブレードは早めに交換してください。前方センサー前部を適切にふき取れない場合、性能が低下することがあります。ワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーの前にアンテナを取り付けない
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーなどがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。前方センサーのレンズのお手入れは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーの向きは細密に調整されているため、取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーに強い衝撃や力を加えない、また分解しない

⚠ 注意

- 前方センサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- ダッシュボードに反射物を置かない

⚠ 警告

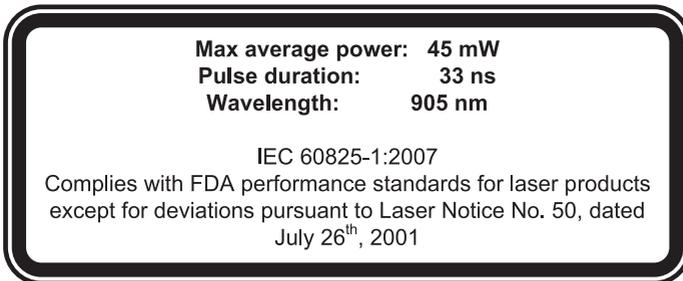
前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目には障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞきこまないでください。

レーザー等級ラベル



レーザー説明ラベル



レーザー放射仕様

最大出力（平均）：45 mW
パルス持続時間：33 ns
波長：905 nm
発散角（水平×垂直）：28° × 12°

PCS (プリクラッシュセーフティシステム) ★

進路上の車両を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いと判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

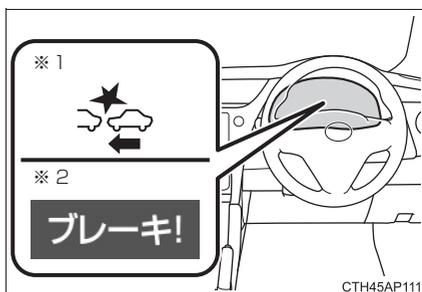
必要に応じて、スイッチ操作でプリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングの変更や ON / OFF を切りかえることができます。
(→ P. 174)

◆ 衝突警報

前方車両と衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、PCS 作動表示灯が点滅※¹、またはマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示し※²、回避操作をうながします。

※¹ 3眼メーター装着車

※² 2眼メーター装着車



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

前方車両と衝突の可能性が高いと判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

前方車両と衝突の可能性が高いと判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度を低減します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

プリクラッシュセーフティシステムの切りかえ

■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

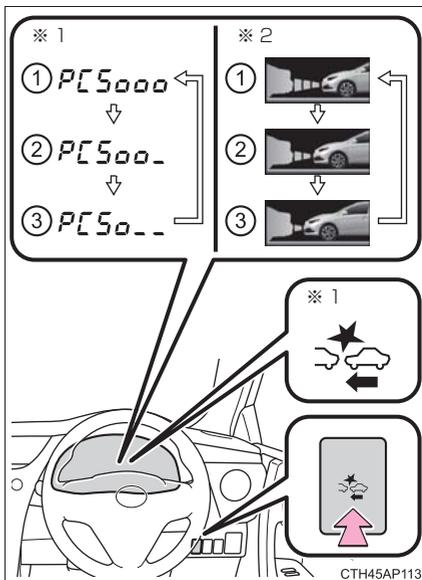
PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

- ① 遠い (タイミングが早くなる)
- ② 中間 (初期設定)
- ③ 近い (タイミングが遅くなる)

PCS スイッチを押すと、PCS 作動表示灯が点灯し※1、マルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示されます。

※1 3眼メーター装着車

※2 2眼メーター装着車



■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする

PCS スイッチを 3 秒以上押す

PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

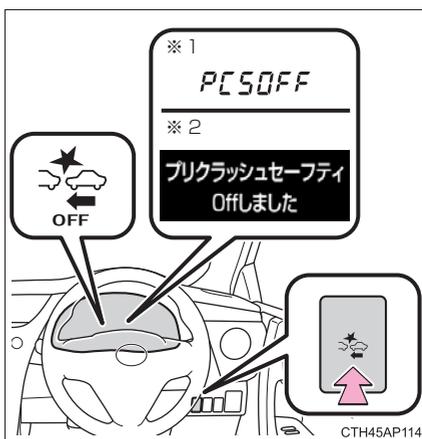
システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチが“ON”になるたびシステムは ON になります。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたびシステムは ON になります。

※1 3眼メーター装着車

※2 2眼メーター装着車



 知識

■ 作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方車両（オートバイ・自転車は除く）と衝突の可能性が高いと判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

- 衝突警報
 - ・ 車速約 15 ～ 140km/h
 - ・ 自車から見た前方車両との相対速度約 15km/h 以上
- プリクラッシュブレーキアシスト
 - ・ 車速約 30 ～ 80km/h
 - ・ 自車から見た前方車両との相対速度約 30km/h 以上
- プリクラッシュブレーキ
 - ・ 車速約 10 ～ 80km/h
 - ・ 自車から見た前方車両との相対速度約 10km/h 以上

ブレーキペダルを踏んでいる場合は、ドライバーに回避操作の準備ができていますと判断し、プリクラッシュブレーキの開始タイミングを遅らせる場合があります。

以下の操作中はドライバー操作を優先し、システムが作動しないことがあります。

- アクセルペダルを強く踏み込んでいるとき
- ハンドルを大きくきった、または素早く操作しているとき

以下の場合、システムは作動しません。

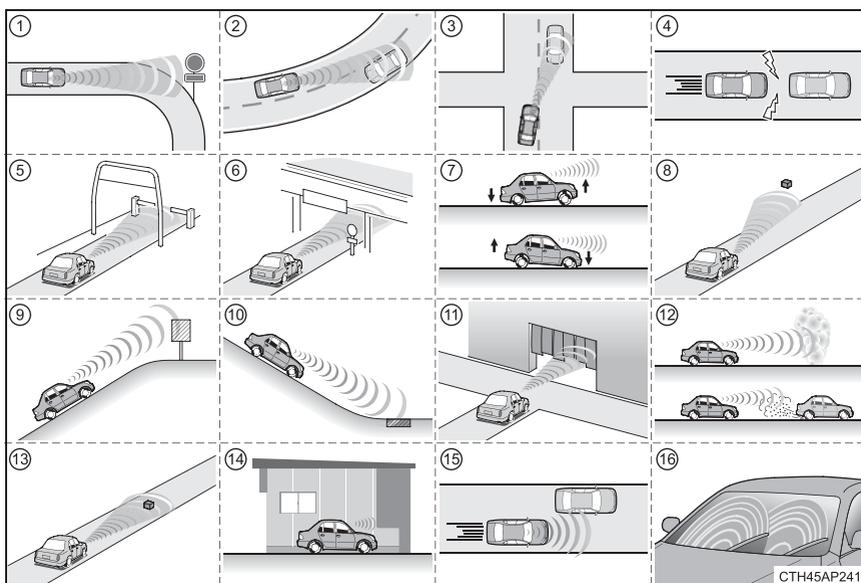
- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）
- PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき
- シフトポジションが R のとき

■ プリクラッシュブレーキの作動解除

- プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
 - ・ アクセルペダルを強く踏み込んだ*
 - ・ ハンドルを大きくきった、またはすばやく操作した
- * 車速が約 15 km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してプリクラッシュブレーキの作動が解除されることがあります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、車両が停止してから約 2 秒後にプリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

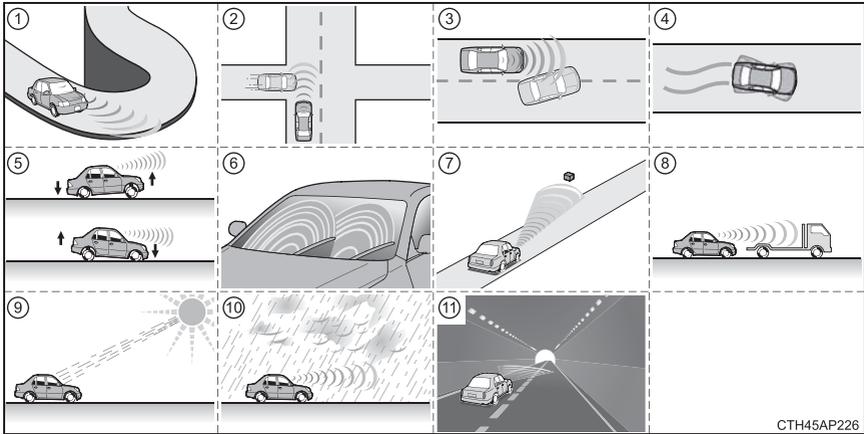
次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。



- ① カーブの入り口の道路脇に障害物（道路標識・ガードレールなど）があるとき
- ② カーブで対向車とすれ違ったとき
- ③ 右左折時に対向車とすれ違ったとき
- ④ 先行車に急速に接近したとき
- ⑤ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
- ⑥ 立体交差・道路標識・看板などが進行方向にあるとき
- ⑦ 車両姿勢が変化しているとき
- ⑧ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき
- ⑨ 上り坂で進行方向の道路上方に構造物（看板・街灯など）があるとき
- ⑩ 下り坂で進行方向の路面に金属物（マンホール・鉄板など）があるとき
- ⑪ 車両に覆い被さるような障害物（垂れ幕・垂れ下がった枝など）があるとき
- ⑫ 濃い霧や煙などがある場所を通過するときや、先行車などから水・雪などの巻き上げがあるとき
- ⑬ 路面上に反射物・段差・突起物などがあるとき
- ⑭ 前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐車するとき
- ⑮ 障害物（停止車両・ガードレールなど）の横すれすれを通過するとき
- ⑯ フロントウィンドウガラスが汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などで覆われているとき

■ システムが正常に働かないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正しく作動しない場合があります。



CTH45AP226

- ① きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
- ② 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがあるとき
- ③ 自車の進行方向に急な割り込みがあるとき
- ④ 車が横すべりしているとき
- ⑤ 車両姿勢が変化しているとき
- ⑥ フロントウィンドウガラスが汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などで覆われているとき
- ⑦ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき
- ⑧ レーザー波を反射しにくい先行車（後ろ部分が極端に低い・ひどく汚れているなど）のとき
- ⑨ 前方からの強い光（太陽光・対向車のヘッドランプ光など）が前方センサーに直接あたっているとき
- ⑩ 雨・霧・雪・砂嵐など悪天候のとき
- ⑪ トンネル内や夜間など、周囲が暗いとき

■ PCS 警告灯が点滅したとき (3 眼メーター装着車)

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

- 次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯が消灯し、作動可能状態になります。
 - ・ 炎天下に駐車したあとなど、前方センサー周辺の温度が高いとき
 - ・ フロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき (→ P. 227, 235)
 - ・ ボンネットが開いているなど、前方センサーの前がさえぎられているとき
- PCS 警告灯が点滅したままのときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ PCS 警告灯が点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき (2 眼メーター装着車)

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

- 次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
 - ・ 炎天下に駐車したあとなど、前方センサー周辺の温度が高いとき
 - ・ フロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき (→ P. 227, 235)
 - ・ ボンネットが開いているなど、前方センサーの前がさえぎられているとき
- PCS 警告灯が点滅したままのとき、および警告メッセージが表示されたままのときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ TRC と VSC を停止したとき

- TRC と VSC の作動を停止 (→ P. 216) したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。ただし、衝突警報は作動します。
- 3 眼メーター装着車：PCS 警告灯が点灯します。
- 2 眼メーター装着車：PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすれば思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件（→ P. 175）により異なります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。

- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- 走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、以下の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保して下さい。
 - ・車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
 - ・減速中にアクセルペダルを深く踏み込む（→ P. 175）
 - ・プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする（→ P. 174）
- プリクラッシュブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。また、プリクラッシュブレーキ作動終了後は、クリーブ現象により車両が前進しますので、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

 **警告****■ システムの支援内容に関する注意点**

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

● 運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方車両を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方車両の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムの制動制御は、衝突の可能性が高いと判断した段階で作動するもので、運転者の適切な操作なしに衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

 **注意****■ システムの誤作動を防ぐために**

次のときは、プリクラッシュセーフティシステムを OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

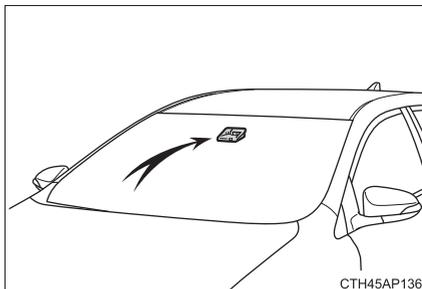
- 点検でシャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどに積載するとき
- 車両姿勢が変化しているとき(メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているときや、サスペンションを改造しているときなど)
- 車両けん引時

LDA (レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報) ★

機能概要

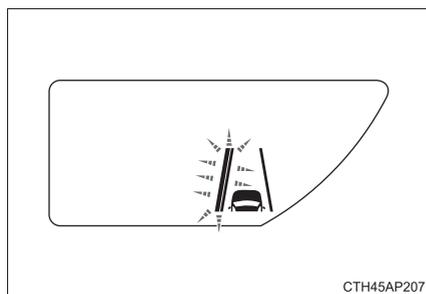
白（黄）線の整備された道路を走行中に、フロントウインドウガラス上部の前方センサーを利用して白（黄）線を認識し、走行中の車線から車両が逸脱したとシステムが判断した場合に、ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に警告します。

前方センサー

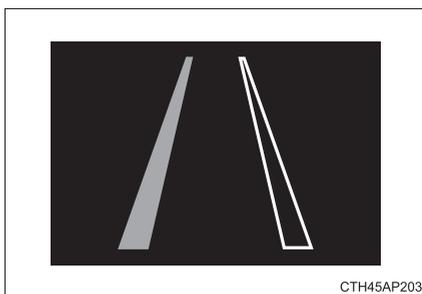


車線逸脱警報機能

▶ 3 眼メーター装着車



▶ 2 眼メーター装着車



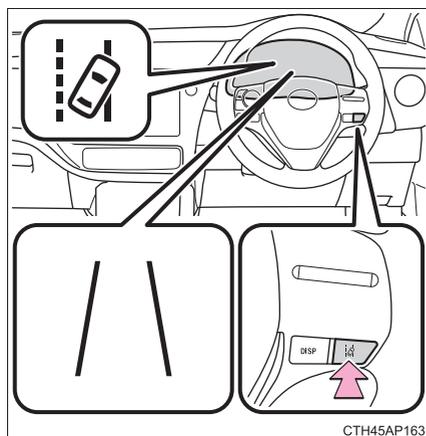
車両が車線から逸脱するとシステムが判断した場合に、警報ブザーが「ピピピピ」と鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、周りの道路状況を確認して、安全なハンドル操作で白（黄）線内の中央付近にもどってください。

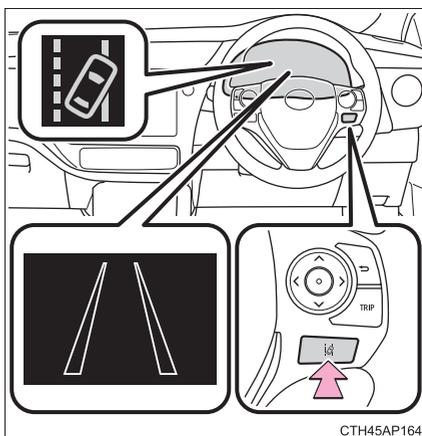
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定のしかた

▶ 3 眼メーター装着車



▶ 2 眼メーター装着車



LDA を使用するには LDA スイッチを押す

メーター内の LDA 表示灯が緑色で点灯します。

解除するには再度 LDA スイッチを押します。

LDA の ON/OFF 状態は、エンジンスイッチ OFF 後、再始動しても継続します。

作動条件

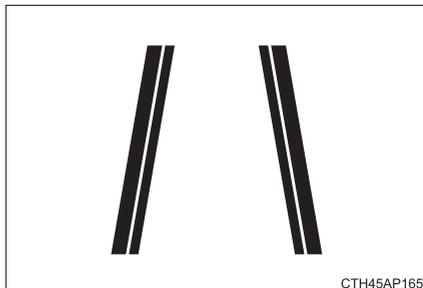
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3 m 以上のとき
- 直線路またはゆるいカーブ(半径約 150m 以上)を走行しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ表示 (3眼メーター装着車)

両側の白線表示灯が太いとき：

左右の白（黄）線が認識されていることを示しています。

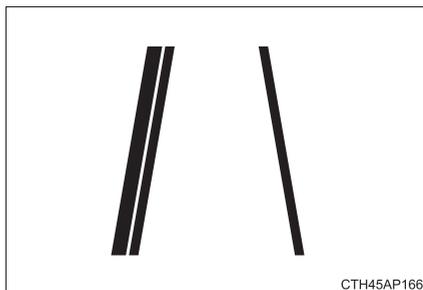
車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が点滅します。



片側の白線表示灯が太いとき：

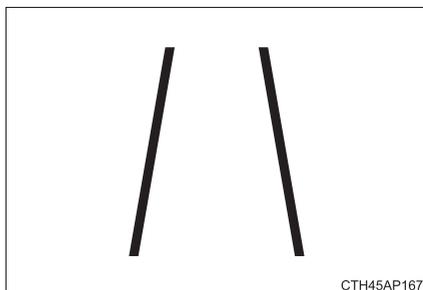
左右いずれか一方の白（黄）線が認識されていることを示しています。

認識されている側の白（黄）線から車両が逸脱した場合、その白線表示が点滅します。



両側の白線表示灯が細いとき：

白（黄）線が認識されていないまたは LDA が一時的に解除されていることを示しています。



マルチインフォメーションディスプレイ表示 (2 眼メーター装着車)

両側の白線表示内側が白いとき：

左右の白（黄）線が認識されていることを示しています。

車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が黄色で点滅します。



片側の白線表示内側が白いとき：

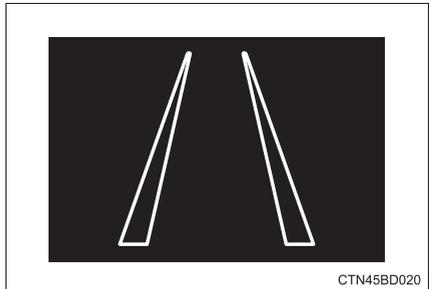
左右いずれか一方の白（黄）線が認識されていることを示しています。

認識されている側の白（黄）線から車両が逸脱した場合、その白線表示が黄色で点滅します。



両側の白線表示内側が黒いとき：

白（黄）線が認識されていないまたは LDA が一時的に解除されていることを示しています。



 知識**■機能の一時解除**

次のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 方向指示レバーを操作したとき
- 作動条件以外の車速になったとき
- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき
- 車線逸脱警報吹鳴直後

車線逸脱警報が作動してから数秒間は、再度車線を逸脱しても警報は作動しません。

■車線逸脱警報について

オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、警報音が聞き取りづらくなる場合があります。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動せず、LDA 表示灯が黄色で点灯^{※1}、またはマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示^{※2}されることがあります。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→P. 181）の温度が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

※¹ 3 眼メーター装着車

※² 2 眼メーター装着車

■白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次の状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないことがあります。故障ではありません。

- 料金所や検札所の手前や交差点などを走行するとき
- 急カーブを走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線がかすれていたり、道路鈎や置き石などのとき
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行するとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方センサーに入射するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行するとき
- 悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

■タイヤを交換したとき

タイヤによっては十分な性能が確保できない場合があります。

■LDA 表示灯が黄色で点灯したとき（3眼メーター装着車）

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■LDA の警告メッセージ（2眼メーター装着車）

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。

 **警告****■ LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 誤操作を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物・模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行するとき
- 雨・雪・霧・砂・汚れなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- 工事によって規制された車線や仮設の車線を走行するとき

 **注意****■ LDA の故障や誤作動を防ぐために**

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。サスペンション部品の交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けしないでください。

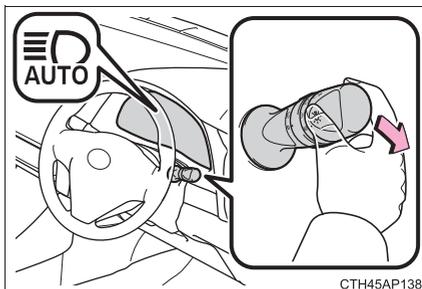
オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

オートマチックハイビームの使い方

ランプスイッチを **AUTO** にし、レバーを前方へ押し

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

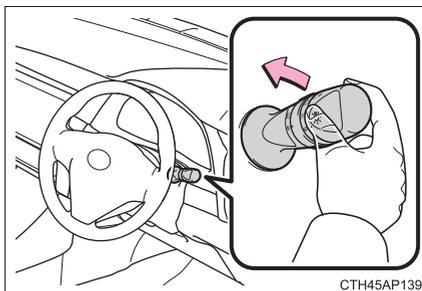
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

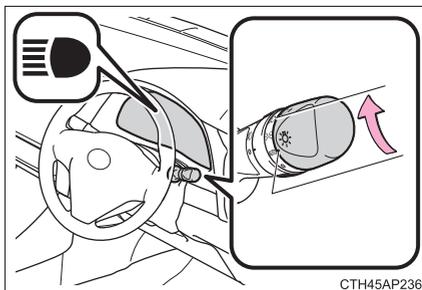
オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押しします。



■ ハイビームへの切りかえ

ランプスイッチを  にする

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ オートマチックハイビームについて

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ 前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ 前方センサーの温度が非常に高いとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・ カーブが多い道路を走行しているとき
 - ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
 - ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
 - ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき

■ オートマチックハイビーム表示灯が黄色で点灯したとき（3眼メーター装着車）

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

 **警告****■安全にお使いいただくために**

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切りかえてください。

 **注意****■オートマチックハイビームを正しく作動させるために**

オートマチックハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。

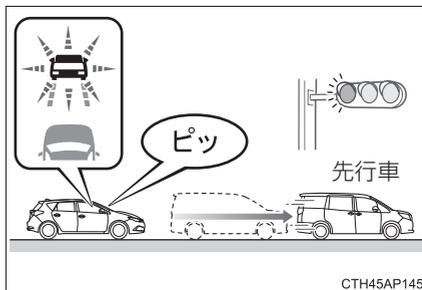
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない

先行車発進告知機能★

先行車の発進後、自車が停車し続けた場合、警告ブザーと表示でお知らせするシステムです。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停車しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停車し続けた場合に告知します。



知識

■ 作動条件

- シフトレバーが D でブレーキペダルを踏んで停車している、またはシフトレバーが N で停車しているとき（オートマチック車）
- ブレーキペダルを踏んで停車しているとき（マニュアル車）

■ 先行車が発進したのに告知されない可能性があるとき

次の状況では先行車発進告知機能による告知がされない場合があります。

- 自車と先行車の停車位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）により、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車が二輪車のとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 先行車を認識できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

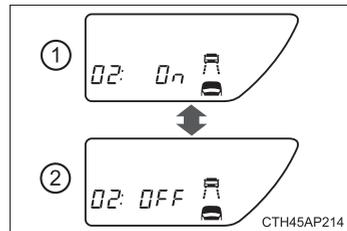
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティシステムが一時的に使用できないときや、故障などにより PCS 警告灯が点滅しているとき
- ハンドルを大きくきいているとき

■ 先行車発進告知機能を ON / OFF するには

▶ 3 眼メーター装着車

マルチインフォメーションディスプレイの設定モード（→ P. 68）から、先行車発進告知機能を ON / OFF にできます。

- 1 表示切りかえスイッチまたは DISP スイッチを押し、設定モードから先行車発進告知設定「02」を表示する
- 2 表示切りかえスイッチまたは DISP スイッチを長押しするごとに、ON / OFF が切りかわる
 - ① ON（告知機能有）
 - ② OFF（告知機能無）



▶ 2 眼メーター装着車

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面（→ P. 78）から、先行車発進告知機能を ON / OFF にできます。

- 1 メーター操作スイッチを押し、設定画面から「先行車発進」を選択し決定スイッチを押し
- 2 先行車発進画面の「告知設定」を選択する
- 3 決定スイッチを押すごとに機能の「ON（告知機能有）」・「OFF（告知機能無）」が切りかわる

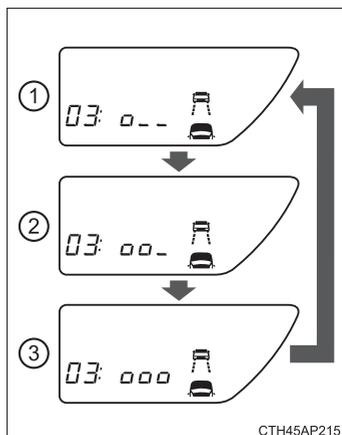
■ 先行車発進告知機能の告知タイミングを切りかえるには

▶ 3 眼メーター装着車

マルチインフォメーションディスプレイの設定モード (→ P. 68) から、先行車発進告知機能の告知タイミングを変更することができます。

- 1 表示切りかえスイッチまたは DISP スイッチを押し、設定モードから先行車発進告知タイミング設定「03」を表示する
- 2 表示切りかえスイッチまたは DISP スイッチを長押しすることにより、告知タイミングが切りかわる

- ① 遅い
- ② 普通
- ③ 早い



CTH45AP215

▶ 2 眼メーター装着車

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面 (→ P. 78) から、先行車発進告知機能の告知タイミングを変更することができます。

- 1 メーター操作スイッチを押し、設定画面から「先行車発進」を選択し決定スイッチを押す
- 2 先行車発進画面の「告知タイミング」を選択する
- 3 決定スイッチを押すごとに告知のタイミングの「早い」・「普通」・「遅い」が切りかわる

 **警告****■ 告知されない状況のときに告知される可能性があるとき**

次の状況では告知されない状況でも告知がされるおそれがあります。
システムを過信せずに、先行車の動きを確認してから発進をしてください。

- 悪天候（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）により、先行車の発進を誤認識したとき。
- 坂道やカーブなどにより、間違った対象を先行車と認識しているとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、間違った対象を先行車と認識しているとき
- 交差点を先頭で停車時、交差点の先の車両や正面を横切る車両などを先行車と認識したとき
- 自転車と先行車のあいだに、他の車両や移動物が割りこんだり通過したとき

Toyota Stop & Start System (SMART STOP) ★

赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルまたはシフトレバーの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

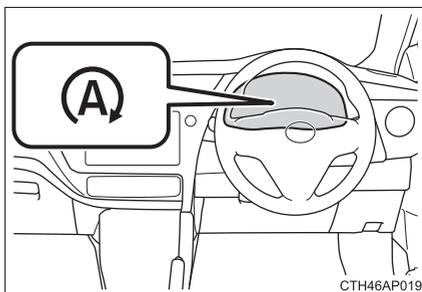
Stop & Start システムの操作

◆ D・M レンジアイドリングストップ

■ エンジンが停止する

シフトレバーをDまたはMで走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させる

Stop & Start 表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離す

Stop & Start 表示灯が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

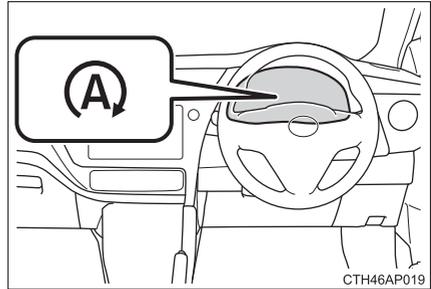
◆ P・Nレンジアイドリングストップ

■ エンジンが停止する

- 1 ブレーキペダルを踏み、車両を完全に停止させる
- 2 シフトレバーを P または N にする (→P. 147)

Stop & Start 表示灯が点灯します。

D・Mレンジアイドリングストップ状態で、シフトレバーを P または N にしても、エンジンの停止状態は継続されます。



■ エンジンが再始動する

シフトレバーを D・M・R のいずれかにする (→P. 147)

シフトレバーの操作はブレーキペダルを踏んで行ってください。

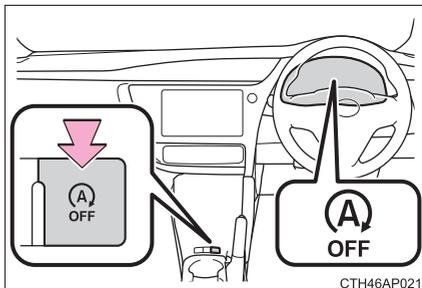
Stop & Start 表示灯が消灯します。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしている場合、一度エンジンスイッチを OFF にしてからイグニッション ON モードにすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますがエンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに、Stop & Start システムによってエンジンが停止します。

坂道発進補助機能 (D・Mレンジアイドリングストップ)

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

 知識

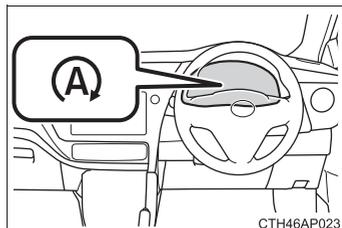
■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
 - ・ ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき
 - ・ シフトレバーが R 以外のとき
 - ・  が OFF のとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ エンジンが十分暖まっているとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・ 外気温が -5°C 以上のとき
 - ・ ボンネットが閉まっているとき
- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ 外気温が高い、または低いときに、エアコンを使用しているとき
 - ・ バッテリーが十分に充電されていないとき、または定期的な充電中のとき
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
 - ・ ハンドル操作をしているとき
 - ・ 渋滞などで、断続的に停車するとき
 - ・ 標高が高いとき
 - ・ エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
 - ・ バッテリー温度が低いとき、または高すぎるとき
 - ・ バッテリーを交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくのあいだ

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ エアコンを ON にしたとき
 - ・  を ON にしたとき
 - ・ ハンドルを操作したとき
 - ・ D・M レンジアイドリングストップ中に、シフトレバーを R にしたとき
 - ・ P・N レンジアイドリングストップ中に、シフトレバーを D・M・R のいずれかにしたとき
 - ・ 運転席シートベルトをはずしたとき
 - ・ 運転席ドアを開けたとき
 - ・ アクセルペダルを踏んだとき
 - ・ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
 - ・ 坂道などで車両が動き出したとき
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
 - ・ エアコンを使用しているとき
 - ・ バッテリーの充電量が低下しているとき

■ Stop & Start 表示灯について

走行中に Stop & Start システムの作動条件が満たされると、Stop & Start 表示灯が点灯し、停止時に Stop & Start システムが作動可能状態であることをお知らせします。



■ ボンネットを開けたとき

- D・M レンジアイドリングストップ中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作 (→ P. 139) でエンジンを始動してください。
- P・N レンジアイドリングストップ中にボンネットを開けたときは、エンジンが自動的に再始動します。
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ Stop & Start システムについて

- Stop & Start システムは赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。
- Stop & Start システムが作動しないときやキャンセルされたとき、または Stop & Start システムに異常が発生したときには、警告メッセージ(2 眼メーター装着車のみ)・警告ブザーで注意を促します。(→ P. 204)
- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押すと、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作 (→ P. 139) でエンジンを始動してください。
- Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリソケットやアクセサリコンセントなどが使用できないことがあります。異常ではありません。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき



を ON にしてください。(エンジンが自動的に再始動します) : → P. 235

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコンについて

Stop & Start システムによるエンジン停止中はエアコン(冷房・暖房・除湿機能)が OFF になり、送風または無風になります。エアコンが OFF にならないようにするには、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ エアコンが ON のときのアイドルストップ時間の長さの切りかえについて

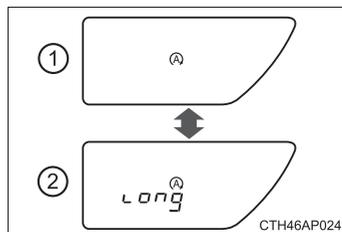
次の操作により、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることができます。(エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません)

▶ 3 眼メーター装着車

● Stop & Start キャンセルスイッチの長押し操作

Stop & Start キャンセルスイッチを3秒以上押し続けるごとに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに現在の設定が表示されます。

- ① 通常
- ② 長め



▶ 2 眼メーター装着車

● Stop & Start キャンセルスイッチの長押し操作

Stop & Start キャンセルスイッチを 3 秒以上押し続けるごとに、「Normal」(通常)・「Long」(長め) が切りかわります。(マルチインフォメーションディスプレイの「Stop & Start システム情報」画面、または「設定」画面で確認できます) (→ P. 77, 78)

● マルチインフォメーションディスプレイの「Stop & Start システム情報」画面 (→ P. 77) からのメーター操作

- 1 「Stop & Start システム情報」画面で、メーター操作スイッチ (→ P. 75) の  を押す
 - 2 メーター操作スイッチの  /  を押して  を選択し、メーター操作スイッチの  を押す
 - 3 メーター操作スイッチの  /  を上下に押して、「Normal」(通常)・「Long」(長め) を選択し、メーター操作スイッチの  を押す
- マルチインフォメーションディスプレイの「設定」画面からのメーター操作
→ P. 78

■ Stop & Start システム保護機能

- 大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。この場合、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上待ってからアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにし、オーディオを再開させてください。
- バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオ（メーカーオプションのナビゲーションシステムを除く）が作動しないことがあります。この場合、いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。
 - ・エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチを OFF にする

■ バッテリーを交換するとき

→ P. 367

■ アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→ P. 77

■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて (2 眼メーター装着車)

次のとき、マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されることがあります。

- Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

メッセージ	状況
 ブレーキをもう少し踏み込んでください	ブレーキペダルを踏む力が足りない ブレーキペダルを踏み足すと作動します。
 エアコン優先	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。 ・  を ON にしている

メッセージ	状況
 バッテリー充電	<ul style="list-style-type: none"> ・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある バッテリーの充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると回復します。 ・ リフレッシュ充電中の可能性がある（参考シーン：バッテリー交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくのあいだなど） 約 5 ～ 40 分間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。 ・ ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にして、しばらく待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。 ・ バッテリーが冷えている可能性がある エンジンをしばらく作動させることでエンジンルーム内の温度が上昇すると作動可能状態になります。 ・ バッテリーが非常に熱くなっている可能性がある エンジンを停止しエンジンルーム内の温度が十分に下がると作動可能状態になります。
 ブレーキシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標高が高い ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下した ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
 シートベルト非装着	<p>運転席のシートベルトをはずしている</p>
 専用バッテリー非装着 (8NR-FTS エンジン搭載車)	<p>Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある Stop & Start システムが作動しません。 トヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

- Stop & Startシステムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

メッセージ	状況
 エアコン優先	<ul style="list-style-type: none"> ・ エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している ・  を ON にした
 ブレーキシステム	<p>ブレーキペダルをさらに踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした</p> <p>走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。</p>
 バッテリー充電	<p>バッテリーの充電量が低下している可能性がある</p> <p>バッテリーの充電を優先させるため、エンジンが再始動しました。エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。</p>
 ハンドル操作	ハンドルを操作した
 シートベルト非装着	運転席のシートベルトをはずした

- マルチインフォメーションディスプレイに「アイドリングストップ故障 販売店で点検してください」が表示されたとき（2眼メーター装着車）

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

 **警告****■ Stop & Start システムが作動しているとき**

- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。
エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶが、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ Stop & Start システムを正常に作動させるために**

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

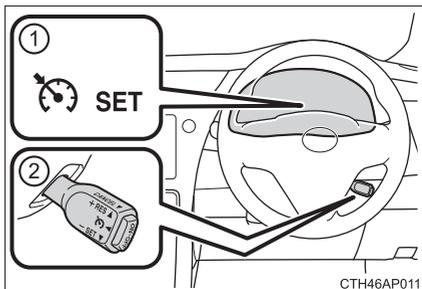
- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 3 眼メーター装着車：運転席ドアを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはインテリアランプスイッチがドアポジションのときにインテリアランプが点灯するとき
- 2 眼メーター装着車：運転席ドアを閉めているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告が表示される、またはインテリアランプスイッチがドアポジションのときにインテリアランプが点灯するとき
- 3 眼メーター装着車：運転席ドアを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはインテリアランプスイッチがドアポジションのときにインテリアランプが点灯しないとき
- 2 眼メーター装着車：運転席ドアを開けているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告が表示されない、またはインテリアランプスイッチがドアポジションのときにインテリアランプが点灯しないとき

クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダル操作をしなくても一定の車速で走行できます。

- ① 表示灯
- ② クルーズコントロールスイッチ

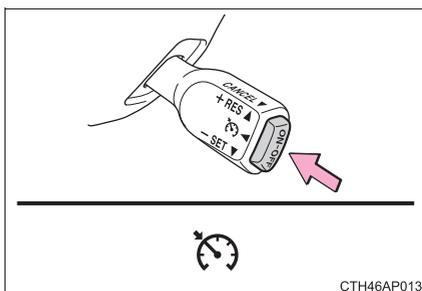


速度を設定する

- 1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

クルーズコントロール表示灯が点灯します。

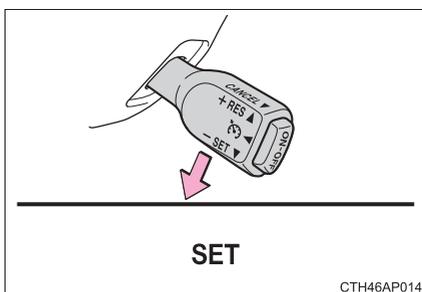
OFF にするには、再度スイッチを押します。



- 2 希望の車速（約 40 ~ 100km/h）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離れたときの車速で定速走行できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

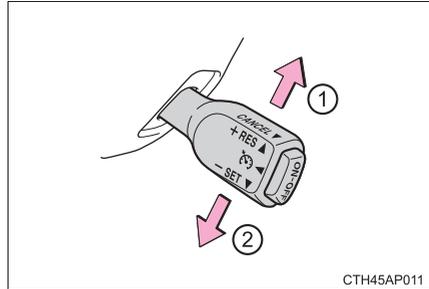
設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

- ① 速度を上げる
- ② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：希望の速度になるまでレバーを保持する



CTH45AP011

設定速度は、次のとおりに増減されます。

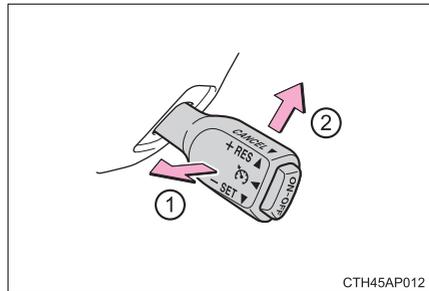
微調整：レバー操作することにより約 1.6km/h

大幅調整：レバーを保持するあいだ

定速走行を解除する・復帰させる

- ① 定速走行を解除するには、レバーを手前に引く
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。
- ② 定速走行を復帰させるには、レバーを上げる

ただし、車速が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



CTH45AP012

 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または M の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- パドルシフトで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
- 車速は約 40 ~ 100km/h の範囲で設定できます。

■ 速度設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。
- クルーズコントロールを解除しなくても、希望の車速まで加速して、レバーを下げることにより設定速度を変更することができます。

■ 定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下した
- 車速が約 40km/h 以下になった
- VSC が作動した

■ 定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズコントロール故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

 **警告****■ 誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 車両けん引時

4WD オートモードスイッチ★

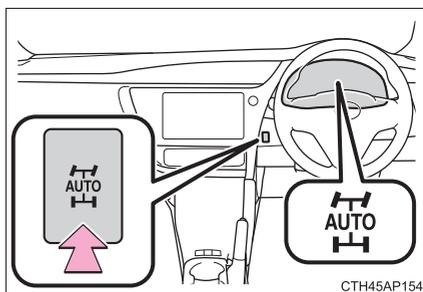
走行安定性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて FF（前輪駆動）走行と 4WD（4 輪駆動）走行を自動的に切りかえます。

操作のしかた

4WD オートモードスイッチを押す

4WD オートモード表示灯が数回点滅後、点灯します。

再度押すと解除されます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ 4WD 警告灯が点滅^{※1}、またはマルチインフォメーションディスプレイに「4WD システム高温 2WD 走行に切りかわりました」と表示^{※2}されたときは**

4WD オートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、FFモードとなります。

この場合は、エンジンをかけたまま次の対応を行ってください。

- 警告灯が消灯するまで、または警告メッセージが表示されなくなるまで車速を落とす
- 警告灯が消灯するまで、または警告メッセージが表示されなくなるまで停車する（エンジンは停止しない）

※¹ 3眼メーター装着車

※² 2眼メーター装着車

■ 4WD 警告灯が点灯^{※1}、またはマルチインフォメーションディスプレイに「4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検」と表示^{※2}されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

また、この場合には、4WD オートモードスイッチの状態にかかわらず FF モードとなります。

※¹ 3眼メーター装着車

※² 2眼メーター装着車

■ 4WD オートモードを使用しないときは

スイッチを押し、FFモードにしてください。FFモードにすることにより燃費性能を高めます。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せず、運転には十分に注意してください。

◆ ABS (アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC (ビークルスタビリティコントロール)

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC (トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS (エレクトリックパワーステアリング)

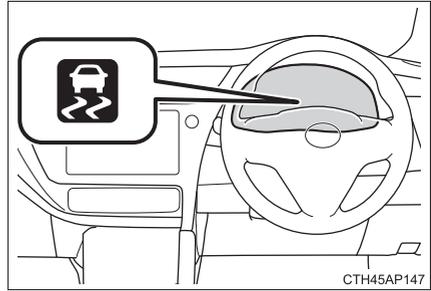
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



CTH45AP147

TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難

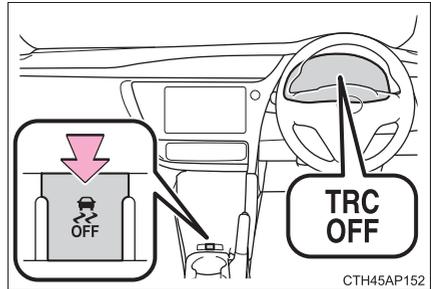
な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

▶ 3眼メーター装着車

TRC を停止するには  を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



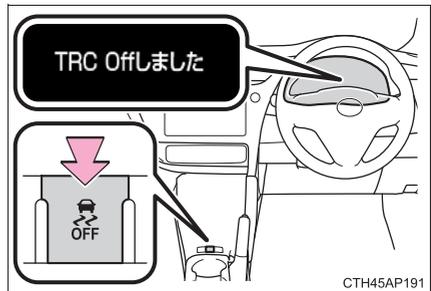
CTH45AP152

▶ 2眼メーター装着車

TRC を停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Offしました」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



CTH45AP191

 知識

■ TRC と VSC を停止するには

▶ 3 眼メーター装着車

TRC と VSC を停止するには停車時に  を押し 3 秒以上保持してください。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。*

もう一度  を押し、システム作動可能状態にもどります。

▶ 2 眼メーター装着車

TRC と VSC を停止するには、停車時に  を押し 3 秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。*

もう一度  を押し、システム作動可能状態にもどります。

* PCS (プリクラッシュセーフティシステム) 装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。(→ P. 178)

■  を押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき (3 眼メーター装着車)

TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■  を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されたとき (2 眼メーター装着車)

TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“LOCK”にしたとき
スマートエントリー&スタートシステム装着車：エンジンスイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10分程度でもとの状態にもどります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- オートマチック車：シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- マニュアル車：前進での上り坂発進時にシフトレバーの位置が R 以外のとき、または後退での上り坂発進時にシフトレバーの位置が R のとき
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- オートマチック車：シフトレバーを P または N の位置にした
- マニュアル車：前進での上り坂発進時にシフトレバーの位置を R にしたとき、または後退での上り坂発進時にシフトレバーの位置を R 以外にしたとき
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

 **警告****■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているとき

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

 **警告****■ タイヤまたはホイールを交換するとき**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 384）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。

（タイヤについて：→ P. 281）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車は下り坂ではR 上り坂では1速に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■ タイヤチェーンについて

- 17 インチタイヤにはタイヤチェーンを装着できません。
- 17 インチタイヤ以外のタイヤを装着している場合：取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。
 - ・ 安全に作業できる場所で行う
 - ・ 前2輪に取り付ける
 - ・ タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
 - ・ 取り付け後0.5～1.0 km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレード★について

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA（レーンディパーチャーアラート）★を使用しない

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。

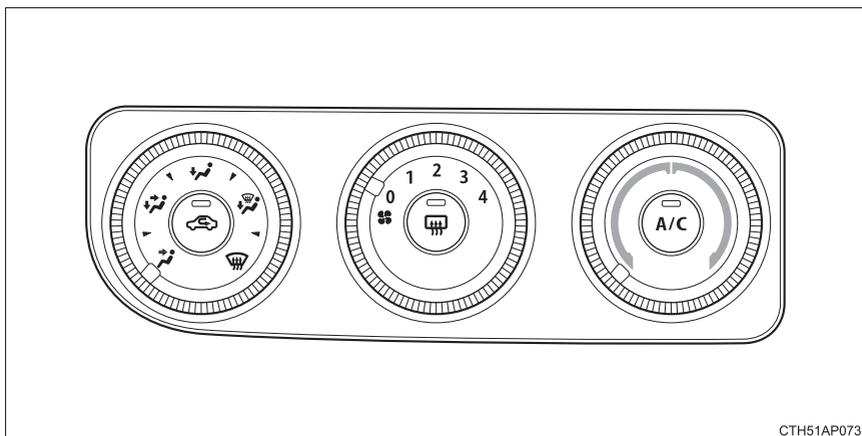
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

5-1. エアコンと デフォグガーの使い方	
マニュアルエアコン.....	226
オートエアコン.....	232
シートヒーター.....	240
5-2. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧.....	242
・インテリアランプ.....	243
・バニティミラーランプ.....	244
・パーソナルランプ.....	244
5-3. 収納装備	
収納装備一覧.....	246
・グローブボックス.....	247
・コンソールボックス.....	247
・ボトルホルダー.....	248
・カップホルダー.....	249
・小物入れ.....	250
ラゲージルーム内装備.....	252
5-4. その他の室内装備の使い方	
その他の室内装備.....	260
・サンバイザー.....	260
・バニティミラー.....	260
・時計.....	261
・アクセサリソケット.....	262
・ステアリングスイッチ.....	263
・リヤアームレスト.....	264
・アシストグリップ.....	264
・パノラマ ルーフシェード.....	265

マニュアルエアコン★

エアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する

温度設定を変更するには  を右（暖）か左（冷）へまわす

 が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を調節するには、 を右（増）か左（減）へまわす

送風を止めるときはダイヤルを0の位置に合わせてください。

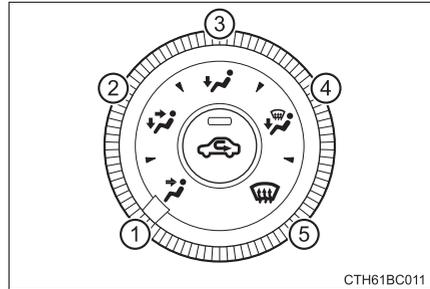
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切りかえる



をまわして吹き出し口を
選ぶ

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る
- ⑤ フロントウインドウガラスの曇りを取る



CTH61BC011

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには



を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環に切りかわります。

内気循環を選択しているときは、の表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りをとるには



をまわして  の位置にする

自動的に外気導入に切りかわります。

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

除湿機能が作動していないときは  を押して作動させる

■ リヤウインドウデフォグラー & ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。



を押す

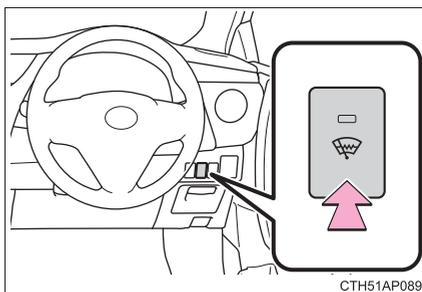
リヤウインドウデフォグラーおよびミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ フロントワイパーデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

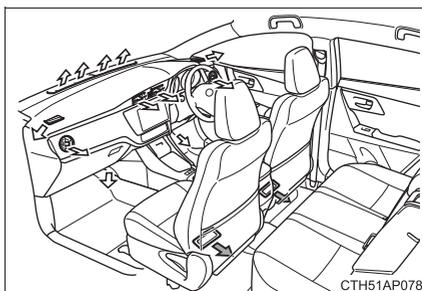


吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。(→ P. 227)

← : 仕様により設定の有無あり

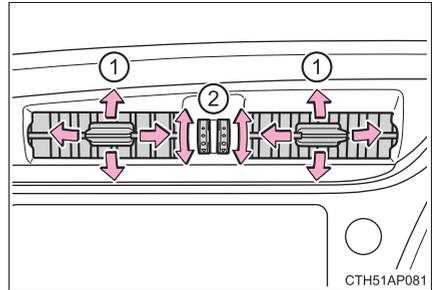


★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 風向き調整と吹き出し口の開閉

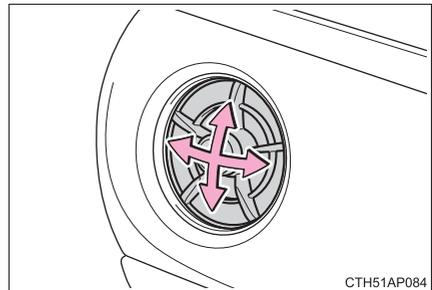
▶ 中央吹き出し口

- ① 風向き調整
- ② 吹き出し口の開閉



▶ 左右吹き出し口

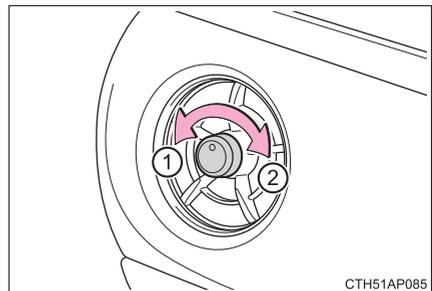
風向き調整



CTH51AP084

吹き出し口の開閉

- ① 開ける
- ② 閉じる



CTH51AP085

 知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、



を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

-  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■ 外気温度がひくいとき



を押しても除湿効果が働かない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■ エアコンフィルターについて

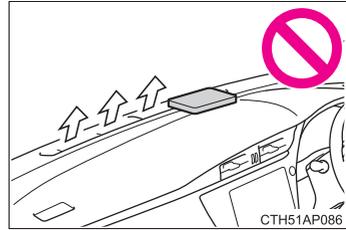
→ P. 306

警告**■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させていると

きは、 を  の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。

**■ リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー★
作動中の警告**

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意**■ バッテリーあがりを防ぐために**

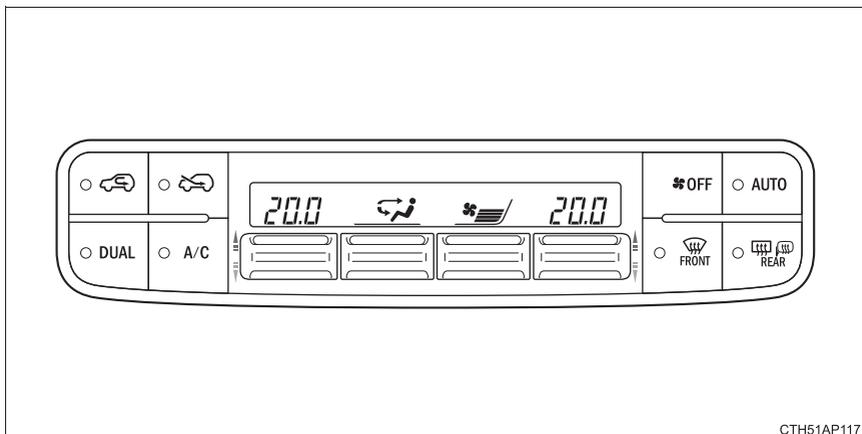
エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートエアコン★

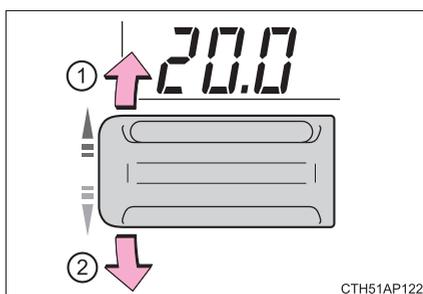
設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する

- ① 温度を上げる
- ② 温度を下げる

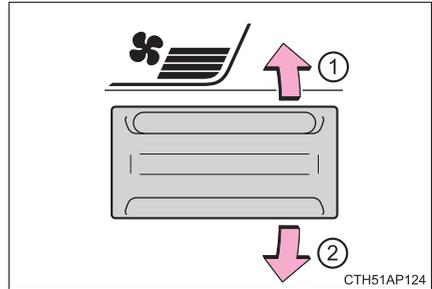


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 風量を切りかえる

- ① 風量を増やす
- ② 風量を減らす

ファンを止めるときは  を
押す

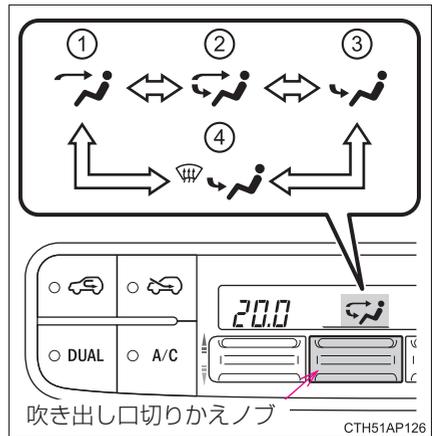


■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえノブを上げる、または下げる

操作するたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



オート設定で使用する

- 1  を押す
- 2 温度を設定する
- 3 ファンをとめたいときは、 を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

-  を押す
- 助手席の設定温度を変更する
左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

内気循環に切りかえるには、 を押す

外気導入に切りかえるには、 を押す

内気循環を選択しているときは  、外気導入を選択しているときは

 の表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りをとるには

 を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグター & ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

 を押す

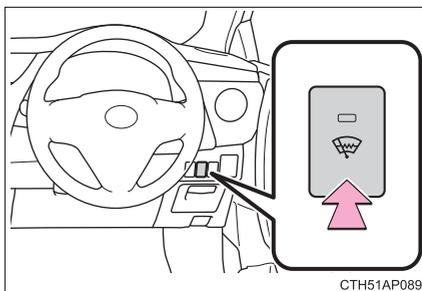
リヤウインドウデフォグターおよびミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFFになります。

■ フロントワイパーデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



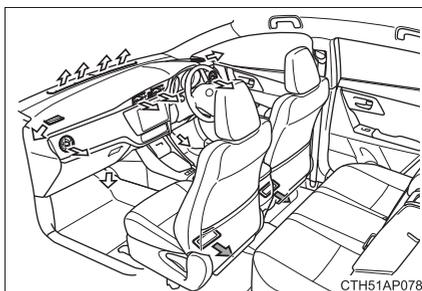
CTH51AP089

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。(→ P. 233)

← : 仕様により設定の有無あり

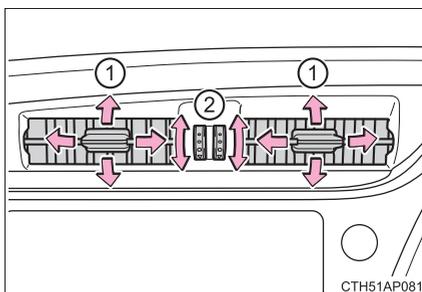


CTH51AP078

■ 風向き調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口

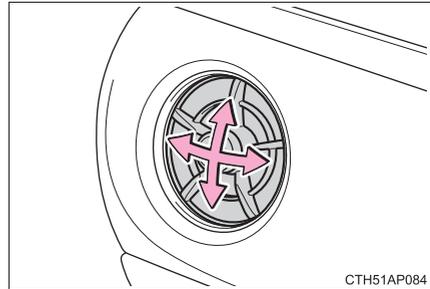
- ① 風向きの調整
- ② 吹き出し口の開閉



CTH51AP081

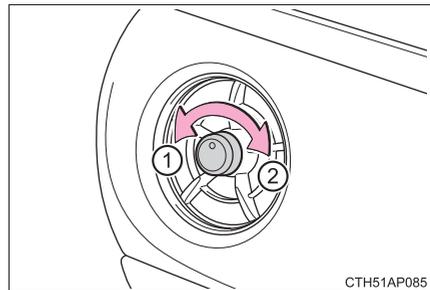
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ▶ 左右吹き出し口
風向き調整



吹き出し口の開閉

- ① 開ける
- ② 閉じる



知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、 を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
-  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度がひくいとき



を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

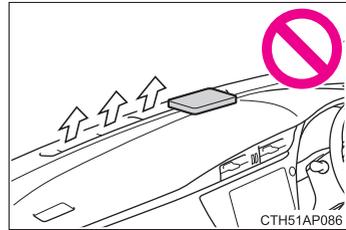
→ P. 306

■ 設定可能な機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できません。(カスタマイズ一覧→ P. 386)

警告**■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。

**■リアウインドウデフォグラー&ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー
★作動中の警告**

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意**■バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーター★

フロントシートを暖めることができます。

警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたがシートヒーターに触れないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いかた
 - ・ 疲労の激しいかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

注意

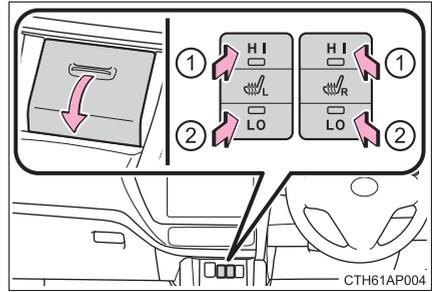
- シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スイッチを押してシートヒーター
を作動させる

- ① HI (強)
- ② LO (弱)

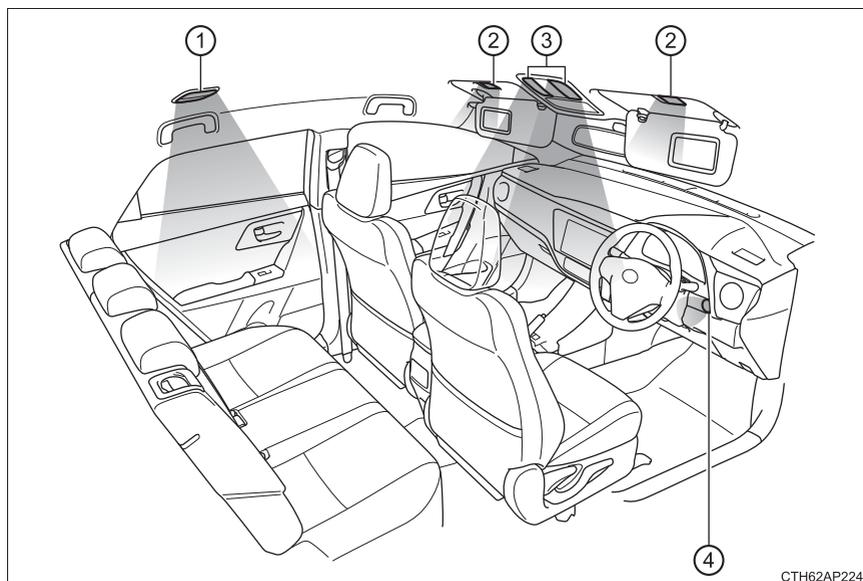
作動中はインジケーターが点灯しま
す。



知識

- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときに使用できます。
- 作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押してください。スイッチが中立の位置にもどり、インジケーターが消灯します。

室内灯一覧



- ① リヤインテリアランプ★ (→ P. 243)
リヤパーソナルランプ★ (→ P. 245)
- ② バニティミラーランプ★ (→ P. 244)
- ③ フロントインテリアランプ／フロントパーソナルランプ
(→ P. 243, 244)
- ④ エンジンスイッチ照明 (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

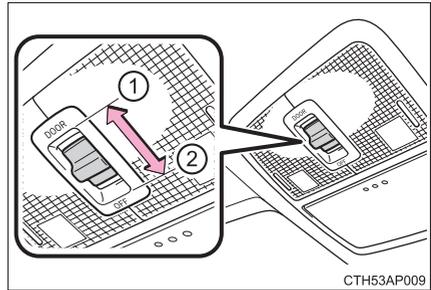
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリアランプ

■ フロント

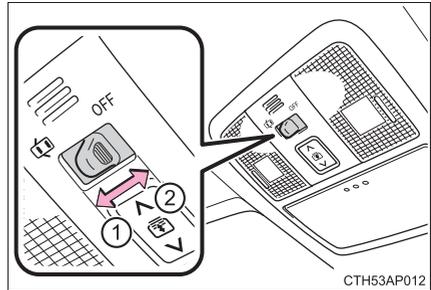
▶ Aタイプ

- ① ドアポジション（ドア連動）
- ② ランプを消灯する



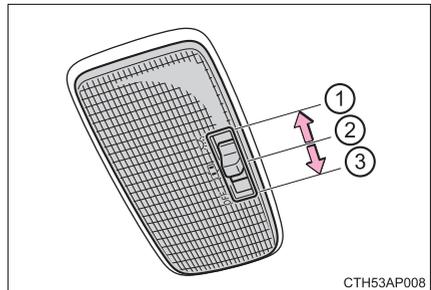
▶ Bタイプ

- ① ドアポジション（ドア連動）
- ② ランプを消灯する



■ リヤ★

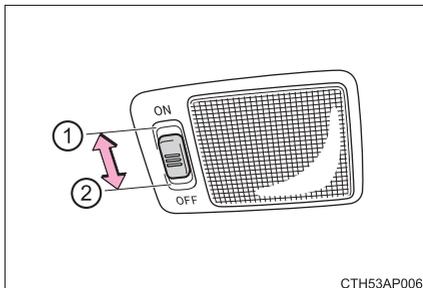
- ① ランプを点灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）
- ③ ランプを消灯する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バニティミラーランプ★

- ① ランプを点灯する
- ② ランプを消灯する



CTH53AP006

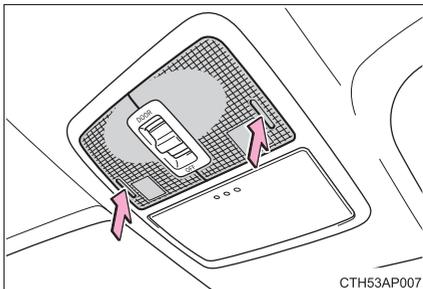
パーソナルランプ

■ フロント

▶ Aタイプ

ランプを点灯・消灯する

ドア連動スイッチによって点灯しているときは、レンズを押しても消灯しません。

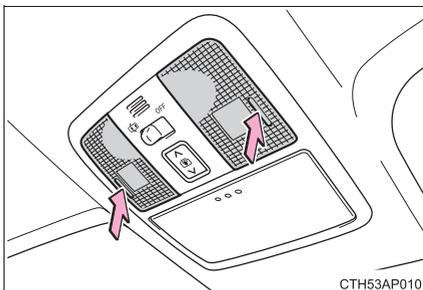


CTH53AP007

▶ Bタイプ

ランプを点灯・消灯する

ドア連動スイッチによって点灯しているときは、レンズを押しても消灯しません。



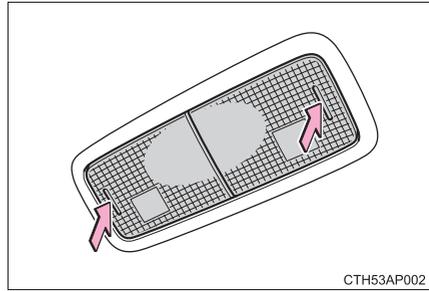
CTH53AP010

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤ★

ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプドア連動スイッチによって点灯しているときは、レンズを押しても消灯しません。



CTH53AP002

□ 知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

インテリアランプスイッチのドアポジションが ON のとき、ドアの施錠・解錠／開閉、エンジンスイッチの位置により、インテリアランプが自動的に点灯、消灯します。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

インテリアランプスイッチのドアポジションが ON のとき、電子キーの検知、ドアの施錠・解錠／開閉、エンジンスイッチのモードにより、インテリアランプとエンジンスイッチ照明が自動的に点灯、消灯します。

■ バッテリーあがりを防ぐために

以下のランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

- パーソナル／インテリアランプ
- ラゲージルームランプ
- バニティミラーランプ

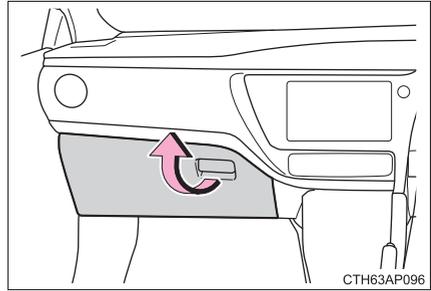
■ 販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 386)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

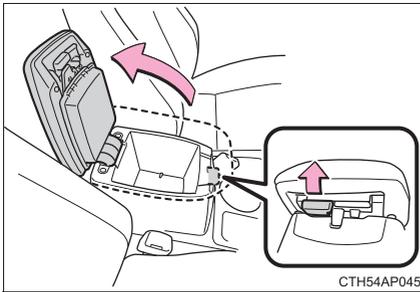
グローブボックス

レバーを引き上げる



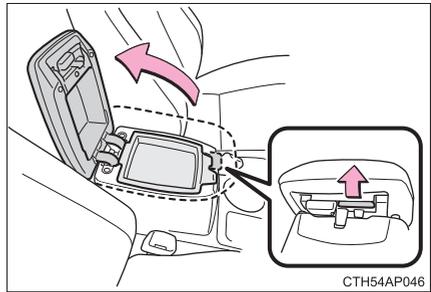
コンソールボックス

▶ コンソールボックス



運転席側のレバーを引いてフタを持ち上げる

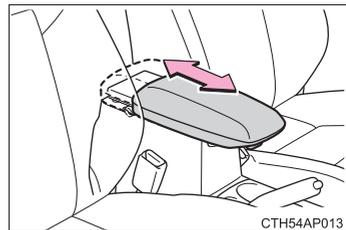
▶ 上段ボックス



助手席側のレバーを引いてフタを持ち上げる

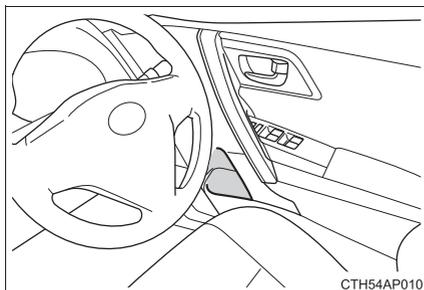
知識

フタを前後にスライドさせることができます。(スライド機能装着車)

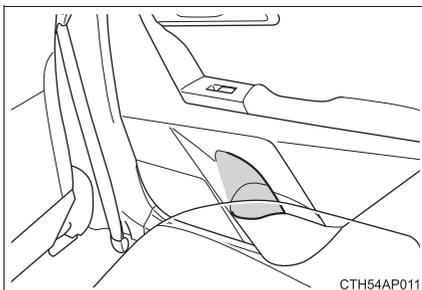


ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



知識

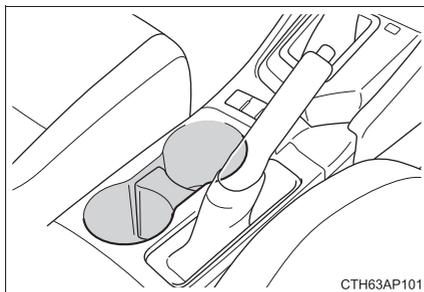
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

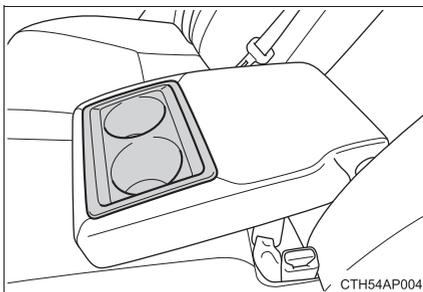
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カップホルダー

▶ フロント

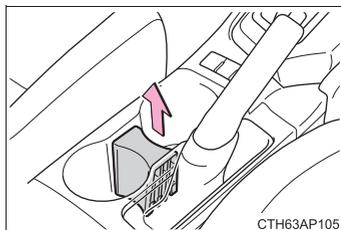


▶ リヤ

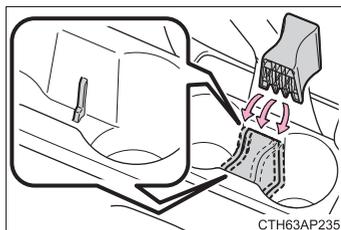


知識

- フロントカップホルダー内を清掃するために、仕切りを取りはずすことができます。



- フロントカップホルダー：仕切りの位置を前後に移動することができます。

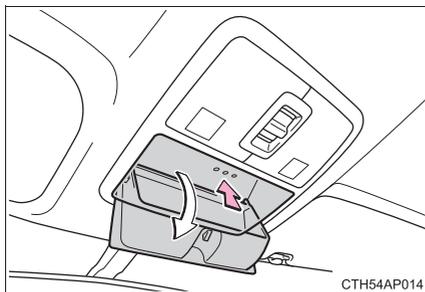


警告

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをすることがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

小物入れ

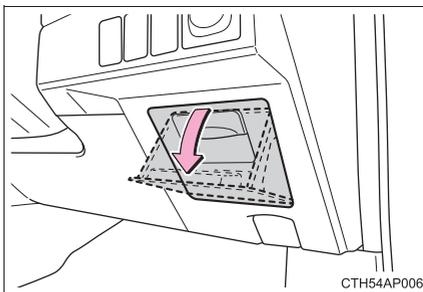
▶ A タイプ



CTH54AP014

フタを押す

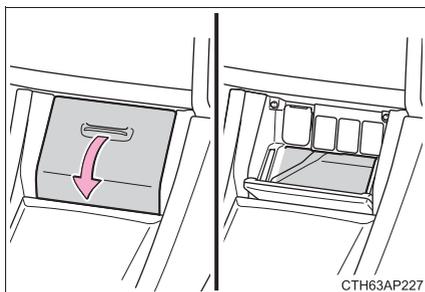
▶ B タイプ



CTH54AP006

ツマミを引いて開ける

▶ C タイプ

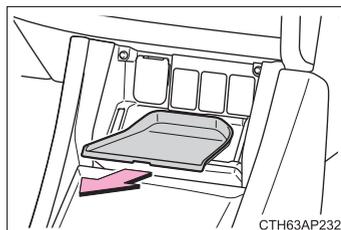


CTH63AP227

ツマミを引いて開ける

知識

C タイプ:ボックス内のトレイを取り外すことができます。



CTH63AP232

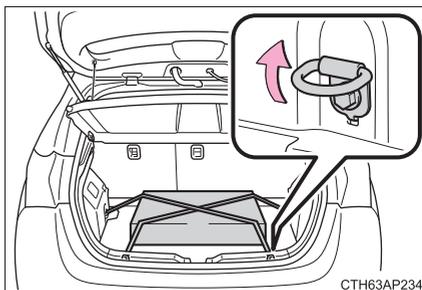
 **警告**

- 小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがををするおそれがあります。
- Aタイプ：200 g 以上のものを入れないでください。200 g 以上のものを入れるとホルダーが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ラゲージルーム内装備

デッキフック★

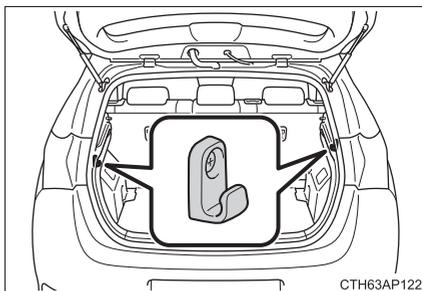
フックを使って荷物を固定することができます。



⚠ 警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしてください。

買い物フック



⚠ 注意

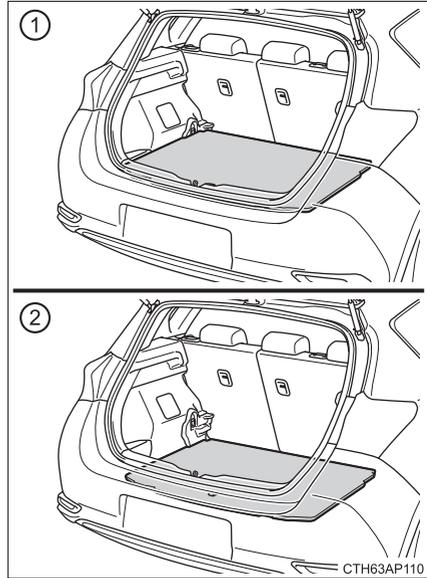
4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アジャスタブルデッキボード★

- ① 上段
- ② 下段

アジャスタブルデッキボードをフロアボードの上に置くことで、下段の位置で使用できます。

**⚠ 警告**

アジャスタブルデッキボードを操作するときは、荷物を載せた状態で操作しないでください。

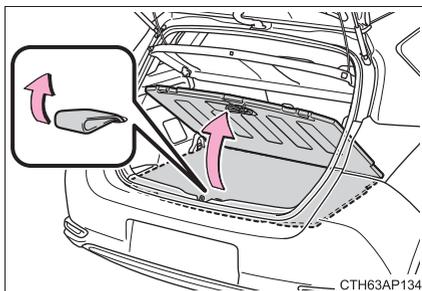
指をはさんだり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アジャスタブルデッキボード★の留め方

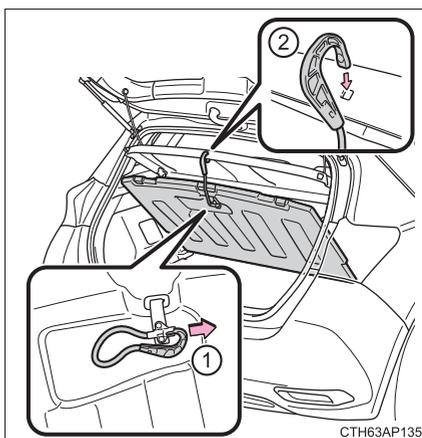
▶ パッケージトレイ未収納時

- 1** アジャスタブルデッキボードを持ち上げる



- 2** アジャスタブルデッキボードを固定する

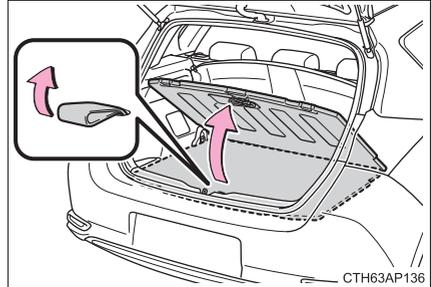
- ① アジャスタブルデッキボード裏面のフックを取りはずす
- ② フックをパッケージトレイの差込口にかけて固定する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

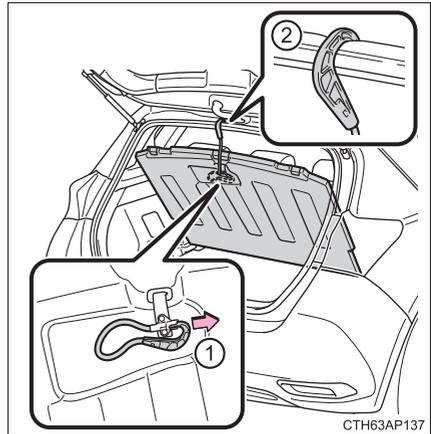
▶ パッケージトレイ収納時

- 1 アジャスタブルデッキボードを持ち上げる



- 2 アジャスタブルデッキボードを固定する

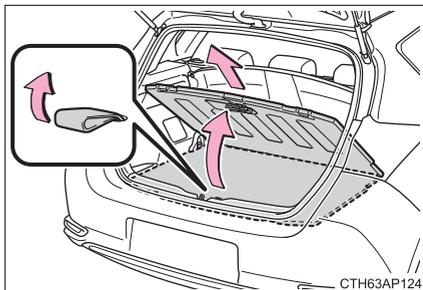
- ① アジャスタブルデッキボード裏面のフックを取りはずす
- ② フックをバックドア開口部の上端に引っかけて固定する

**⚠ 注意**

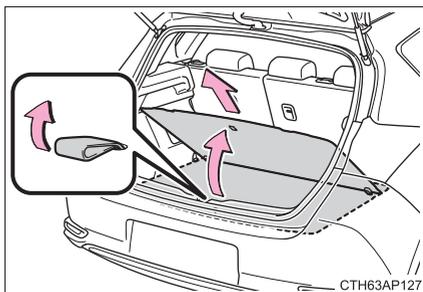
アジャスタブルデッキボードのフックをパッケージトレイ及び、バックドア開口部に引っかけたままバックドアを閉めないでください。内装部品が破損する恐れがあります。

ラゲージアンダートレイ★

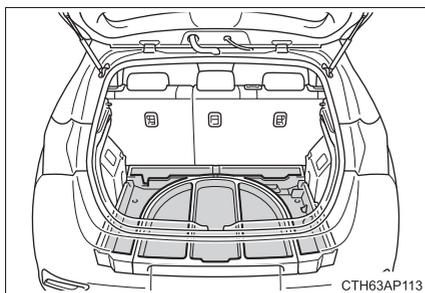
- 1 ストラップを持ってアジャスタブルデッキボード★を持ち上げ、手前に引いて取りはずす



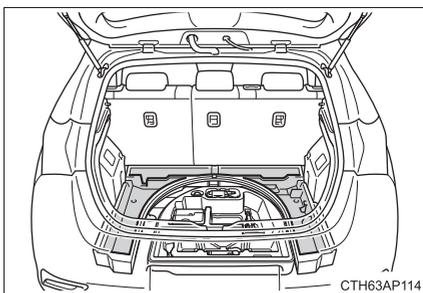
- 2 ストラップを持ってフロアボードを持ち上げ、手前に引いて取りはずす



▶ Aタイプ

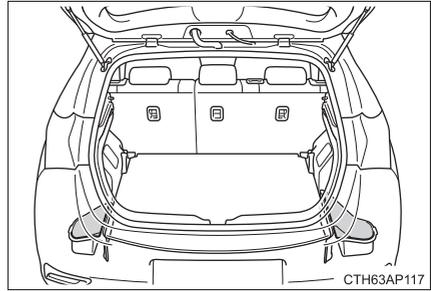


▶ Bタイプ



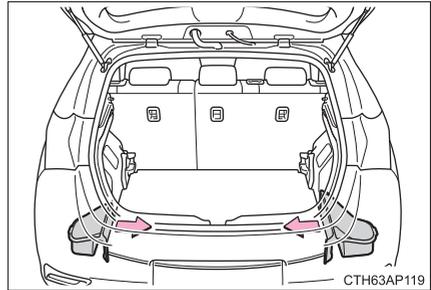
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラゲージサイドトレイ★



CTH63AP117

アジャスタブルデッキボードが下段の位置のとき、取りはずすことができます。

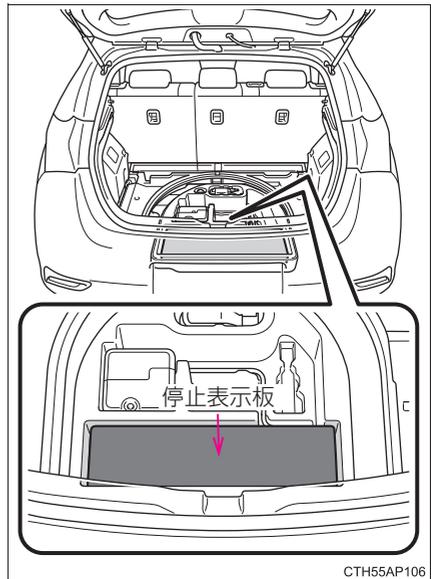


CTH63AP119

停止表示板収納スペース★

停止表示板を収納することができません。

停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。



CTH55AP106

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

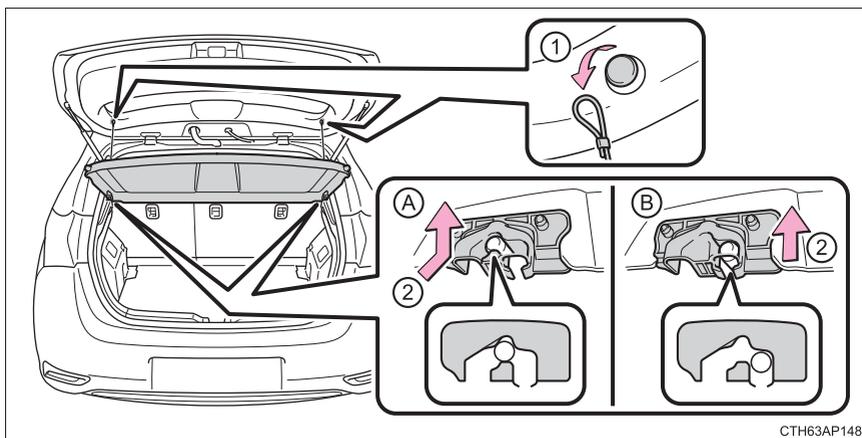
知識

停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

警告

確実に収納されていることを確認してください。確実に収納されていないと、急ブレーキをかけたときなどに停止表示板等が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パッケージトレイの取りはずし

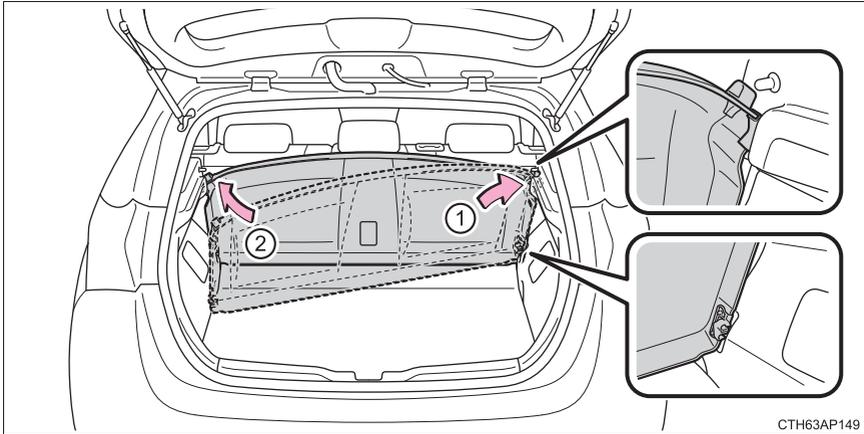


- ① 止めヒモを左右のフックからはずす
- ② トレイを取りはずす

通常は“A”の矢印の方向にトレイを動かして取りはずします。
ただし、トレイを“A”の矢印の方向に動かすことができないときは、
“B”の矢印の方向にトレイを動かして取りはずします。

 知識

はずしたパッケージトレイをリヤシート裏側へ収納することができます。



- ① パッケージトレイの片側をリヤシート裏側とデッキサイドトリムのあいだに差し込む
- ② パッケージトレイを回転させながら反対側に押し込む
パッケージトレイが固定されていることを確認する
取り外すときは、収納したときと逆の手順で取り外す

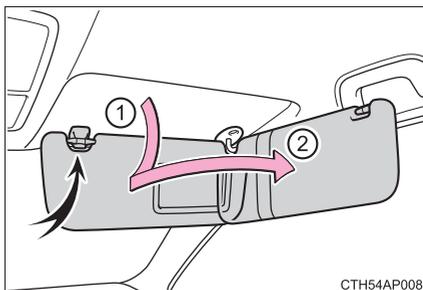
 注意

収納しているパッケージトレイに強い衝撃が加わらないようにしてください。
パッケージトレイが破損するおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザー

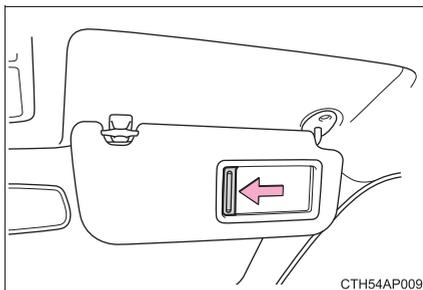
- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



CTH54AP008

バニティミラー

カバーをスライドして開ける

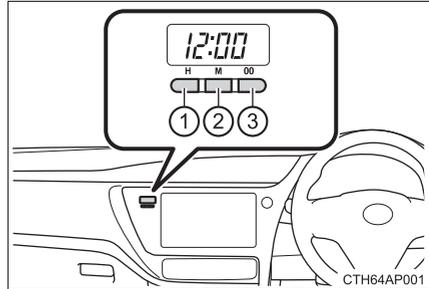


CTH54AP009

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

- ① “時” を調整する
- ② “分” を調整する
- ③ “分” を 00 にする※
※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



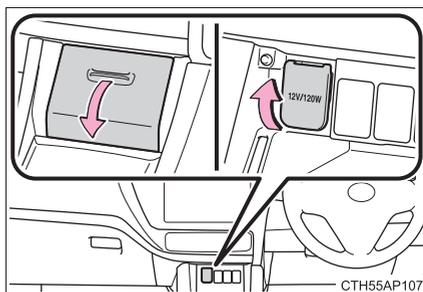
知識

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、時刻が表示されます。
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチがアクセサリまたはイグニッション ON モードのときに、時刻が表示されます。
- バッテリー端子の脱着をしたときに、時計は自動的に 1:00 にセットされます。

アクセサリースOCKET

DC12 V/10 A (消費電力 120 W) 未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、使用することができます。
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチがアクセサリまたはイグニッション ON モードのときに、使用することができます。
- Stop & Start システム装着車：Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリースOCKETが使用できないことがありますが、異常ではありません。

注意

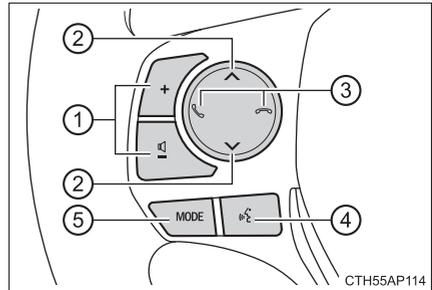
- 異物が入ったり、飲料水などがこぼったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリースOCKETを使用しないでください。

ステアリングスイッチ

この車のステアリングスイッチに対応している販売店装着オプションのオーディオ・ナビゲーションシステムで使用することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の各取扱書をご覧ください。

- ① 音量調整スイッチ
音量を調整する
- ② TUNE/TRACK スイッチ
CD、ラジオなどの操作
- ③ 電話スイッチ
ハンズフリー機能の操作
- ④ トークスイッチ
音声認識モードの操作
- ⑤ MODE（モード切りかえ）スイッチ
電源を入れる、モードの切りかえ

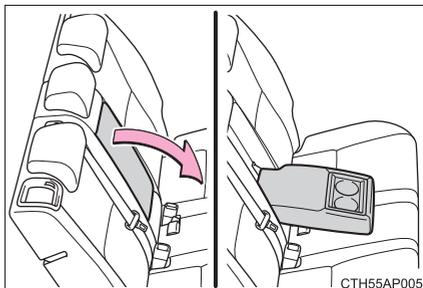


警告

事故を防ぐために、運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

リヤアームレスト

手前に倒して使用します。

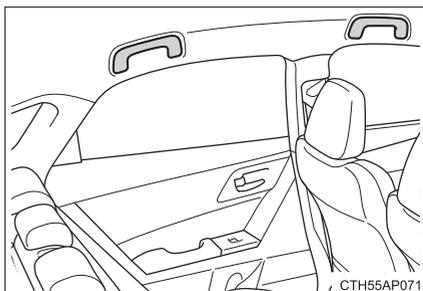


⚠ 注意

アームレストの破損を防ぐために過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ★

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

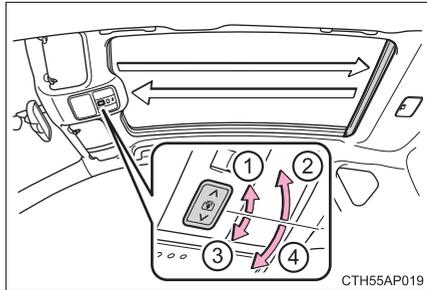
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パノラマーフシェード★

頭上のスイッチでパノラマーフシェードを開閉できます。

- ① 開ける
- ② 自動全開（長押し）※
- ③ 閉める
- ④ 自動全閉（長押し）※

※ 途中で止めるには、スイッチをもう一度押します。



CTH55AP019

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 挟み込み防止機能

パノラマーフシェードを閉めるときに、パノラマーフシェードが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ 自動全開／自動全閉機能が働かない場合

- ① 開ける側を押してパノラマーフシェードを開く
- ② パノラマーフシェードが全開位置まで開き、その後わずかに閉まる（閉じ方向に動く）まで、開ける側を押し続ける

操作後、自動全開／自動全閉機能が作動することを確認してください。

以上の操作を行っても自動全開／自動全閉機能が働かない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パノラマルーフシェードを開閉するときは

- パノラマルーフシェードを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻きこんだりしないように注意してください。
- お子さまには、パノラマルーフシェードの操作をさせないでください。パノラマルーフシェードに挟まれたり巻きこまれたりするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、パノラマルーフシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

6-1. お手入れのしかた	
外装の手入れ.....	268
内装の手入れ.....	272
6-2. 簡単な点検・部品交換	
ボンネット	275
ガレージジャッキ.....	277
ウォッシャー液の補充	279
タイヤについて.....	281
タイヤ空気圧について	285
電子キーの電池交換.....	287
ヒューズの点検・交換	290
電球（バルブ）の交換	293
エアコンフィルターの 交換	306

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

 知識

■ 自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■ 洗車などで車に水をかけたとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー & スタートシステムの作動を停止する（→ P. 103）

■ アルミホイール★

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
 - ・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・ 金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

▲ 警告**■ 洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。

 **注意****■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴム又は樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を約5%の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV カットガラス★について

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

 警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 30)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパー UV カットガラス★を掃除するときは

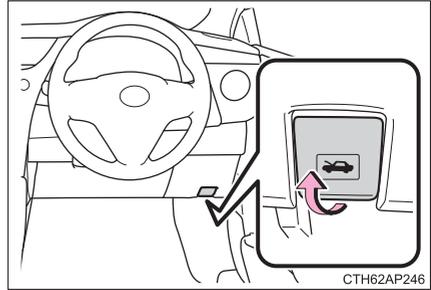
ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

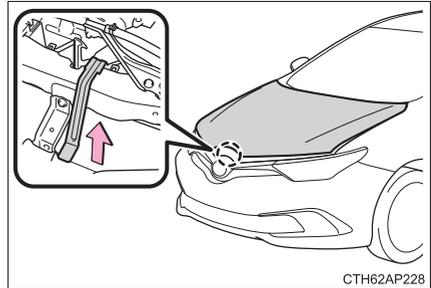
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

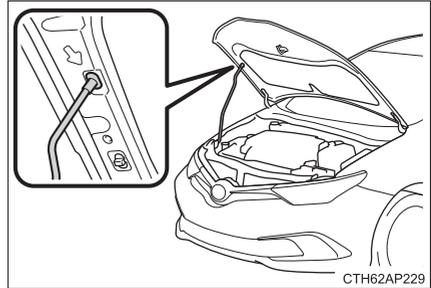
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に差し込む



知識

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすとコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告**■ 走行前の確認**

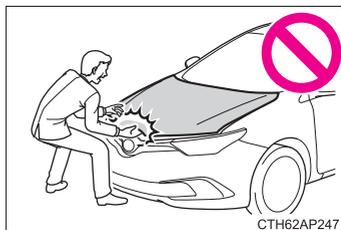
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあります。

**■ ボンネットステーをステー穴に差し込んだあとは**

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ボンネットステーが差し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

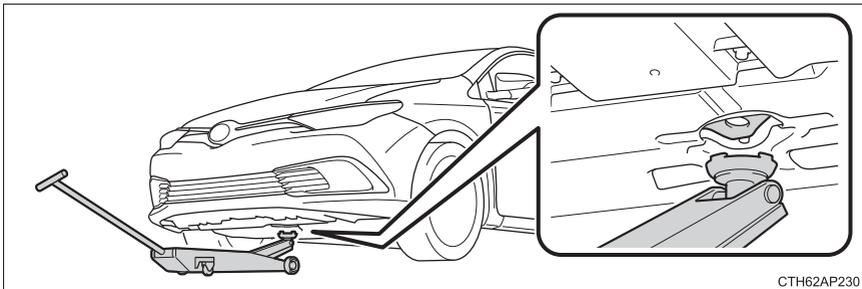
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

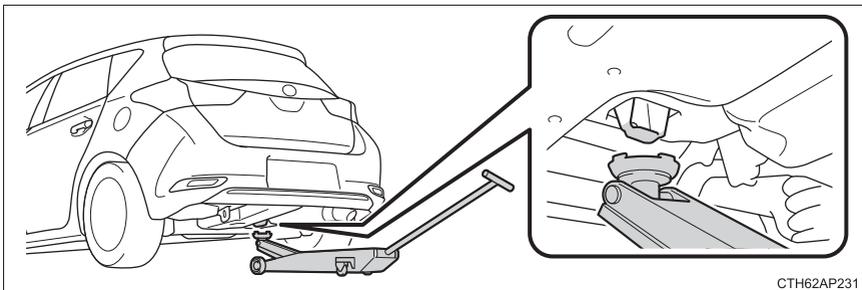
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側

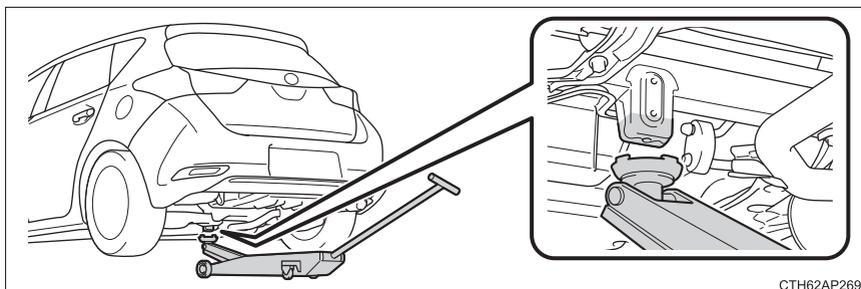


◆ リヤ側

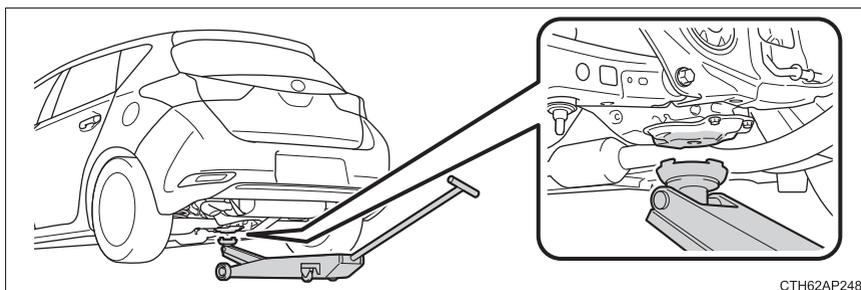
▶ FF車 (Aタイプ)



▶ FF車 (Bタイプ)



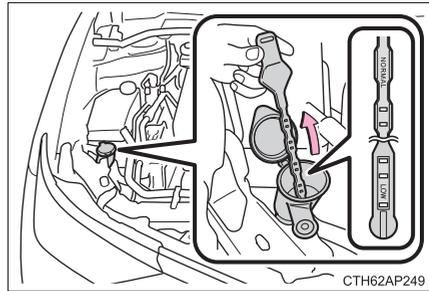
▶ 4WD車 (4輪駆動)



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

液面が LOW の位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。

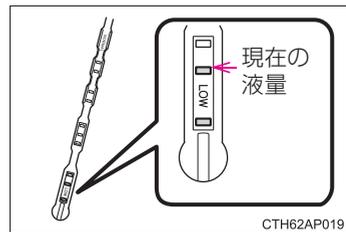


知識

■ ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった (LOW の位置まで低下した) ら、ウォッシャー液を補給してください。



 **警告****■ウォッシャー液を補充するとき**

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

 **注意****■ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

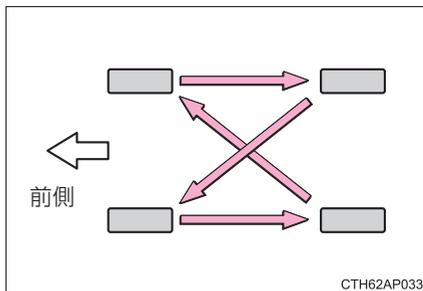
- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



 知識

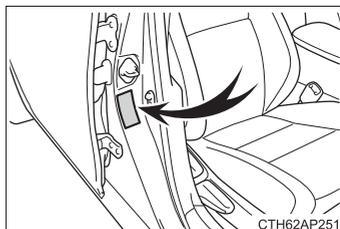
■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	エンジン	空気圧※ kPa (kg/cm ²)
195/65R15 91S	1NZ-FE	230 (2.3)
195/65R15 91H	8NR-FTS	240 (2.4)
205/55R16 91V	1NZ-FE, 2ZR-FAE	230 (2.3)
225/45R17 91W	2ZR-FAE, 8NR-FTS	

応急用タイヤ★：420kPa (4.2kg/cm²) ※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 低扁平タイヤについて (225/45R17 91W 装着車)

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■ 低扁平タイヤの空気圧点検 (225/45R17 91W 装着車)

低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回 (最低でも1ヶ月に1回)、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

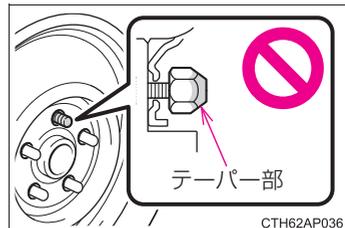
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはすれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリスをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリスがねじ部についている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止（アルミホイール装着車）

- 亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
- 走行中にタイヤの空気圧が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ 低扁平タイヤについて (225/45R17 91W 装着車)**

低扁平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。低扁平タイヤの場合、2週間に1回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。(→ P. 384)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 **警告****■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 **注意****■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときやマルチインフォメーションディスプレイに「キーバッテリー残りわずか」と表示されたとき（2眼メーター装着車のみ）は、新しい電池に交換してください。

用意するもの

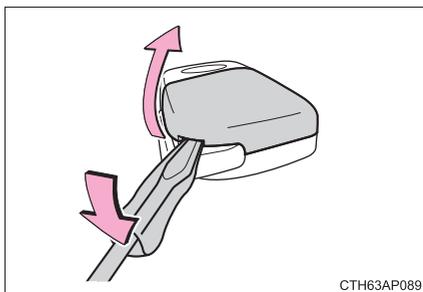
- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池
 - ・ CR1620（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）
 - ・ CR2032（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電池交換のしかた

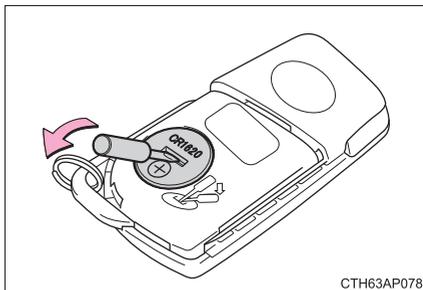
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

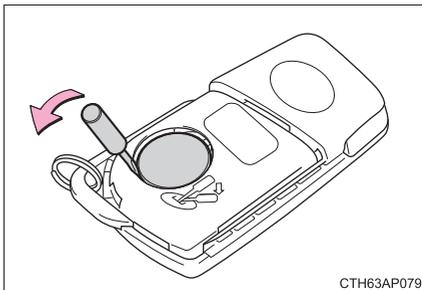


2 電池カバーを取りはずす



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。

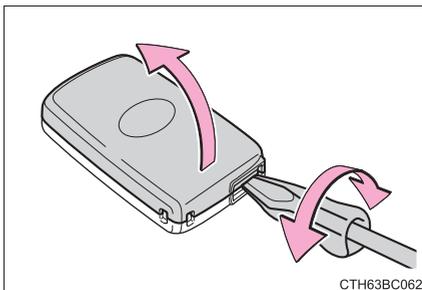


CTH63AP079

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

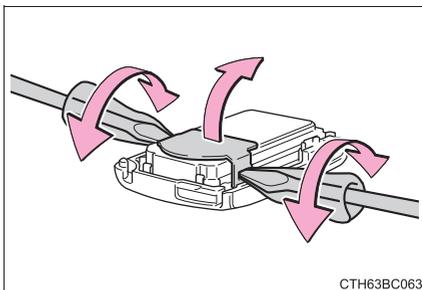
1 メカニカルキーを抜く



CTH63BC062

2 カバーをはずす

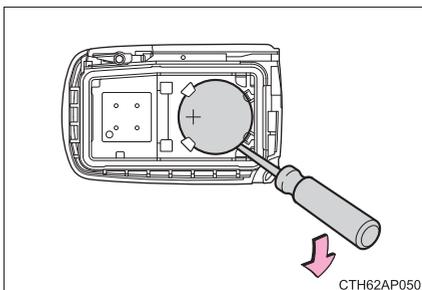
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



CTH63BC063

3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



CTH62AP050

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：CR1620
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：CR2032

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

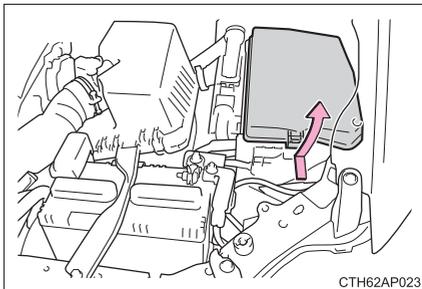
次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

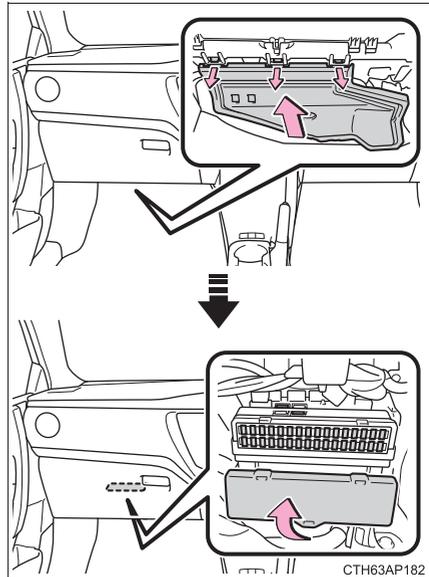
- 1 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“LOCK”にする。
スマートエントリー＆スタートシステム装着車：エンジンスイッチをOFFにする。
- 2 ヒューズボックスを開ける
 - ▶ エンジンルームツメを押しながら、カバーを持ち上げる



CTH62AP023

▶ 助手席足元

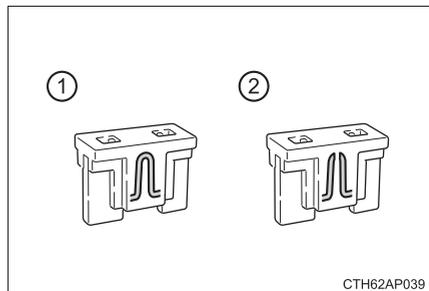
足元のカバー★を取りはずし、ヒューズボックスのカバーを取りはずす



3 ヒューズが切れていないか点検する

- ① 正常
- ② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→ P. 293)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

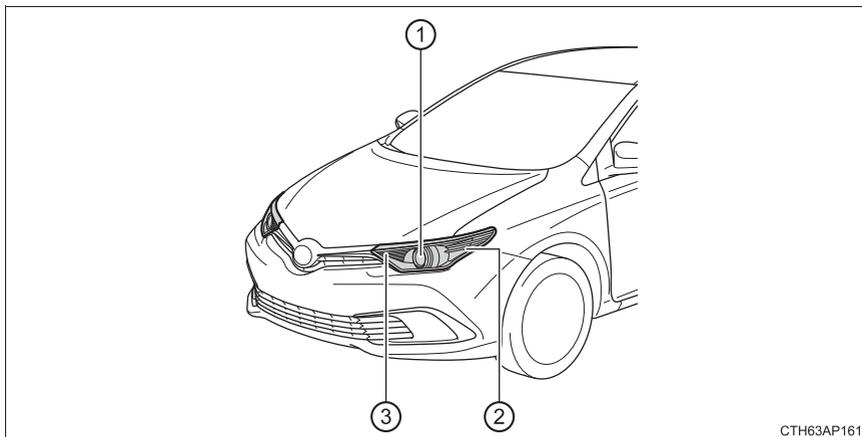
電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→ P. 385）

バルブ位置

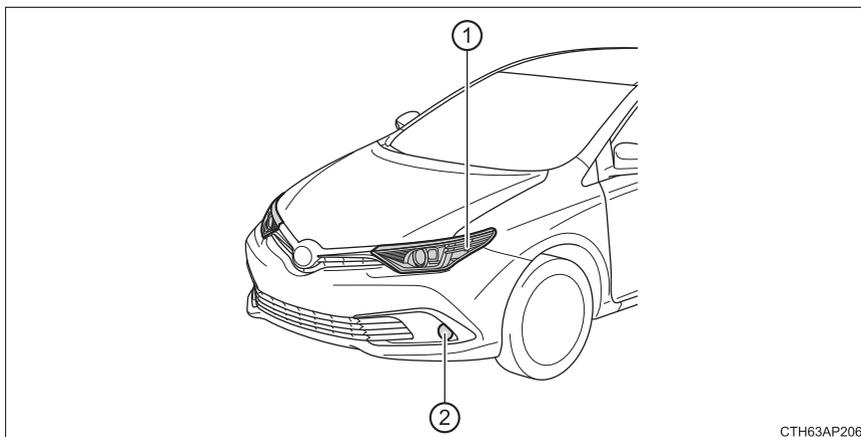
■ フロント

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



- ① ヘッドランプ
- ② フロント方向指示灯／非常点滅灯
- ③ 車幅灯

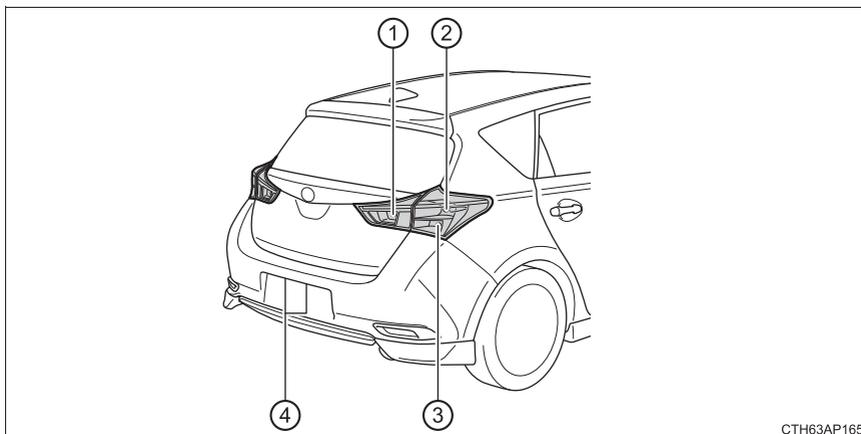
▶ LED ヘッドランプ装着車



CTH63AP206

- ① フロント方向指示灯／非常点滅灯
- ② フロントフォグランプ★

■ リヤ



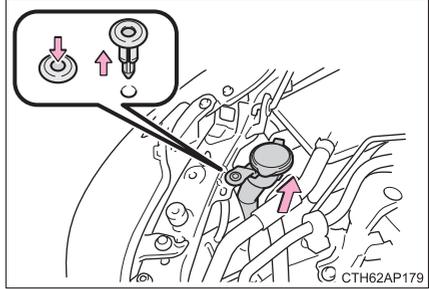
CTH63AP165

- ① 後退灯
- ② 制動灯
- ③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ④ 番号灯

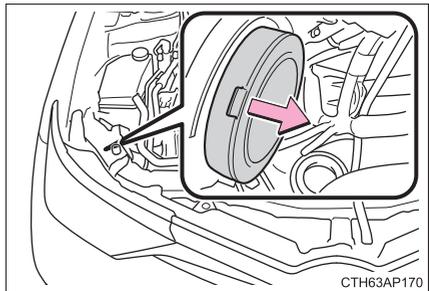
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球交換のしかた**■ ヘッドランプ (ハロゲンヘッドランプ装着車)**

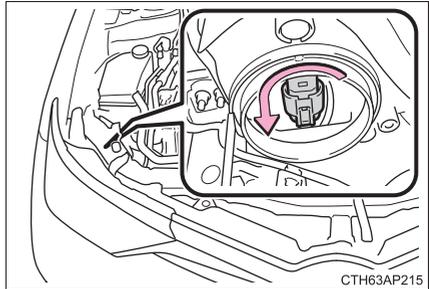
- 1 固定クリップをはずし、ウォッシャー液補給口を引き出す (右側の電球交換時のみ)



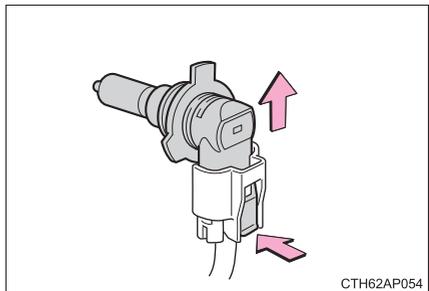
- 2 カバーをはずす



- 3 ソケットをまわして取りはずす

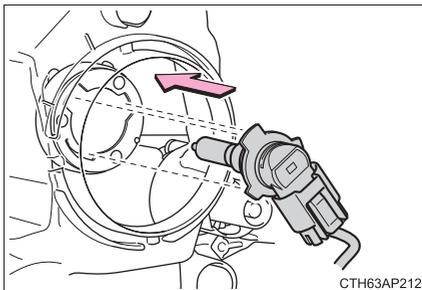


- 4 電球を取りはずす



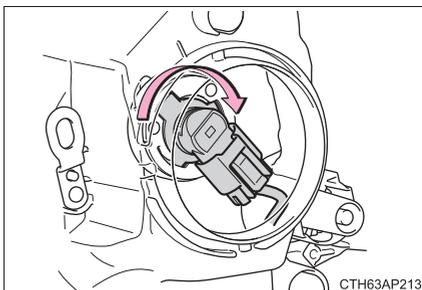
- 5 電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3か所）を合わせて挿し込みます。



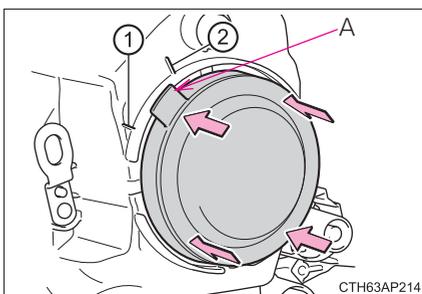
- 6 ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれてないことを目視確認してください。

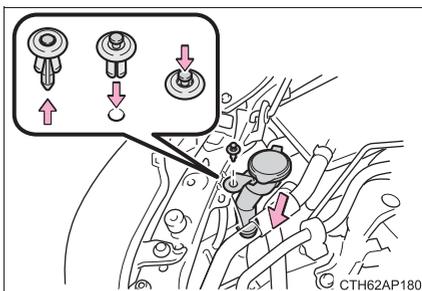


- 7 カバーを取り付ける

A 部が①と②のあいだにおさまるように取り付け、外周をしっかりと押し込む



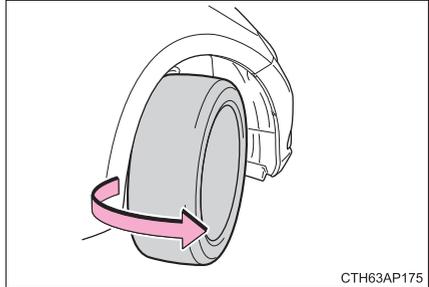
- 8 ウォッシャー液補給口を取り付け、固定クリップを取り付ける（右側の電球交換時のみ）



■ フロントフォグランプ★

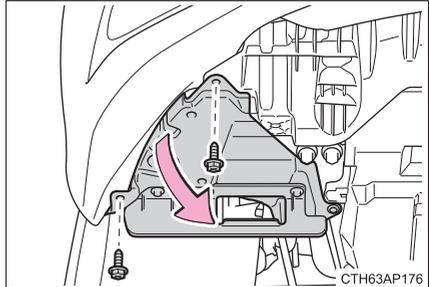
- 1 交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

手が十分入る程度にハンドルをまわしてください。



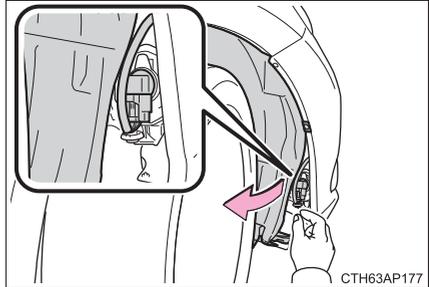
CTH63AP175

- 2 スクリュー（2本）をはずし、フェンダーライナーをはずす



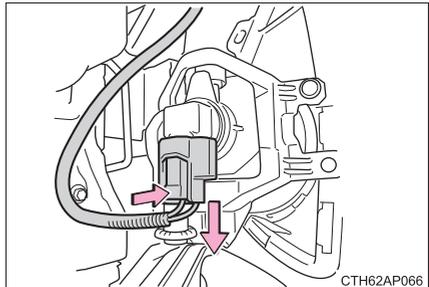
CTH63AP176

- 3 電球が見える位置までフェンダーライナーをめくる



CTH63AP177

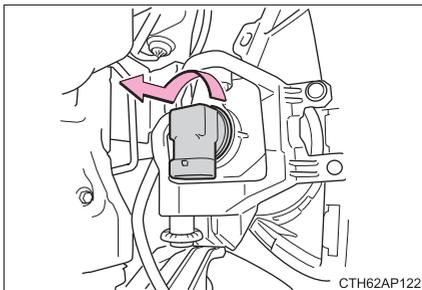
- 4 ツメを押し、コネクターを取りはずす



CTH62AP066

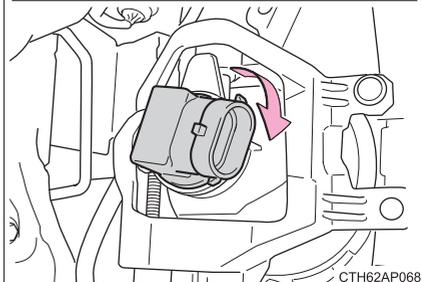
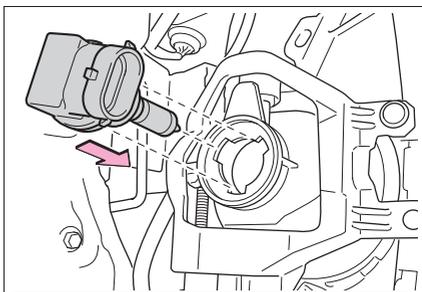
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

5 電球をまわして取りはずす



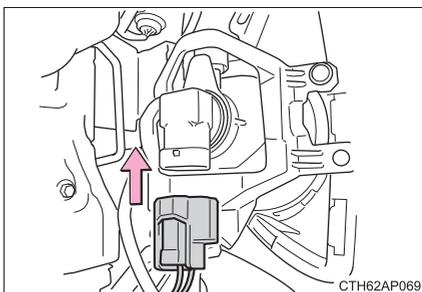
6 電球を交換し取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）をあわせて挿し込み、右にまわして固定します。



7 コネクターを取り付ける

コネクターを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグランプを点灯させ、ランプの取り付け部からランプの光がもれてないことを目視確認してください。

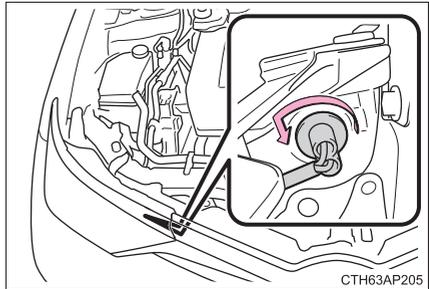


8 フェンダーライナーを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

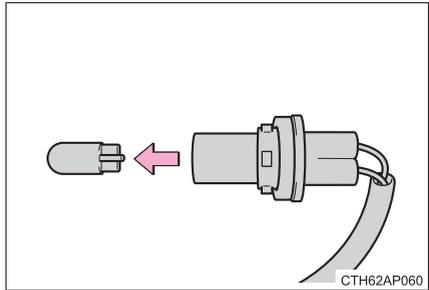
フェンダーライナーがバンパー内側にある事を確認してください。

■ 車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）

- 1 ソケットをまわして取りはずす



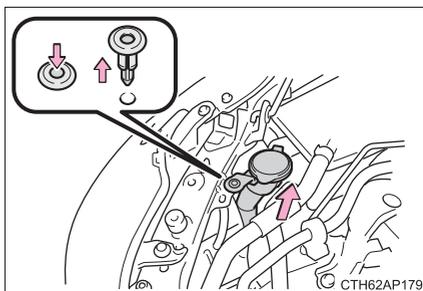
- 2 電球を取りはずす



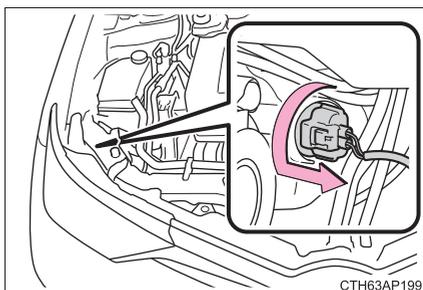
- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

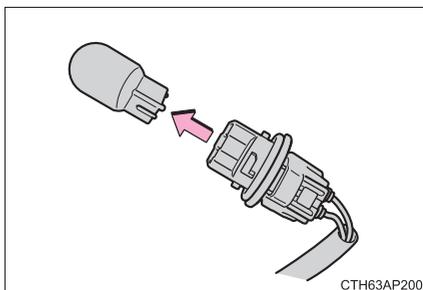
- 1 固定クリップをはずし、ウォッシャー液補給口を引き出す（右側の電球交換時のみ）



- 2 ソケットをまわして取りはずす

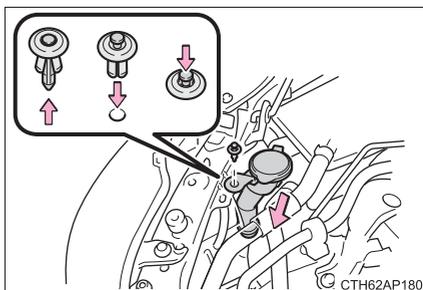


- 3 電球を取りはずす



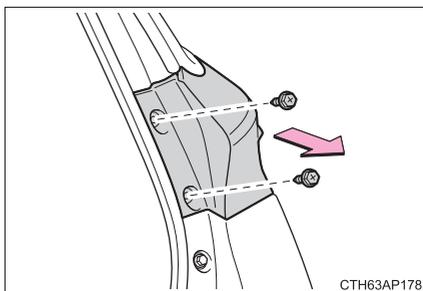
- 4 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

- 5 ウォッシャー液補給口を取り付け、固定クリップを取り付ける（右側の電球交換時のみ）



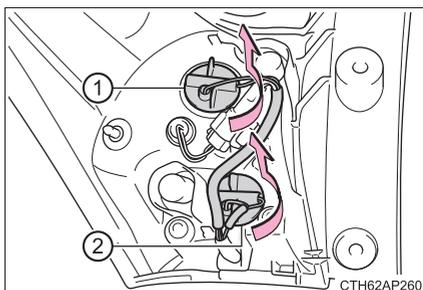
■ 制動灯、リヤ方向指示灯／非常点滅灯

- 1 バックドアを開け、スクリュー（2本）をはずし、ランプ本体をまっすぐ後方に引き、取りはずす



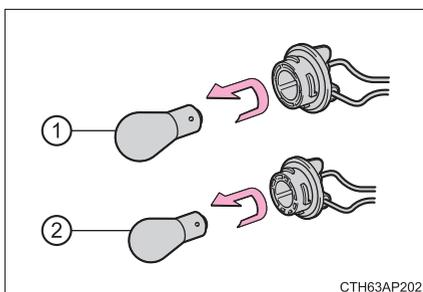
- 2 ソケットをまわして取りはずす

- ① 制動灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅灯



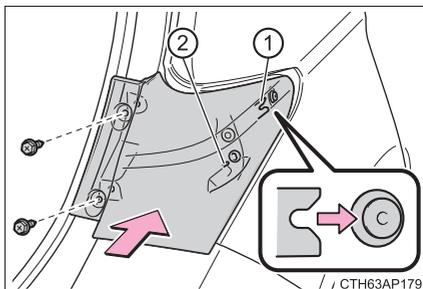
- 3 電球を取りはずす

- ① 制動灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅灯



- 4 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

- 5 ランプ本体を取り付け、スクリュー（2本）を取り付ける
外側のツメ（①）とクリップを合わせてからピン（②）を合わせて取り付けてください。

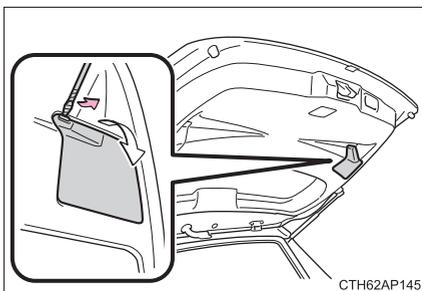


■ 後退灯

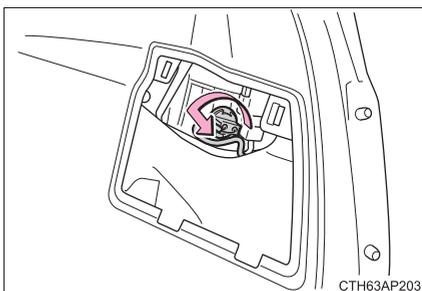
- 1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

マイナスドライバーなどを上の穴に挿し込み、図のように取りはずす

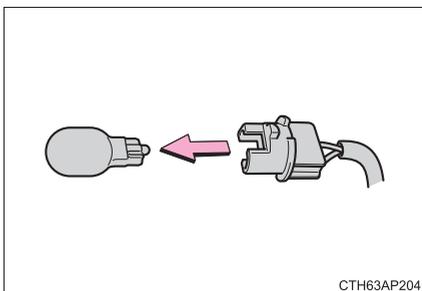
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



- 2 ソケットをまわして取りはずす



- 3 電球を取りはずす



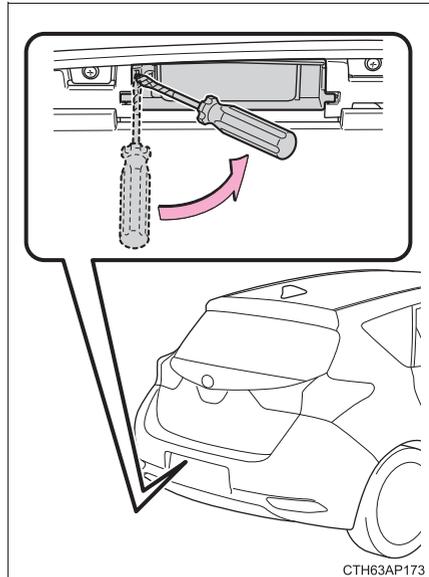
- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

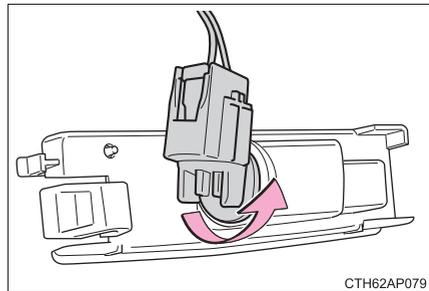
1 ランプ本体を取りはずす

マイナスドライバーなどをランプ横の穴に挿し込み、図のように取りはずします。

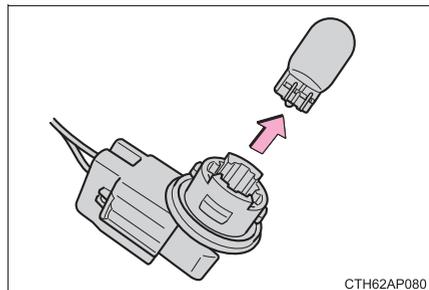
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



2 ソケットをまわして取りはずす



3 電球を取りはずす



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（LED ヘッドランプ装着車）
- 車幅灯（LED ヘッドランプ装着車）
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■ LED ランプについて

ヘッドランプ（LED ヘッドランプ装着車）、尾灯、車幅灯（LED ヘッドランプ装着車）、ハイマウントストップランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 292

 **警告****■電球を交換するとき**

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

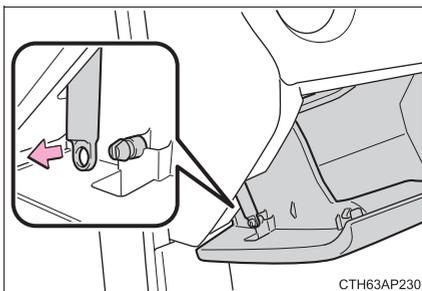
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

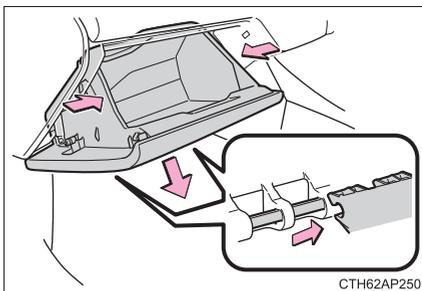
■ 交換のしかた

- 1 スマートエントリー& スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“LOCK”にする
スマートエントリー& スタートシステム装着車：エンジンスイッチをOFFにする

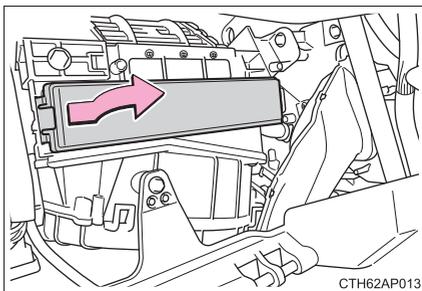
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーのピンをはずす



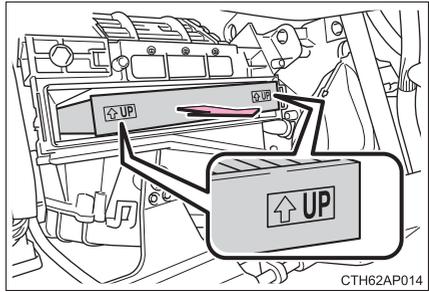
- 3 グローブボックス側面を内側に押し、上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす



- 4 フィルターカバーを取りはずす



- 5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する
「↑UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■ エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

交換：15,000 km [7,500 km^{*}] ごと

^{*}大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■ エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

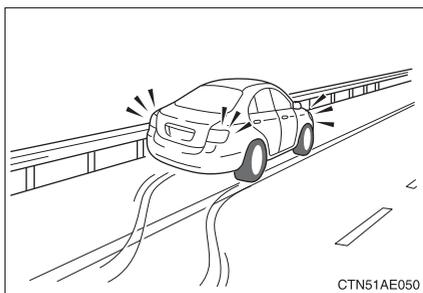
7-1. まず初めに	
故障したときは.....	310
非常点滅灯 (ハザードランプ)	311
発炎筒	312
車両を緊急停止するには	314
7-2. 緊急時の対処法	
けん引について.....	316
フューエルポンプ シャットオフシステム	323
警告灯がついたときは	324
警告メッセージが 表示されたときは	331
パンクしたときは (応急用タイヤ装着車)	333
パンクしたときは (タイヤパンク応急 修理キット装着車)	346
エンジンが かからないときは	360
シフトレバーが シフトできないときは	362
電子キーが正常に 働かないときは	363
バッテリーが あがったときは	365
オーバーヒート したときは.....	369
スタックしたときは.....	372

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

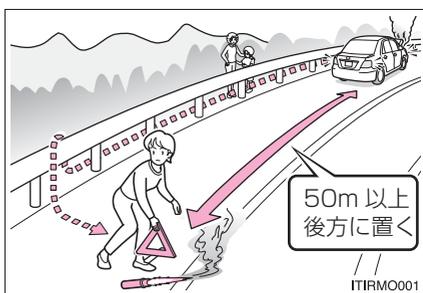
非常点滅灯（→ P. 311）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→ P. 312）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

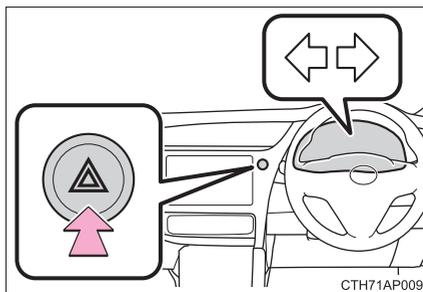


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

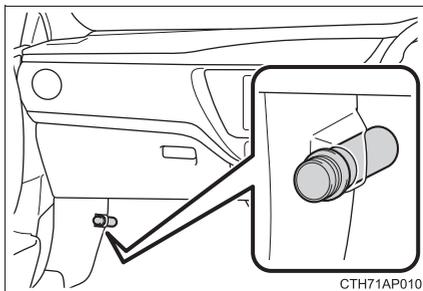
■非常点滅灯について

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

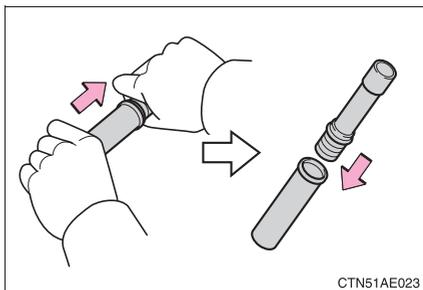
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

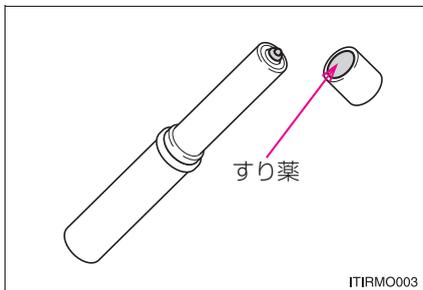
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店で求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

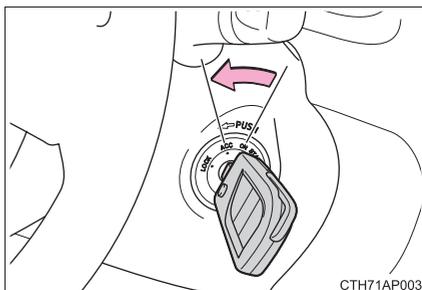
- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

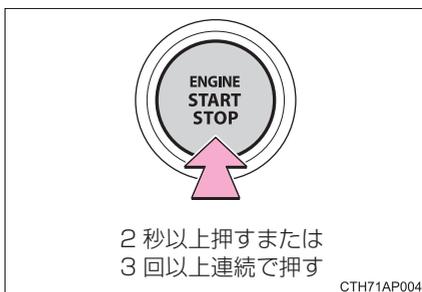
- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 エンジンを停止する
▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する



CTH71AP003

- 4 スマートエントリー&スタートシステム装着車：エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



CTH71AP004

- 5 車を安全な道路脇に停める

 **警告****■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき**

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

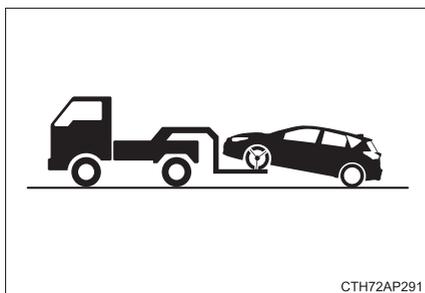
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

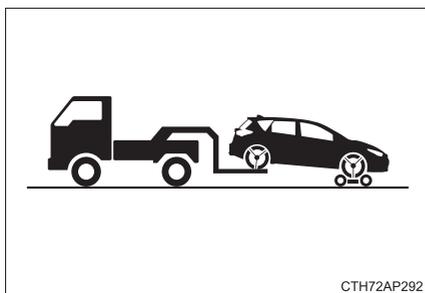
レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは
(2WD 車)



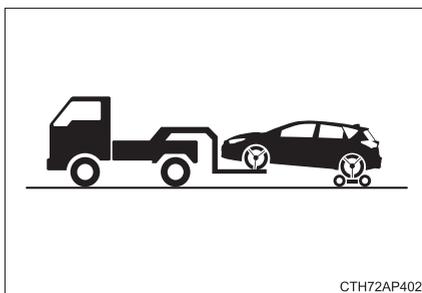
パーキングブレーキを解除する

- ▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

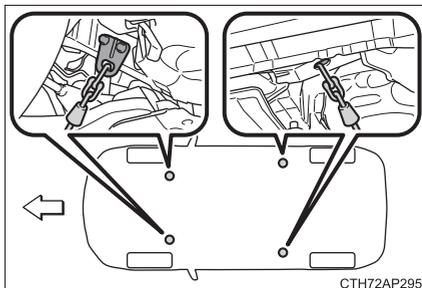
- ▶ 前向きにけん引するときは
(4WD 車)



台車を使用して後輪を持ち上げる

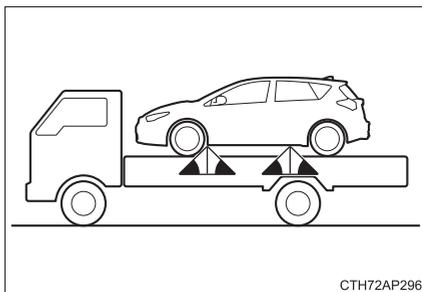
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



CTH72AP295

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する

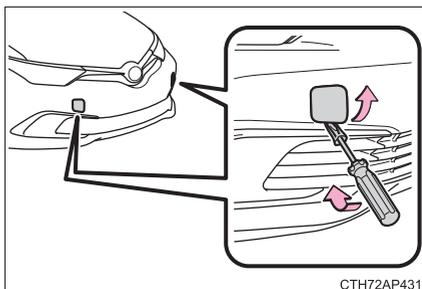


CTH72AP296

他車にけん引してもらおうとき

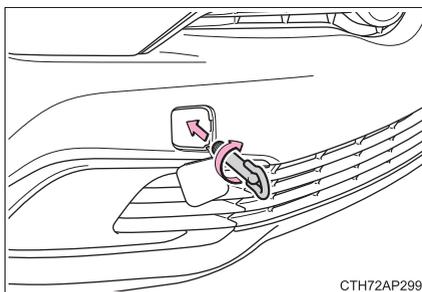
- 1 けん引フックを取り出す (→ P. 334, 347)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



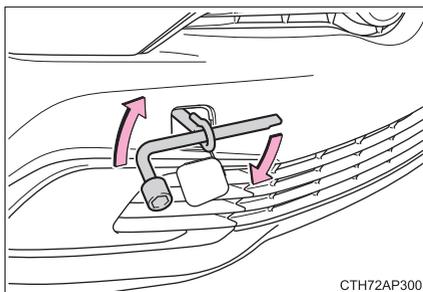
CTH72AP431

- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



CTH72AP299

- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



CTH72AP300

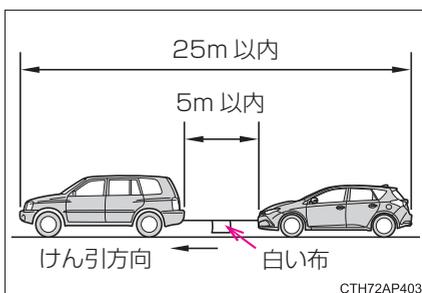
- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm × 30cm) 以上



CTH72AP403

- 7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

スマートエントリー & スタートシステム非装着車：

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを“ON”にしてください。

スマートエントリー & スタートシステム装着車：

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

- 8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

オートマチック車：シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 362

 知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

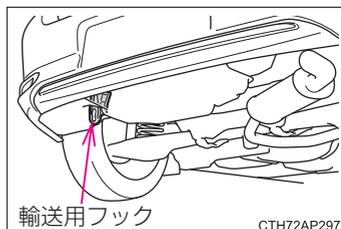
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。(→P. 334, 347)

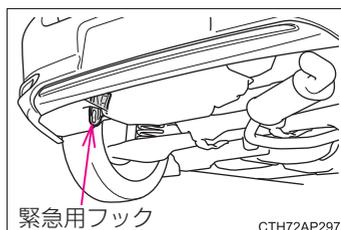
■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車をけん引したりすることはできません。



■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



⚠ 警告

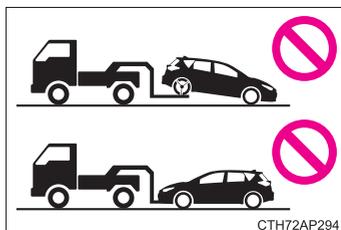
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

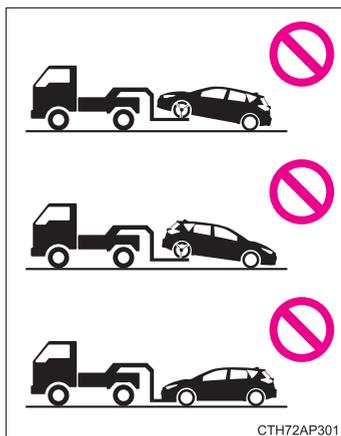
▶ 2WD 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



警告

■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- スマートエントリー& スタートシステム非装着車: エンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。
- スマートエントリー& スタートシステム装着車: エンジンスイッチを OFF にしないでください。ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

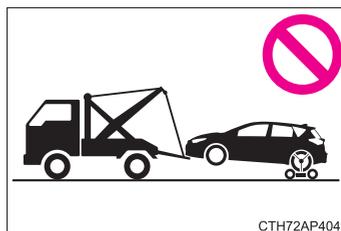
■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



CTH72AP404

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 駆動系部品の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度は 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

 **注意****■ 長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

■ Stop & Start システム装着車をけん引するときは (Stop & Start システム装着車)

4 輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にする
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にする
- 2 エンジンを再始動する

注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	<p>ブレーキ警告灯（警告ブザー）※¹</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 <p>パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。</p>
	<p>充電警告灯★</p> <p>充電系統の異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。</p>
	<p>油圧警告灯★</p> <p>エンジンオイルの圧力異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。</p>
	<p>高水温警告灯★</p> <p>エンジン冷却水の高温異常（→ P. 369）</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。</p>
	<p>エンジン警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ トランスミッション電子制御システム★の異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	オートマチックハイビーム表示灯★ オートマチックハイビームの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	LED ヘッドランプ警告灯★ LED ヘッドランプの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	ヘッドランプオートレベリング警告灯★ 自動光軸調整システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯★ LDA システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	スリップ表示灯 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC/TRC システム作動時は点滅します。（→ P. 215） → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	<p>PCS (プリクラッシュセーフティシステム) 警告灯★ 警告灯が点滅した場合 (ブザーあり) : プリクラッシュセーフティシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 警告灯が点滅した場合 (ブザーなし) : 次の原因などによりプリクラッシュセーフティシステムが一時停止している可能性があります。 ・ 前方センサー周辺のフロントウインドウガラスに汚れ (くもり、結露、凍結などを含む) や付着物がある → 汚れや付着物を取り除いてください。(→ P. 170) ・ 前方センサー温度が作動範囲外 → センサーの周辺温度が下がるまでしばらくお待ちください。 警告灯が点灯した場合 : VSC (ビークルスタビリティコントロール) システムまたはプリクラッシュセーフティシステム、もしくは両方が OFF になっています。 → VSCシステムとプリクラッシュセーフティシステムを ON にすると、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能になります。(→ P. 174、216)</p>
	<p>Stop & Start キャンセル表示灯★ Stop & Start システムの異常 (Stop & Startシステム非作動時は点灯します。→P. 206) → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>4WD 警告灯★ 警告灯が点灯した場合 : 4WD システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 警告灯が点滅した場合 : 駆動系の発熱 → スピードを落として低速走行する。またはエンジンをかけたまま停車する。</p>
	<p>半ドア警告灯★ (警告ブザー) ※² いずれかのドアが確実に閉まっていない → 全ドアを閉める</p>
	<p>スマートエントリー&スタートシステム表示灯★ (警告ブザー) スマートエントリー&スタートシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 7.5L 以下になった → 燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※³ 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。
	マスターウォーニング★ システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P. 331

- ※¹ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
 パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
 警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。
- ※² 半ドア走行時警告ブザー：
 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h をこえたときにブザーが鳴ります。
- ※³ シートベルト非着用警告ブザー：
 運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のまま約 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ただちに処置してください。(スマートエントリー&スタートシステムおよび 3 眼メーター装着車)

それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容・ 対処方法
車内	車外		
連続音	連続音	 (黄色点滅)	スマートエントリー&スタートシステム表示灯 シフトレバーが P 以外の状態で、エンジンスイッチを OFF にせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → シフトレバーを P にする → 電子キーを車内にもどす
1 回	3 回	 (黄色点滅)	スマートエントリー&スタートシステム表示灯 シフトレバーが P の状態で、エンジンスイッチを OFF にせずに、運転席ドアが開閉され電子キーを持ち出した → エンジンスイッチを OFF にしたあと、電子キーを車内から持ち出す
			スマートエントリー&スタートシステム表示灯 エンジンスイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した → 電子キーを車内にもどす
1 回	連続音 (5 秒間)	 (黄色点滅)	スマートエントリー&スタートシステム表示灯 エンジンスイッチを OFF にせずに、電子キーを持ち出してスマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした → エンジンスイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1 回	—	 (15 秒間 黄色点滅)	スマートエントリー&スタートシステム表示灯 電子キーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした → 電子キーを携帯してエンジンを始動する

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容・ 対処方法
車内	車外		
9回	—	 (黄色点滅)	スマートエントリー& スタートシステム表示灯 電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた → 車室内に電子キーがあるか確認する
1回	—	 (15秒間 黄色点滅)	スマートエントリー& スタートシステム表示灯 電子キーの電池残量が少ない → 新しい電池と交換する (→P. 287)
1回	—	 (15秒間緑色 に速点滅)	スマートエントリー& スタートシステム表示灯 エンジンスイッチを押してから約3秒以内に ステアリングロックが解除できなかった → ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右に まわしながらエンジンスイッチを押す (→ P. 144)
1回	—	 (30秒間 黄色点滅)	スマートエントリー& スタートシステム表示灯 ・メカニカルキーで解錠してエンジンスイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できなかった ・エンジンスイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できないことが2回連続で続いた → ブレーキペダルを踏みながら電子キーで、エンジンスイッチにふれる (→ P. 363)

 知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

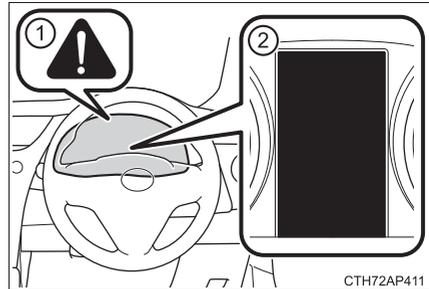
警告メッセージが表示されたときは（2眼メーター装着車）

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	警告ブザー※	警告内容
点灯	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
点滅	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

取扱説明書の確認を指示する警告メッセージが表示されたとき

- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
 - ・「充電システム故障 取扱書を確認してください」
 - ・「エンジン油圧不足 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」★

その他のメッセージ

画面に表示されるメッセージに従って対処してください。

ただし、次のメッセージが表示された時は、取扱説明書も併せて確認してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」と表示されたとき★

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- LED ヘッドランプ
- ヘッドランプオートレベリングシステム
- オートマチックハイビーム

■ 「前方カメラシステム 一時利用不可 少々お待ちください」または「前方カメラシステム 利用不可 フロントガラス汚れを取ってください」が表示されたとき★

次のシステムが一時的もしくは対処を行うまで使用できなくなります。表示された画面の指示に従ってください。

- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- オートマチックハイビーム
- 先行車発信告知機能

知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

この車両には応急用タイヤが搭載されています。パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 281 を参照してください）

警告

■ タイヤがパンクしたときは

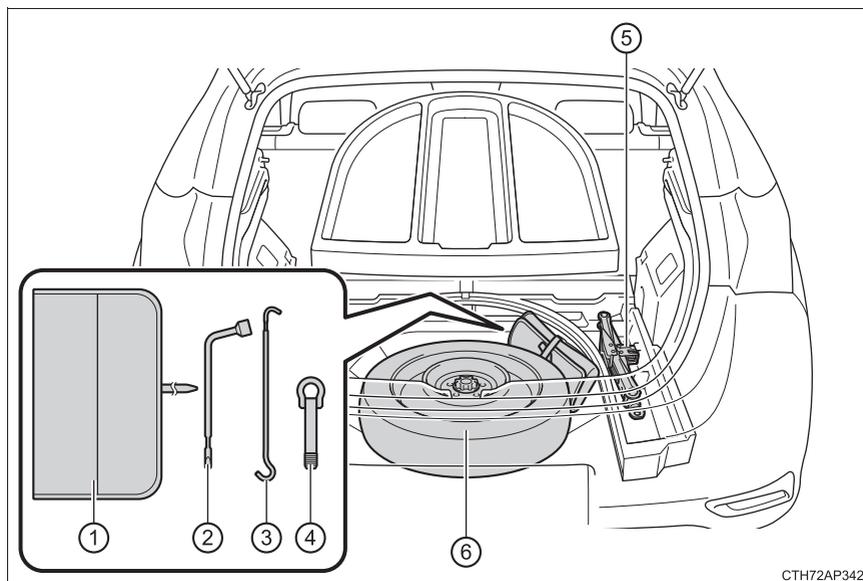
パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P（オートマチック車）もしくは R（マニュアル車）にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置

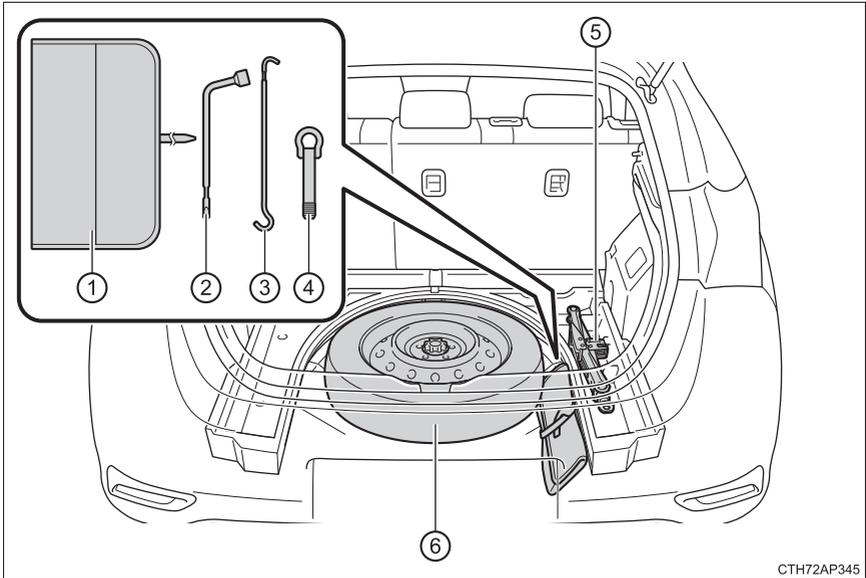
▶ FF車



CTH72AP342

- | | |
|--------------|----------|
| ① ツールバッグ | ④ けん引フック |
| ② ホイールナットレンチ | ⑤ ジャッキ |
| ③ ジャッキハンドル | ⑥ 応急用タイヤ |

▶ 4WD 車



- | | |
|--------------|----------|
| ① ツールバッグ | ④ けん引フック |
| ② ホイールナットレンチ | ⑤ ジャッキ |
| ③ ジャッキハンドル | ⑥ 応急用タイヤ |

 **警告****■ ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

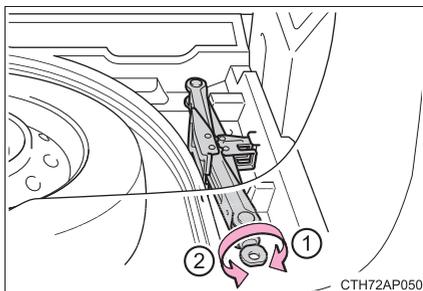
1 フロアボードを取りはずす (→ P. 256)

2 ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

ジャッキを収納するときには、ジャッキを締めてトレイへ押し付けてください。

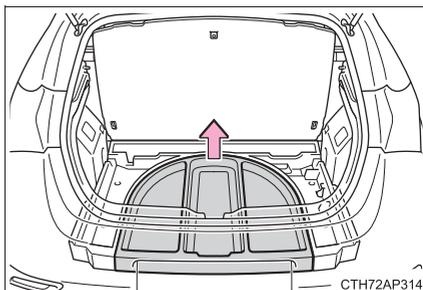


CTH72AP050

応急用タイヤの取り出し方

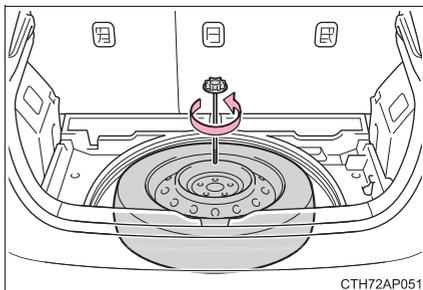
1 フロアボードを取りはずす (→ P. 256)

2 FF 車のみ：ラゲージアンダートレイを取りはずす



CTH72AP314

3 留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す



CTH72AP051

⚠ 警告

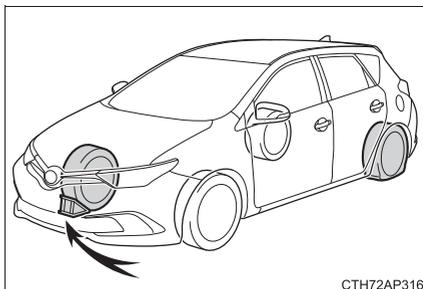
■ 応急用タイヤを収納するとき

ボディと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

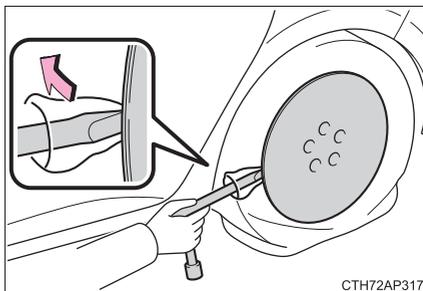


CTH72AP316

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

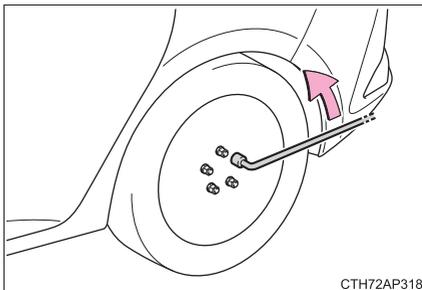
2 ホイールキャップをはずす (スチールホイールのみ)

傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。

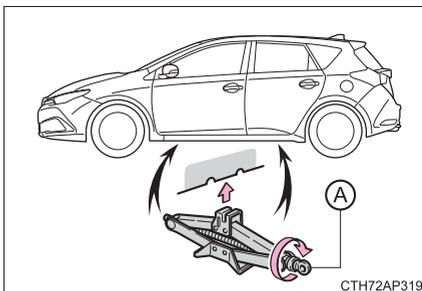


CTH72AP317

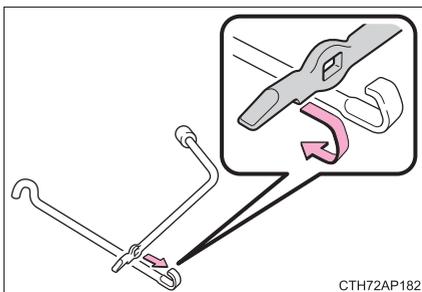
- 3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



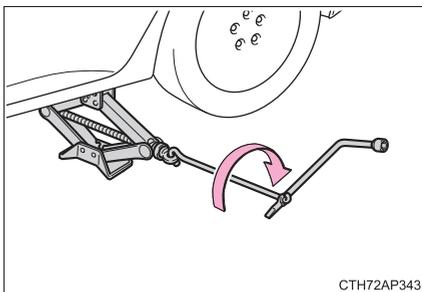
- 4 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



- 5 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

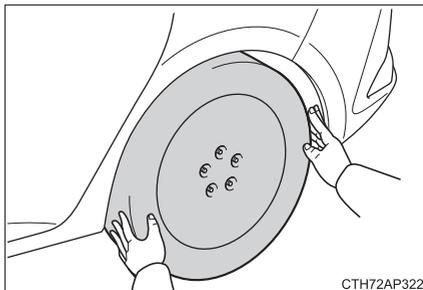


- 6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上に出します。

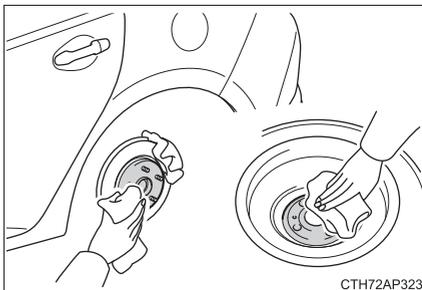
**警告****■ タイヤ交換について**

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに 103N・m (1050kgf・cm) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパ部を内側にして取り付ける。
(→ P. 283)

応急用タイヤの取り付け

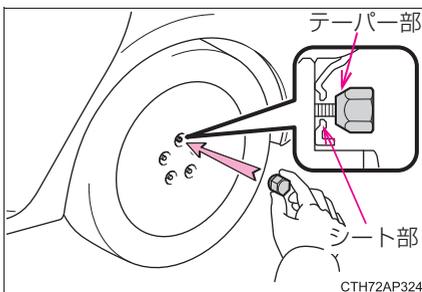
- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

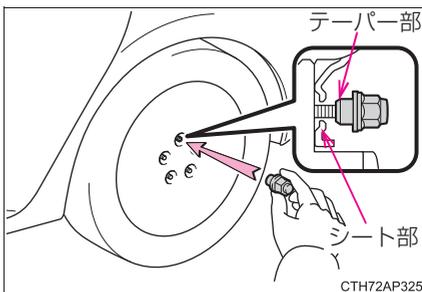


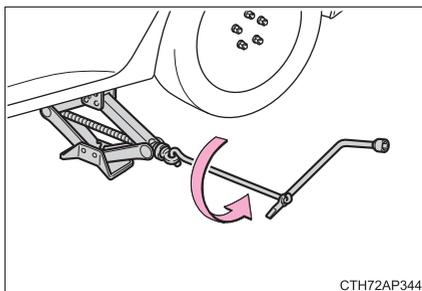
- 2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイールから応急用タイヤにかえるとき：
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

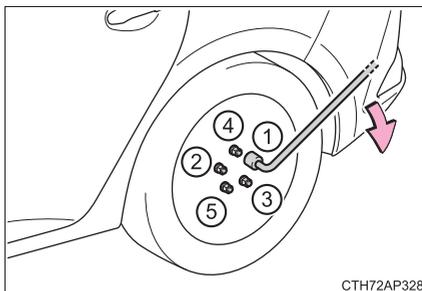


アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき：
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



3 車体を下げる**4** 図の番号順でナットを 2、3 度
しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m (1050kgf・cm)

**5** すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

 知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→ P. 384)

■ 応急用タイヤを装着しているとき

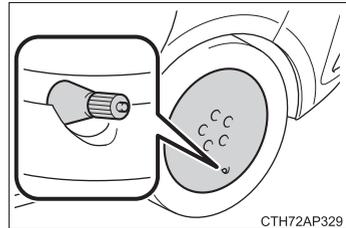
標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

- 1 後輪を応急用タイヤに交換する
- 2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■ ホイールキャップを取り付ける時は（スチールホイール装着車）

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けてください。



 **警告****■ 応急用タイヤを使用するとき**

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジnbrakeの使用は避けてください。
- 摩耗限度（トレッドウェアインジケータまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■ 応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があります、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| ・ ABS | ・ TRC |
| ・ ブレーキアシスト | ・ EPS |
| ・ VSC | ・ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★ |
| ・ オートマチックハイビーム★ | ・ LDA（レーンディパーチャーアラート）★ |
| ・ クルーズコントロール | |

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ・ 4WD システム★

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときは注意してください。

■ タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

パンクしたときは (タイヤパンク応急修理キット装着車)

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です)

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ パンクしたままの走行について

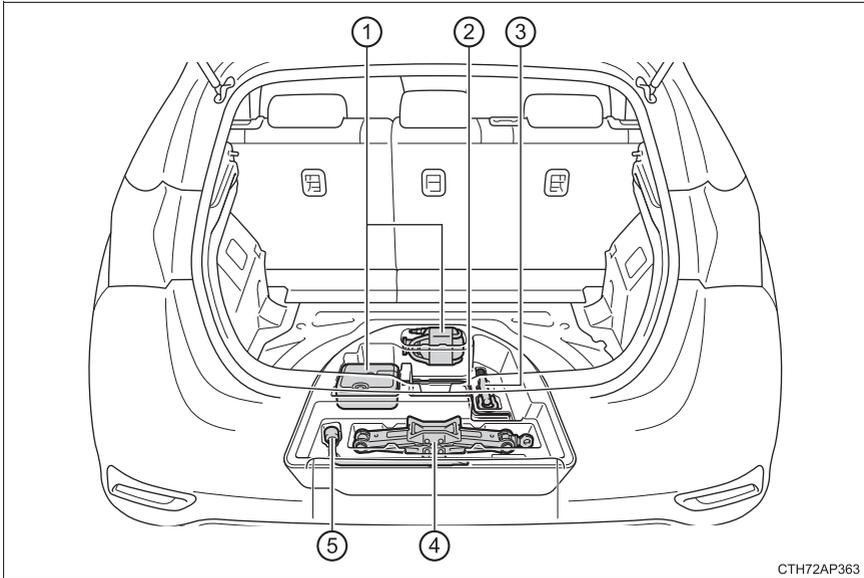
タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はシフトレバーを P にする
マニュアル車はシフトレバーを N に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

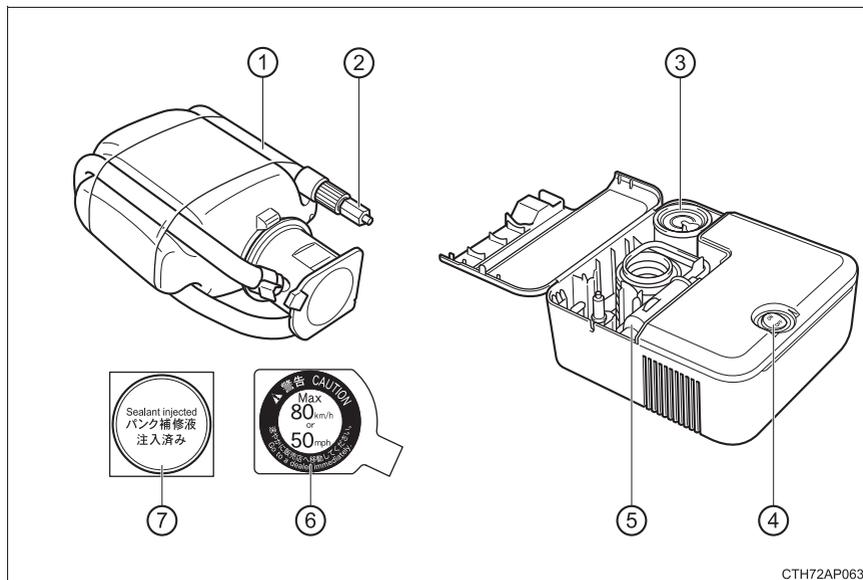
タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



- ① タイヤパンク応急修理キット
- ② ジャッキハンドル
- ③ けん引フック
- ④ ジャッキ※
- ⑤ ホイールナットレンチ

※ ジャッキの使い方 (→ P. 338)

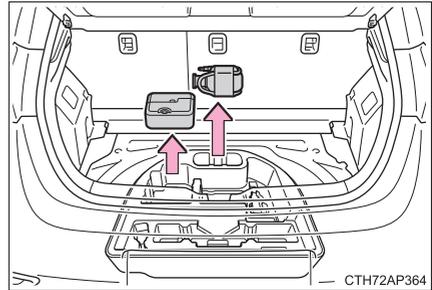
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



- | | |
|-------------|-----------------|
| ① ホース | ⑤ 電源プラグ |
| ② 空気逃がしキャップ | ⑥ 速度制限ラベル |
| ③ 空気圧計 | ⑦ パンク補修液注入済みラベル |
| ④ 電源スイッチ | |

応急修理キットの取り出し方

- 1 アジャスタブルデッキボード装着車：アジャスタブルデッキボードを持ち上げ、固定する（→ P. 254）
- 2 フロアボードを取りはずす（→ P. 256）
- 3 応急修理キットを取り出す

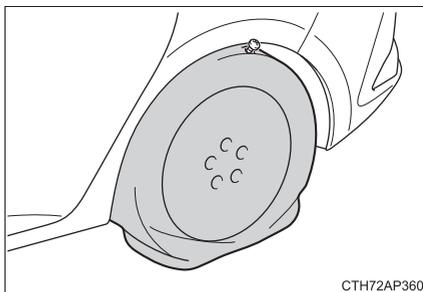


応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

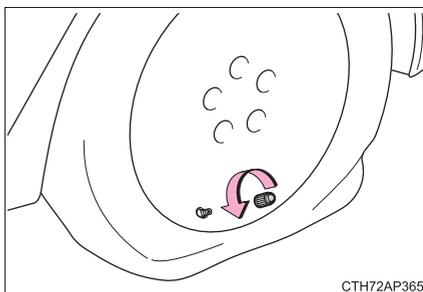
釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



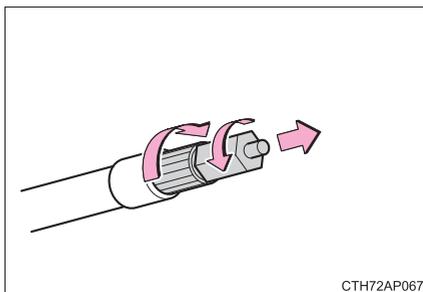
応急修理するとき

- 1 応急修理キットを取り出す
- 2 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



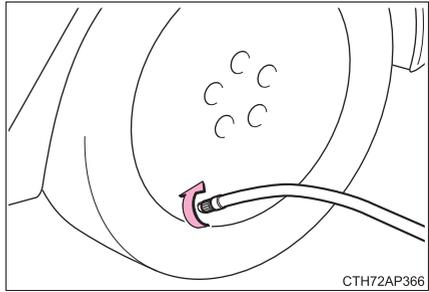
- 3 ボトルの保護フィルムをはがしホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

ボトルに同封されているパンク補修液注入済ラベルは指定の位置へ貼り付けます。(9へ) 空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。



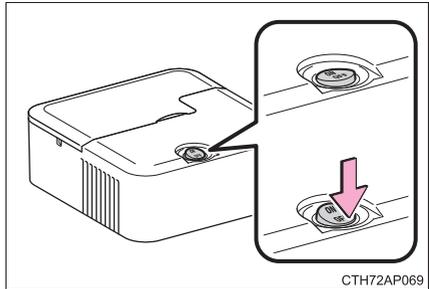
- 4 ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む。



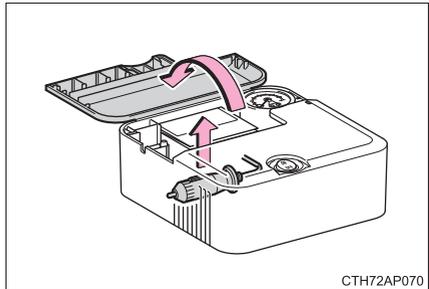
CTH72AP366

- 5 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する



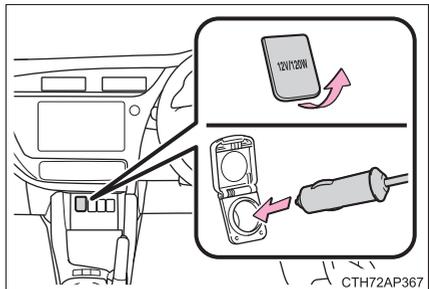
CTH72AP099

- 6 フタを開けてコンプレッサーの電源プラグをはずす

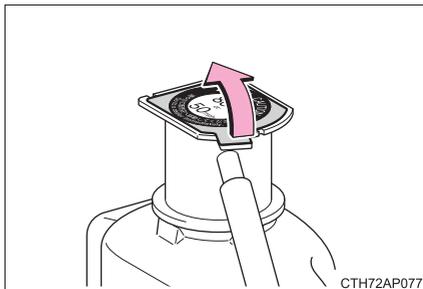


CTH72AP070

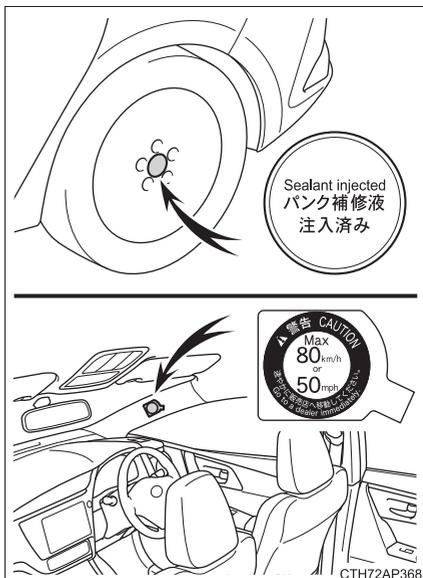
- 7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリソケットに挿し込む (→ P. 262)



CTH72AP367

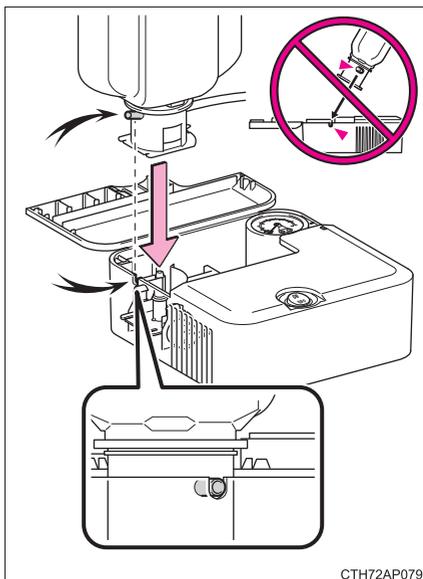
8 速度制限ラベルをはがす**9** 付属のラベル2枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。



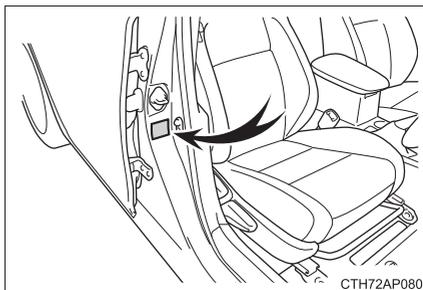
- 10** ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。



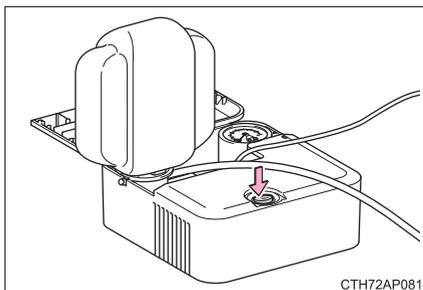
CTH72AP079

- 11** タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→ P. 282)



CTH72AP080

- 12** エンジンを始動する
13 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



CTH72AP081

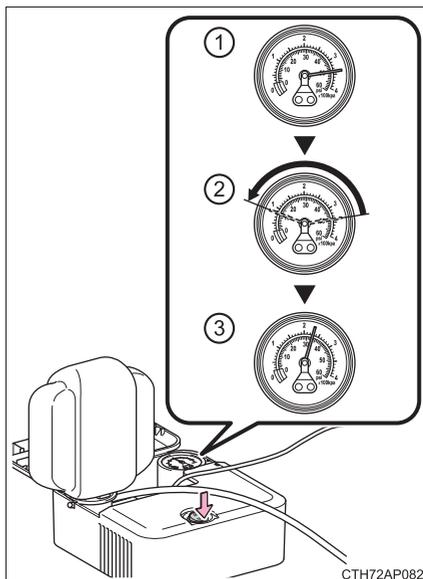
14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

- ① スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する
- ② 1分程度（低温の場合は5分程度）で実際の空気圧表示になる
- ③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチをOFFにして確認してください。空気を入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→P. 282, 384）



CTH72AP082

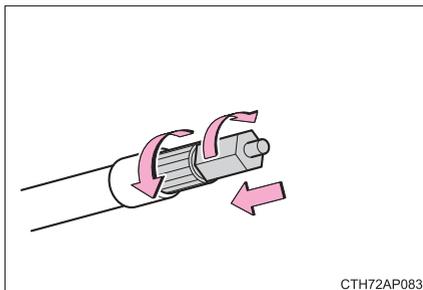
15 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認した上で、アクセサリソケットから電源プラグを抜く
バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

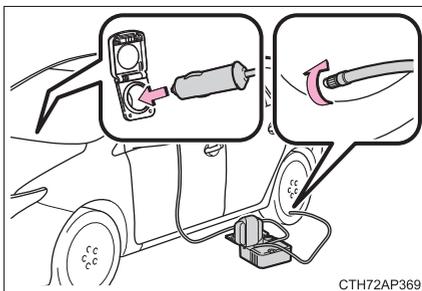
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。



CTH72AP083

18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

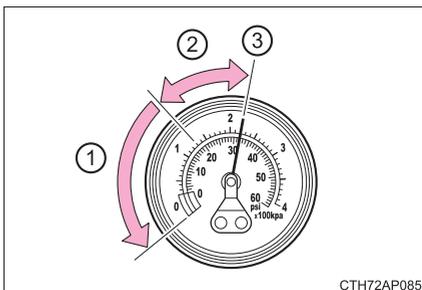
- 19** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5 km、安全に走行する（速度 80 km/h 以下）
- 20** 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する



CTH72AP369

- 21** コンプレッサーのスイッチを約 5 秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する

- ① 空気圧が 130 kpa (1.3 kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。
- ② 空気圧が 130 kpa (1.3 kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：**22** へ
- ③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 384）の場合：**23** へ

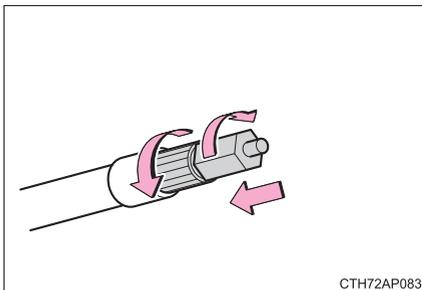


CTH72AP085

- 22** コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5 km 走行後にあらためて **20** から実施する

- 23** ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。



CTH72AP083

- 24** ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納します
- 25** 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80 km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

 知識**■ 応急修理キットで修理できないパンク**

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

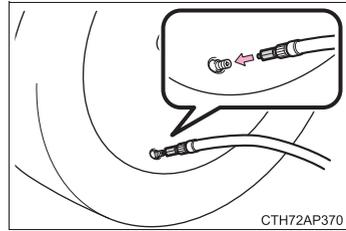
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 外気温度が -30°C ~ 60°C のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



- 3 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 4 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

 **警告****■パンク補修液について**

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 **注意****■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 136, 139）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 136, 139）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 55）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 365）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性ががあります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 361）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 365）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 シフトレバーがオートマチック車は P、マニュアル車は N の位置にあることを確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4 オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルをしっかりと踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは (オートマチック車)

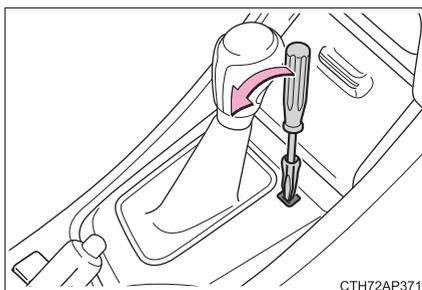
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にする
スマートエントリー&スタートシステム装着車：エンジンスイッチをアクセサリモードにする

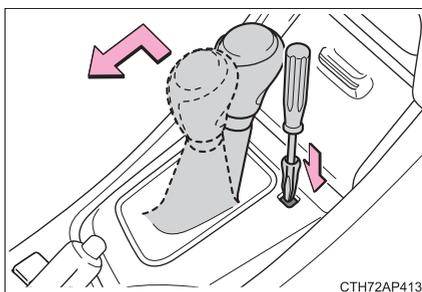
- 3 ブレーキペダルを踏む

- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す
ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



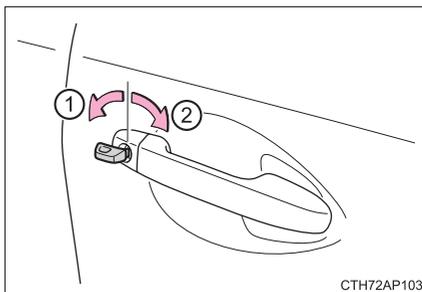
電子キーが正常に働かないときは (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり(→ P. 103)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー(→ P. 86)を使って次の操作ができます。

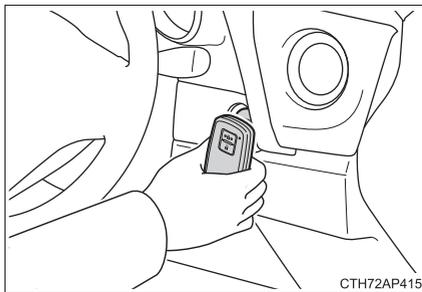
- ① 全ドア解錠
- ② 全ドア施錠



エンジン始動の方法

- 1 オートマチック車：シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
マニュアル車：シフトレバーがNの状態クラッチペダルを踏む
- 2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる
電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリモードへ切りかわります。



- 3 ドライブモニターディスプレイ装着車：オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルをしっかりと踏み込んで、スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色に点灯していることを確認する
マルチインフォメーションディスプレイ装着車：オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する
- 4 エンジンスイッチを押す
処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車はNにしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 287)

■ モードの切りかえ

エンジン始動方法の手順3で、オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 141)

■ 電子キーが正常に働かない場合

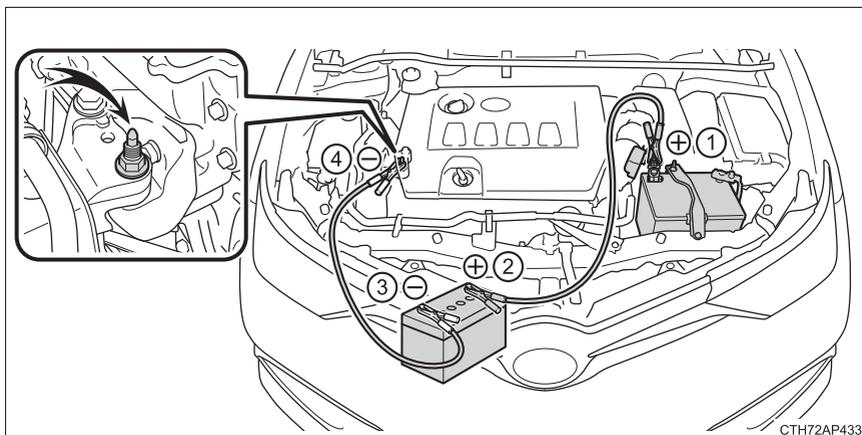
- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→ P. 386)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→ P. 103)

バッテリーがあがったときは

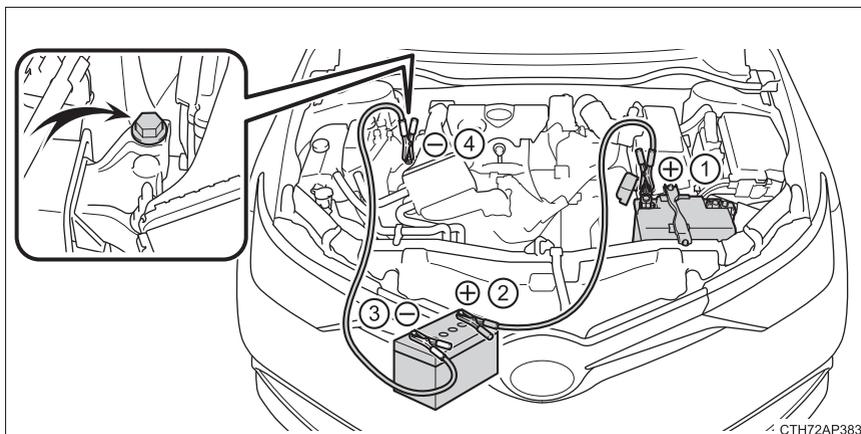
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 ボンネットを開ける (→ P. 275)
- 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ
 - ▶ 8NR-FTS エンジン搭載車以外



▶ 8NR-FTS エンジン搭載車



- ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ
- 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
 - 4 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する（スマートエントリー&スタートシステム装着車）
 - 5 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”にしてから自車のエンジンをかける
スマートエントリー&スタートシステム装着車：救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける
 - 6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識**■ バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
(Stop & Start システム装着車は、システムによるエンジン停止中を除く)
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など

- スマートエントリー&スタートシステム装着車：バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンがかからないことがあります。が異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：車両は常に電源の状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチをOFFにしてから行ってください。
バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。
- Stop & Start システム装着車：バッテリーがあがったあと、またはバッテリー端子をはずしたあとは、約5～40分間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

■ バッテリーの交換について (Stop & Start システム装着車)

装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。交換するときは次のバッテリーと交換してください。

- 1NZ-FE エンジン搭載車：Q55 またはそれ以上の性能を持つバッテリー
- 8NR-FTS エンジン搭載車：Q85 またはそれ以上の性能を持つバッテリー

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です
ので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

 **注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

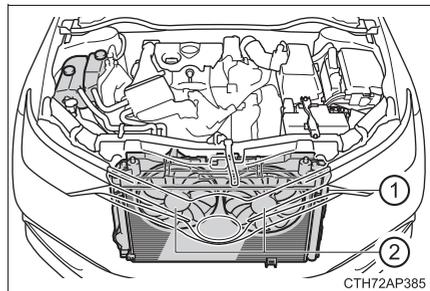
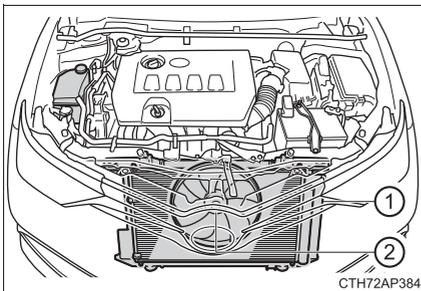
次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 3眼メーター装着車：高水温警告灯（→ P. 324）が点灯したり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- 2眼メーター装着車：水温計（→ P. 72）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する
 - ▶ 8NR-FTS エンジン搭載車以外
 - ▶ 8NR-FTS エンジン搭載車



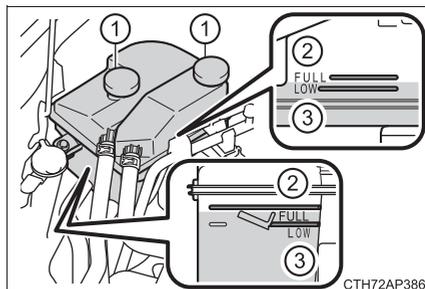
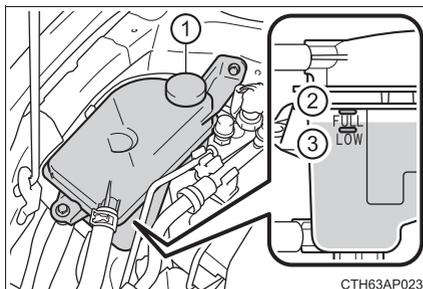
- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

▶ 8NR-FTS エンジン搭載車以外

▶ 8NR-FTS エンジン搭載車

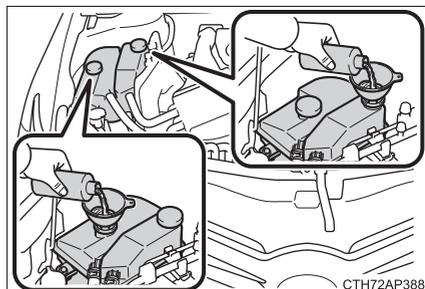
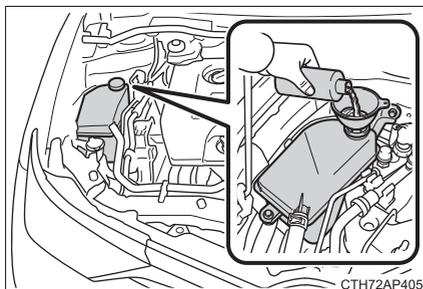


- ① リザーバータンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）

- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

▶ 8NR-FTS エンジン搭載車以外

▶ 8NR-FTS エンジン搭載車



冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

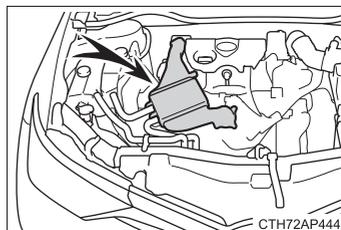
ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告**■ エンジンルームを点検しているとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターリザーバタンクキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあり危険です。
- エンジンが熱いうちはインタークーラーにふれないでください。

**注意****■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

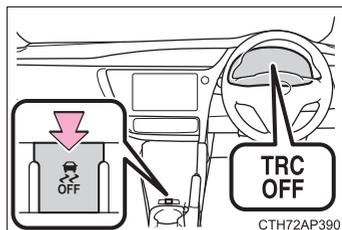
- 1 シフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車はNにして、パーキングブレーキをかけてエンジンを停止する
- 2 タイヤ周辺の土や雪などを取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 FF車：エンジンを再始動する
4WD車：エンジンを再始動し、4WD オートモードになっていることを確認する (→ P. 212)
- 5 シフトレバーをオートマチック車はDまたはR、マニュアル車は1またはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■ 脱出しにくいとき

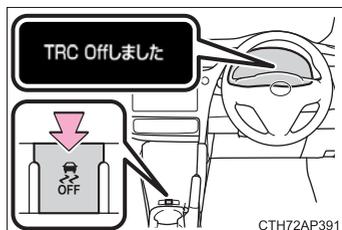
▶ 3眼メーター装着車

 を押してTRCをOFFにしてください。



▶ 2眼メーター装着車

 を押してTRCをOFFにしてください。



 **警告****■ 脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき（オートマチック車）

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	376
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	386
--------------------------	-----

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

- ▶ 1NZ-FE エンジン / 2ZR-FAE エンジン（オートマチック車）

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	50

- ▶ 2ZR-FAE エンジン（マニュアル車） / 8NR-FTS エンジン

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	50

エンジンオイル

▶ 1NZ-FE / 2ZR-FAE エンジン搭載車

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ^{※1})		
	エンジン	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキャッスルモーターオイル SN 0W-20 ^{※2} —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20	1NZ-FE	3.4	3.7
トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキャッスルモーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	2ZR-FAE	3.9	4.2

※¹ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

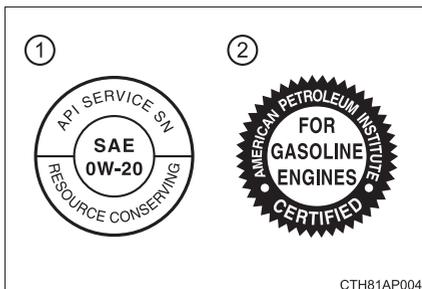
※² 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れたオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

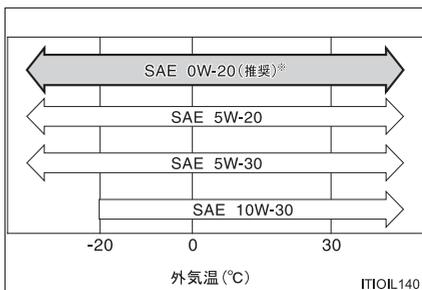
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

▶ 8NR-FTS エンジン搭載車

指定銘柄	容量 [L] (参考値※ ¹)		
	エンジン	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正キャッスルモーターオイル ECO TURBO 0W-20 ※ ² —SAE 0W-20 トヨタキャッスルモーターオイル SN 0W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	8NR-FTS	3.7	4.0

※¹ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

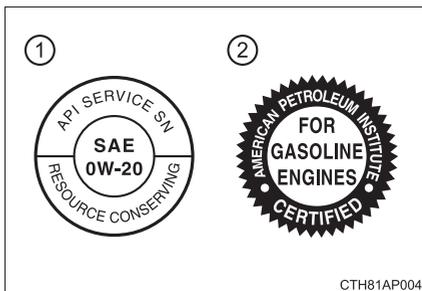
※² トヨタ純正キャッスルモーターオイル ECO TURBO は新車時に充填されている、トヨタ車のガソリンターボエンジン専用オイルです。合成油を含む、高性能なベースオイルをバランス良く配合し、ガソリンターボエンジンの性能を最大限に発揮できるように作られています。

■ 指定エンジンオイル

指定銘柄以外を使用される場合は、API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

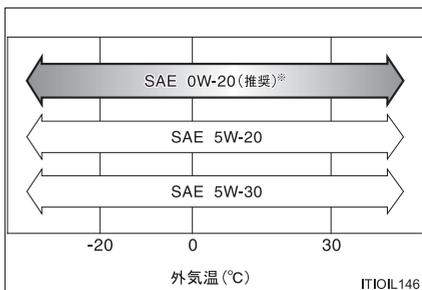
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

▶ 1NZ-FE / 2ZR-FAE エンジン搭載車

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12°C 濃度 50% - 35°C	1NZ-FE	5.5
	2ZR-FAE (オートマチック車)	5.8
	2ZR-FAE (マニュアル車)	5.6

▶ 8NR-FTS エンジン搭載車

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12°C 濃度 50% - 35°C	エンジン	6.4
	インタークーラー	2.1

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	駆動方式	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正 CVT フルード FE	FF 車	7.47
	4WD 車	7.88

トランスファー (4WD 車のみ)

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5, SAE 85W-90)	0.45

リヤディファレンシャル (4WD車のみ)

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイルLT (API GL-5, SAE 75W-85)	0.5

マニュアルトランスミッション

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正 MT ギヤオイル LV 75W (API GL-4 SAE 75W)	2.4

クラッチ**■ クラッチフルード**

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	5 ~ 15
切れたときの床板とのすき間※	25 以上

※ クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間*	75 以上

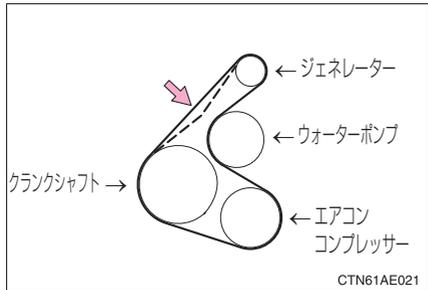
* エンジン回転時に 294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
引きしろ 操作力 200 N (20.4 kgf) のときのノッチ*数	6 ~ 9

* ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです

V リブドベルト

項目	エンジン	基準値 [mm]
たわみ量  押力 98 N (10 kgf) (冷間時)	1NZ-FE (FF車)	自動調整式
	2ZR-FAE	
	8NR-FTS	
	1NZ-FE (4WD車)	12.5 ~ 13.5

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
2.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	195/65R15 91H	15 × 6J	240 (2.4)	
	195/65R15 91S			
	205/55R16 91V	16 × 6 1/2J	230 (2.3)	
	225/45R17 91W	17 × 7J		
応急用タイヤ★	T125/70D17 98M	17 × 4T	420 (4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ハロゲンヘッドランプ★	55
	車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）	5
	フロントフォグランプ★（バルブタイプ：H16）	19
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	フロントインテリアランプ／パーソナルランプ	8
	リヤインテリアランプ★	8
	リヤパーソナルランプ★	8
	バニティミラーランプ★	5
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載のないランプはLEDを採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
NZE181H	1NZ-FE (1.5L ガソリン)	FF（前輪駆動）
NZE184H		4WD（4輪駆動）
ZRE186H	2ZR-FAE (1.8L ガソリン)	FF（前輪駆動）
NRE185H	8NR-FTS (1.2L ガソリン)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- ▶ 3眼メーター装着車
→ P. 68
- ▶ 2眼メーター装着車
→ P. 78

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

- ① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- ② トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ

(→ P. 63, 66, 72)

▶ 3 眼メーター装着車

機能*	初期設定	変更後	①	②
エコドライブインジケータ ランプ	あり (自動点灯)	なし	○	—

* 機能についての詳しい説明は P. 69 を参照してください

▶ 2 眼メーター装着車

機能* ¹	初期設定	変更後	①	②
エコドライブインジケータ ランプ★	あり (自動点灯)	なし	○	—
単位	km/L	L/100 km	○	—
ドライブインフォ 1	瞬間燃費	※ 2	○	—
	リセット間 平均燃費			
ドライブインフォ 2	航続可能距離	※ 2	○	—
	リセット間 平均車速			
割込表示★	あり	なし	○	—

*¹ 機能についての詳しい説明は P. 78 を参照してください

*² 瞬間燃費、リセット間平均燃費、始動後平均燃費、給油後平均燃費、リセット間平均車速、始動後平均車速、リセット間走行時間、始動後走行時間、航続可能距離、始動後走行距離、ブランクから 2 項目を選択

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム★、ワイヤレスドアロック共通 (→ P. 90, 96, 100)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
作動の合図 (ブザー音量調整) ※	レベル 7	OFF	—	○
		レベル 1 ~ 6	—	○
作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○
		120 秒	—	○
半ドア警告ブザー※	あり	なし	—	○

※ スマートエントリー&スタートシステム装着車

■ スマートエントリー&スタートシステム★ (→ P. 90, 96, 100)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	—	○
連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 84, 90)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能	あり	なし	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム★ (→ P. 159)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	標準	- 2 ~ 2	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	○

■ ランプ (→ P. 159)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
LED デイライト★	あり	なし	—	○

■ LDA(レーンディパーチャーアラート/車線逸脱警報)★ (→ P. 181)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
車線逸脱時の警報ブザーが吹鳴する感度 (警報感度)	高	標準	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 先行車発進告知機能★ (→ P. 192)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
先行車発進告知機能	あり	なし	○	—
告知タイミング	標準	早い	○	—
		遅い		

■ Toyota Stop & Start System (SMART STOP) ★ (→ P. 196)

▶ 3眼メーター装着車

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
アイドリングストップ時間表示	あり	なし	○	—

▶ 2眼メーター装着車

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
A/C (エアコン) が ON のときの アイドリングストップ時間	標準	長め	○	—

■ オートエアコン★ (→ P. 232)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	—	○

■ イルミネーション (→ P. 242)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
室内灯の消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	—	○
		30 秒		
エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	○
接近時の照明の点灯*	あり	なし	—	○

* スマートエントリー&スタートシステム装着車

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

さくいん

こんなときは (症状別さくいん).....	392
車から音が鳴ったときは (音さくいん).....	397
アルファベット順さくいん.....	399
五十音順さくいん.....	400

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 86）
- キーまたは電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 89）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 287）
- スマートエントリー & スタートシステム装着車
エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→ P. 141）
- スマートエントリー & スタートシステム装着車
電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 87, 103）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 94）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない （スマートエントリー & スタートシステム非装着車）

- シフトレバーはPになっていますか？（→ P. 143）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 144）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 365）



エンジンがかからない （スマートエントリー & スタートシステム装着車）

- オートマチック車
ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 139）
- マニュアル車
クラッチペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 136）
- オートマチック車
シフトレバーはPになっていますか？（→ P. 143）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 101）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 144）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 363）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 365）



ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない (オートマチック車)

- スマートエントリー & スタートシステム非装着車
エンジンスイッチの位置が“ON”になっていますか？
エンジンスイッチの位置が“ON”でブレーキを踏んでも解除できないときは (→ P. 362) を参照してください。
- スマートエントリー & スタートシステム装着車
エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？
エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないときは (→ P. 362) を参照してください。



エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- スマートエントリー & スタートシステム非装着車
盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます。
(→ P. 136)
- スマートエントリー & スタートシステム装着車
盗難防止のため、自動的にロックされます。(→ P. 144)



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。(→ P. 119)



エンジンスイッチが自動的に OFF になった （スマートエントリー & スタートシステム装着車）

- 一定時間アクセサリモードまたはイグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 143）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 397）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージ★が表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージ★が表示されたときは、P. 324、331 をご確認ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トラブルが発生した**タイヤがパンクした**

- 応急用タイヤ装着車
車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 333）
- タイヤパンク応急修理キット装着車
車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 346）

**立ち往生した**

- めかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 372）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	電子キー★を車内に置き忘れている	P. 101
	エンジンスイッチにキーが挿してある★	P. 137
	シフトポジションがP以外になっている★	P. 101
エンジンを停止したとき	電子キー★の電池残量が少なくなっている	P. 287
施錠しようとしたとき (施錠できないとき)	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 101
	電子キー★を車内に置き忘れている	P. 101
	シフトポジションがP以外になっている★	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドアが確実に閉まっていない	P. 94、97
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 324
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 324
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した★	P. 150
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 130
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 173
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）★を使用している	P. 181
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能★が作動した	P. 192

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

4WD	
(4 ホイールドライブ)	212
ABS	
(アンチロックブレーキシステム)	214, 325
AI-SHIFT	
(アーティフィカルインテリジェンスシフト)	151
DISP	
(ディスプレイ)	66, 72
EDR	
(イベントデータレコーダー)	8
EPS	
(電動リックパワーステアリング)	214
FF	
(フロントエンジンフロントドライブ)	385
ILSAC CERTIFICATION	
(イルサックサーティフィケーション)	378
ISOFIX	
(アイソフィックス/イソフィックス)	40, 48
LDA	
(レーンディパーチャーアラート/車線逸脱警報)	181
LED	
(ライトエミッティングダイオード)	159, 304
PCS	
(プリクラッシュセーフティシステム)	173
SMART STOP	
(スマートストップ)	196
SRS	
(サブプリメンタルレストレイントシステム)	30, 325
TRC	
(トラクションコントロール)	214
VSC	
(ビークルスタビリティコントロール)	214

五十音順さくいん

あ

アースポイント (バッテリー あがりの処置).....	365
アームレスト (リヤアームレスト)	264
アウトミラー (ドアミラー) ...	116
操作	116
アクセサリースocket	262
アクセサリモード	141
アシストグリップ	264
アジャスタブルデッキボード	253
アンチロックブレーキシステム (ABS)	214
アンテナ (スマートエントリー& スタートシステム)	100

い

イグニッションスイッチ (エンジンスイッチ)	136, 139
位置交換 (タイヤローテーション)	281
イベントデータレコーダー (EDR)	8
イモビライザーシステム	55
イルミネーテッドエントリー システム	245
インジケーター (表示灯)	61
インテリアランプ	243
ワット数	385
インナーミラー	114

う

ウインカー (方向指示灯)	154
方向指示レバー	154
ワット数	385
ウインドウ	119
ウォッシャー	162, 164
パワーウインドウ	119
リヤウインドウ デフォッガー	228, 235
ウインドウロックスイッチ	119
ウォーニングランプ (警告灯) ...	324
ウォッシャー	162, 164
液の補給	279
スイッチ	162, 164
タンク容量	384
冬の前の準備・点検	221
動けなくなったときは (スタック)	372
運転	124
運転を補助する装置	214
寒冷時の運転	221
正しい運転姿勢	24
手順	124

え

エアコン	226, 232
エアバッグ	30
SRS エアバッグ警告灯	325
作動条件	34
配置	30
エコドライブ	
インジケーター	69, 79
LED デイライト	159
エレクトリック	
パワーステアリング (EPS) ...	214
機能	214
パワーステアリング	
警告灯	325
エンジン	
エンジンイモビライザー	
システム	55
エンジン回転計	
(タコメーター)	63
エンジンがかからない	
(エンジンが	
始動できない)	360
エンジン警告灯	324
エンジンスイッチ	136, 139
エンジンの始動方法 ...	136, 139
オーバーヒート	369
ボンネット	275
エンジンイモビライザー	
システム	55
エンジンオイル	377
警告灯	324
冬の前の準備・点検	221
メンテナンスデータ	377
エンジンスイッチ	136, 139
エンジンフード (ボンネット) ...	275
開け方	275

エンジンルーム

エンジンルームから	
蒸気が出ている	369

お

オートマチックハイビーム	188
オートレベリングシステム	
(ヘッドランプ)	159
オーバーヒート	369
オープナー	
給油口	167
バックドア	96
ボンネット	275
オイル (エンジンオイル)	377
応急用タイヤ	333
空気圧	384
交換方法	333
お子さまを乗せるとき	39
ウインドウロックスイッチ ...	119
お子さまの安全のために	39
子供専用シート	40
シートベルトの着用	27
チャイルドシートの取り付け ...	48
チャイルドプロテクター	94
オドメーター	67, 74
表示の切りかえ	67, 74

か

カーテンシールドエアバッグ	30
カーペット	272
洗浄	273
フロアマットの取り付け方	22
外気温度表示	63
外装の電球（バルブ）	293
交換要領	293
ワット数	385
買い物フック	252
カスタマイズ機能	386
型式	385
カップホルダー	249
カメラ	
前方カメラ	170
単眼カメラ	170
ガラスの曇り止め （リヤウインドウ デフォッガー）	228, 235
ガレージジャッキ	277
冠水路走行	134
寒冷時の運転	221

き

キー	84
エンジンが始動できない	363
キーナンバープレート	84
キーの構成	84
キーレスエントリー	90, 96
キーをなくした	86, 89
正常に働かない	363
施錠・解錠ができない	363
電子キー	84
電池が切れた	287, 363
メカニカルキー	86
ワイヤレスリモコン	85
キーレスエントリー	90, 96
スマートエントリー& スタートシステム	90, 96
ワイヤレスドアロック	90
給油	166
給油のしかた	166
緊急時シートベルト固定機構	27

緊急時の対処

- エンジンが始動できない..... 360
- オーバーヒートした 369
- キーの電池が切れた 287, 363
- 警告灯がついた 324
- 警告メッセージが
 - 表示された 331
- けん引..... 316
- 故障したときは 310
- シフトレバーが
 - シフトできない 362
- 車両を緊急停止する 314
- スタックした 372
- 電子キーが正常に動かない.... 363
- 発炎筒..... 312
- バッテリーがあがった..... 365
- パンクした..... 333, 346

く

- 空気圧 (タイヤ)..... 384
 - メンテナンスデータ 384
- 区間距離計
 - (トリップメーター) 67, 74
 - 切りかえ・
 - リセットボタン 67, 74
- 曇り取り 227, 235
 - ミラーヒーター 228, 235
 - リヤウインドウ
 - デフォグガー 228, 235
- クラクション (ホーン) 112
- クリアランスランプ (車幅灯) ... 156
 - スイッチ..... 156
 - 電球 (バルブ) の交換..... 293
 - ワット数 385
- クリップ
 - フロアマット 22

- クルーズコントロール.....208
- グローブボックス247

け

- 警告器 (ホーン) 112
- 計器類 (メーター)63
 - 照度調整68, 74
 - 表示灯41
 - マルチインフォメーション
 - ディスプレイ66, 72
- 警告灯.....59
 - ABS & ブレーキアシスト.....325
 - SRS エアバッグ325
 - LED ヘッドランプ325
 - LDA
 - (レーンディパーチャー
 - アラート).....325
 - エンジン324
 - エンジンオイル圧力.....324
 - オートマチック
 - ハイビーム.....325
 - 高水温324
 - シートベルト非着用.....327
 - 充電.....324
 - Stop & Start キャンセル
 - 表示灯326
 - スマートエントリー&
 - スタートシステム
 - 表示灯326
 - スリップ表示灯.....325
 - 燃料残量327
 - パーキングブレーキ.....324
 - パワーステアリング325
 - 半ドア326
 - PCS (プリクラッシュ
 - セーフティシステム)326
 - プリテンショナー325

ブレーキ.....	324
ヘッドランプ	
オートレベリング.....	325
マスターウォーニング	327
4WD	326
警告ブザー	
シートベルト非着用	327
シフトダウン制限	150
衝突警報.....	173
Stop & Start システム.....	201
先行車発進告知	192
パーキングブレーキ	
未解除走行時	324
パワーステアリング	325
半ドア.....	92, 101
半ドア走行時.....	94, 97
ブレーキ.....	324
リバース	151
レーンディパーチャー	
アラート (LDA).....	181
警告メッセージ.....	331
化粧ミラー (バニティミラー) ...	260
けん引.....	316
けん引のしかた	316
フック.....	317

こ

交換

キーの電池	287
タイヤ	333
電球 (バルブ).....	293
ヒューズ	290
工具 (ツール).....	334, 347
航続可能距離	68, 75
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	293
ワット数	385
子供専用シート	40
選択方法	40
取り付け方	48
小物入れ.....	250
コンソールボックス	247
コンライト	
(自動点灯・消灯装置).....	156

さ

サイドエアバッグ	30
サイド方向指示灯	154
電球 (バルブ) の交換	293
方向指示レバー.....	154
ワット数	385
サイドミラー (ドアミラー).....	116
操作.....	116
サンバイザー	260

し

シート.....	107
子供専用シート.....	40
正しい運転姿勢.....	24
調整.....	107
手入れ.....	272
ヘッドレスト.....	110
シートヒーター.....	240
シートベルト.....	26
お子さまの着用.....	27
緊急時シートベルト固定機構... ..	27
シートベルト非着用警告灯....	327
高さ調整.....	26
正しく着用するには.....	26
着け方・はずし方.....	26
手入れ.....	273
妊娠中の方の着用.....	28
シートベルト非着用警告灯.....	327
シートベルトプリテンショナー....	27
プリテンショナー警告灯.....	325
室内灯（インテリアランプ）.....	243
始動のしかた.....	136, 139
シフトポジション.....	147

シフトレバー.....	147, 152
シフトレンジの	
切りかえ.....	147, 152
シフトロックシステム	
（解除ボタン）.....	362
操作.....	147, 152
リバース警告ブザー.....	151
シフトレバーが	
シフトできないときは.....	362
締め付けトルク（ホイール）.....	342
ジャッキ	
ガレージジャッキ.....	277
車載ジャッキ.....	334, 347
ジャッキハンドル.....	334, 347
車幅灯.....	156
電球（バルブ）の交換.....	293
ランプスイッチ.....	156
ワット数.....	385
車両型式.....	385
車両仕様（スペック）.....	376
車両データの記録.....	7
車両を緊急停止するには.....	314
ジュニアシート.....	41
瞬間燃費.....	75
仕様（車両仕様）.....	376
初期化	
マルチインフォメーション	
ディスプレイ.....	78

す

水温計	63
スイッチ	
イグニッション	136, 139
ウインドウロック	119
ウォッシャー	162
LDA	
(レーンディパーチャー	
アラート)	182
エンジンスイッチ	136, 139
オーディオ	263
クルーズコントロール	208
シート調整	107
シートヒーター	240
Stop & Start	
キャンセルスイッチ	198
スポーツモードスイッチ	148
DISP	67, 68
電話	263
ドアミラー	116
ドアロック	93
トーク	263
TRIP	74
パドルシフト	148
パノラマルーフシェード	265
パワーウインドウ	119
PCS (プリクラッシュ	
セーフティシステム)	174
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	311
VSC OFF	215
フォグランプ	161
フロントワイパー	
デアイサー	228, 236
方向指示レバー	154
ホーン (警音器)	112
メーター操作	75

4WD オートモード	212
ランプ	156
リヤウインドウ	
デフォグガー	228, 235
ワイパー	162, 164
スタック	372
ステアリングホイール	
(ハンドル)	112
位置調整	112
ステアリングスイッチ	263
ステアリングロック	144
解除できないとき	137, 144
ストップランプ (制動灯)	
電球 (バルブ) の交換	293
ワット数	385
スノータイヤ (冬用タイヤ)	221
スピードメーター	63, 72
スペアタイヤ (応急用タイヤ) ...	333
空気圧	384
交換方法	333
スペック (車両仕様)	376
スマートエントリー&	
スタートシステム	100
アンテナの位置	100
エンジンの始動	139
カスタマイズ設定	386
警告ブザー	101
作動範囲	101
正常に働かないとき	363
節電機能	102
電波がおよぼす	
影響について	106
ドアの解錠・施錠	90
バックドアの解錠	96
SMART STOP	196

スモールランプ (車幅灯)	156
電球 (バルブ) の交換	293
ランプスイッチ	156
ワット数	385

せ

清掃	268, 272
アルミホイール	269
外装	268
シートベルト	273
内装	272
制動灯	
電球 (バルブ) の交換	293
ワット数	385
積算距離計	
(オドメーター)	67, 74
表示の切りかえ	67, 74
セキュリティインジケータ 55	
先行車発進告知機能	192
センサー	
インナーミラー	115
オートマチックハイビーム	170
先行車発進告知機能	170
前方センサー	170
プリクラッシュ	
セーフティシステム	
(PCS)	170
ライトセンサー	159
レーンディパーチャー	
アラート (LDA)	181
洗車	268
前照灯 (ヘッドランプ)	156
電球 (バルブ) の交換	293
ライトセンサー	159
ランプ消し忘れ防止機能	159
ランプスイッチ	156
ワット数	385

前方センサー	170
--------------	-----

そ

走行モード	
(ドライブモード)	148
速度計	
(スピードメーター)	63

た

ターンシグナルランプ	
(方向指示灯)	154
電球 (バルブ) の交換	293
方向指示レバー	154
ワット数	385
タイヤ	281
応急用タイヤ	333
空気圧	285, 384
交換	333
締め付けトルク	342
低扁平タイヤ	284
点検	281
パンク応急修理キット	346
パンクしたときは	333, 346
ホイールサイズ	384
ローテーション	
(位置交換)	281
タイヤが空まわりする	
(スタックした)	372
タイヤチェーン	221
タコメーター	63

ち

チェーン (タイヤチェーン)	221
チャイルドシート	40
ISOFIX バーでの取り付け	50
シートベルトでの固定	49
選択方法	40

チャイルドプロテクター	94
駐車ブレーキ	
(パーキングブレーキ)	155
操作	155
パーキングブレーキ警告灯....	324
未解除走行時警告ブザー.....	324
メンテナンスデータ	383

つ

ツール (工具).....	334, 347
---------------	----------

て

ディファレンシャル.....	382
低扁平タイヤ	284
手入れ	268, 272
アルミホイール	269
外装	268
シートベルト	273
内装	272
テールランプ (尾灯).....	156
電球 (バルブ) の交換.....	293
ランプスイッチ	156
デッキフック	252
デフォッガー	
(リヤウインドウ	
デフォッガー).....	228, 235
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ).....	293
ワット数.....	385
点検基準値	
(メンテナンスデータ)	376
電子キー	84
作動範囲.....	101
正常に働かないとき	363
節電機能.....	103

電池が切れた	363
電池交換	287
電池交換 (キー)	287

と

ドア	90
スマートエントリー&	
スタートシステム.....	90, 96
チャイルドプロテクター	94
ドアガラス	119
ドアロックスイッチ	93
バックドア	96
半ドア警告灯	326
半ドア走行時	
警告ブザー.....	94, 97
ロックレバー	93
ワイヤレスリモコン	90
ドアミラー.....	116
操作.....	116
盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム	55
時計	261
トップテザーアンカー.....	48
Toyota Stop &	
Start System.....	196
アイドリングストップ	
時間.....	67, 77
Stop & Start キャンセル	
表示灯	198
Stop & Start システム	196
Stop & Start 表示灯	196
Toyota Safety Sense C.....	169
ドライブ	
インフォメーション.....	67, 75
トラクションコントロール	
(TRC)	214

トランスミッション.....	147, 152
シフトダウン	
制限警告ブザー.....	150
操作.....	147, 152
パドルシフトスイッチ.....	148
メンテナンスデータ.....	381
トリップ	
インフォメーション.....	67, 74
トリップメーター.....	67, 74
切りかえ・	
リセットボタン.....	67, 74

な

内装

収納装備.....	246
手入れ.....	272

に

荷物

積むときの注意.....	135
バックドア.....	96

ぬ

ぬかるみにはまった	
(スタック).....	372

ね

燃料.....	376
給油.....	166
種類.....	376
燃料残量警告灯.....	327
容量.....	376
燃料計.....	63

は

パーキングブレーキ.....	155
操作.....	155
ブレーキ警告灯.....	324
未解除走行時警告ブザー.....	324
メンテナンスデータ.....	383
パーソナルランプ.....	244
ワット数.....	385
排気ガス.....	54
ハイビーム (ヘッドランプ).....	157
オートマチックハイビーム.....	188
電球 (バルブ) の交換.....	293
ランプスイッチ.....	156
ワット数.....	385
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換.....	304
ハザードランプ (非常点滅灯).....	311
緊急ブレーキシグナル.....	214
スイッチ.....	311
電球 (バルブ) の交換.....	293
ワット数.....	385
挟み込み防止機能	
パノラマルーフシェード.....	265
パワーウィンドウ.....	120
発炎筒.....	312
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換.....	293
ワット数.....	385
バックドアオープナー.....	96
パッケージトレイ.....	258

バッテリーがあがった	365
パドルシフトスイッチ	148
バニティ (化粧用) ミラー	260
バニティミラーランプ	244
ワット数	385
パノラマルーフシェード	265
操作	265
挟み込み防止機能	265
バルブ (電球)	
交換要領 (外装のバルブ)	293
ワット数	385
パワーウィンドウ	119
ウィンドウロックスイッチ ...	119
閉めることができない	
ときは	121
操作	119
挟み込み防止機能	120
パワーステアリング	214
パワーステアリング警告灯 ...	325
パンクした	
応急用タイヤ装着車	333
タイヤパンク応急修理キット	
装着車	346
番号灯	
(ライセンスプレートランプ) ...	156
電球 (バルブ) の交換	293
ランプスイッチ	156
ワット数	385
ハンドル	
(ステアリングホイール)	112
位置調整	112
ステアリングスイッチ	263

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	214
ヒーター	
オートエアコン	232
シートヒーター	240
マニュアルエアコン	226
ミラーヒーター	228, 235
非常点滅灯 (ハザードランプ) ...	311
緊急ブレーキシグナル	214
スイッチ	311
電球 (バルブ) の交換	293
ワット数	385
尾灯 (テールランプ)	156
電球 (バルブ) の交換	293
ランプスイッチ	156
ヒューズ	290
表示灯	61
日よけ (サンバイザー)	260
ヒルスタートアシスト	
コントロール	214

ふ

ブースターケーブルの	
つなぎ方	365
フォグランプ	161
スイッチ	161
電球（バルブ）の交換	293
ワット数	385
ブザー	
シートベルト非着用警告	327
シフトダウン制限警告	150
衝突警報	173
Stop & Start システム	
警告	201
先行車発進告知	192
パーキングブレーキ未解除	
走行時警告	324
半ドア警告	92, 101
半ドア走行時警告	94, 97
ブレーキ警告	324
リバース警告	151
レーンディパーチャー	
アラート（LDA）警告	181
フック	
買い物フック	252
けん引フック	317
デッキフック	252
フロアマット固定フック	22
フューエルメーター	
（燃料計）	63
フューエルリッド（給油口）	166
給油のしかた	166
冬の前の準備（寒冷時の運転） ..	221
冬用タイヤ	221
ブリクラッシュ	
セーフティシステム	
（PCS）	173
PCS スイッチ	174

ブレーキ

パーキングブレーキ	155
ブレーキ警告灯	324
メンテナンスデータ	383
ブレーキアシスト	214
ABS & ブレーキアシスト	
警告灯	325
ブレーキ付近からキーキー音が	
聞こえる	130
ブレーキフルード	383
フロアボード	256
フロアマット	22
フロントシート	107
シートヒーター	240
正しい運転姿勢	24
調整	107
手入れ	272
ヘッドレスト	110
フロントパーソナルランプ	244
フロントフォグランプ	161
スイッチ	161
電球（バルブ）の交換	293
ワット数	385
フロント方向指示灯	154
電球（バルブ）の交換	293
方向指示レバー	154
ワット数	385
フロントワイパー	
デアイサー	228, 236

へ

平均車速	75
平均燃費	68, 75
ヘッドランプ	156
電球（バルブ）の交換.....	293
ライトセンサー	159
ランプ消し忘れ防止機能.....	159
ランプスイッチ	156
ワット数	385
ヘッドランプオートレベリング	
システム	159
ヘッドレスト	110
ベビーシート	41

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）.....	333
メンテナンスデータ	384
方向指示灯	154
電球（バルブ）の交換.....	293
方向指示レバー	154
ワット数	385
ホーン（警音器）.....	112
保証	9
ボンネット	275
開け方.....	275

ま

マスターウォーニング.....	327
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	66, 72
警告メッセージ.....	331
設定.....	68, 78
Toyota Stop & Start	
System.....	204
ドライブ	
インフォメーション	67, 75
トリップ	
インフォメーション	67, 74
プリクラッシュ	
セーフティシステム	
(PC)S)	173, 174
レーンディパーチャー	
アラート (LDA)	183, 184

み

ミラー	
インナーミラー.....	114
ドアミラー	116
バニティミラー.....	260

め

メーター（計器類）.....	63
警告灯	324
照度調整	68, 74
設定.....	68, 78
表示灯	61
マルチインフォメーション	
ディスプレイ.....	66, 72
メカニカルキー	86
メンテナンスデータ	376

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	386
雪道ですべて動けない （スタックした）	372
油脂類	376

ら

ライセンスプレートランプ （番号灯）	156
電球（バルブ）の交換	293
ランプスイッチ	156
ワット数	385
ラゲージアンダートレイ	256
ラゲージサイドトレイ	257
ラゲージルーム	96
ラゲージルームランプ	97
ラジエーター オーバーヒート	369
メンテナンスデータ	381
ランプ 室内灯	242
電球（バルブ）の交換	293
パーソナルランプ	244
非常点滅灯 （ハザードランプ）	311
フロントフォグランプ	161
ヘッドランプ（前照灯）	156
方向指示灯（ターンシグナル ランプ/ウインカー）	154
ライトセンサー	159
ランプ消し忘れ防止機能	159
ワット数	385
ランプ消し忘れ防止機能	159

り

リヤアームレスト	264
リヤウインドウ デフォッガー スイッチ	228, 235
リヤパーソナルランプ	245
リヤ方向指示灯	154
電球（バルブ）の交換	293
方向指示レバー	154
ワット数	385

る

ルームミラー （インナーミラー）	114
---------------------------	-----

れ

冷却水	381
水温計	63
冬の前の準備	221
メンテナンスデータ	381
冷却装置（ラジエーター）	381
オーバーヒート	369
メンテナンスデータ	381
レーンディパーチャー アラート（LDA）	181
レバー シフト	147, 152
ハンドル位置調整	112
方向指示	154
ボンネット解除	275
ロック（ドア）	93

ろ

ロック

ウインドウロック	119
シフトロック	362
スマートエントリー& スタートシステム.....	90, 96
チャイルドプロテクター.....	94
ドア	90
ワイヤレスリモコン	90

わ

ワイパー& ウォッシャー.....	162
ワイパーブレード (寒冷地用) ...	222
ワイヤレスリモコン	85
作動の合図.....	91
操作	90
電池の交換.....	287
半ドア警告ブザー	92
ワックス	268
ワット数.....	385

--	--



ガソリンスタンドでの情報

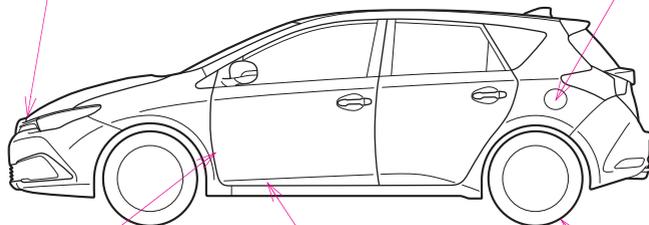
給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 275

給油口

P. 167



CTHPIAP193

ボンネット解除レバー

P. 275

給油口オープナー

P. 166

タイヤ空気圧

P. 384

燃料の容量 (参考値)	50L
燃料の種類	P. 376
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 384
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 1NZ-FE エンジン車： 3.4L 2ZR-FAE エンジン車： 3.9L 8NR-FTS エンジン車： 3.7L オイルとフィルター交換時 1NZ-FE エンジン車： 3.7L 2ZR-FAE エンジン車： 4.2L 8NR-FTS エンジン車： 4.0L
エンジンオイルの種類	P. 377

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450 - 8711 名古屋市東区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp/>にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>



M 12J54
01999-12J54
NAC-2015年10月14日
2015年4月6日 初版
2015年10月21日 4版
オーリス